PENTAX®

デジタル一眼レフカメラ

*ist Ds2

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラ*ist DS2をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズついて

このカメラで使用できるレンズは、基本的にDA・D FA・FA Jまたは絞り**A**（オート）のポジションのあるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.37およびp.182をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、smc PENTAXはペンタックス株式会社の登録商標です。
SD SDロゴは商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンターとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび液晶モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一、電池を飲みこんだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプターをご使用になったり、専用のACアダプターを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、電池またはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損・火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 充電式のニッケル水素充電池以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。このカメラに使用できる電池の種類で、ニッケル水素充電池以外は充電ができません。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- ストロボ発光部に手を密着させたり、衣服をかぶせたまま発光させないでください。火傷を負ったり、衣服が焦げる恐れがあります。

電池の取り扱いについての注意

- このカメラでは、決められた電池以外は使用しないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池を交換するときは、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 電池の「+」と「−」の向きを間違えて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
- 単3形リチウム電池、単3形アルカリ電池、CR-V3は充電ができません。また分解はしないでください。無理に充電や分解をすると、破裂や液漏れの原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像の記録内容の保証についてはご容赦ください。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.30）をご覧ください。
- レンズ、ファインダー窓のホコリは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロワーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
- CCDの清掃につきましては、できるだけ当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）
- 破損や故障の原因になりますので、液晶モニターの表面を強く押さないでください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属していますCD-ROMと弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PENTAX PHOTO Browser 2.1／PENTAX PHOTO Laboratory 2.1 使用説明書」（Windowsをお使いの方：p.10、Mac OSをお使いの方：p.12）をご参照ください。

目次

使ってみよう　41

メニューリファレンス 91

機能リファレンス 107

付録 175

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

カメラの特長や付属品、各部の名称について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影をはじめる前に、操作を行なってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法、印刷の方法を説明しています。この章を読めば、撮影、再生、印刷のすべての基本操作がわかります。

4 メニューリファレンス

*istDS2の機能をボタンやメニューごとに解説します。

5 機能リファレンス

*istDS2をより深く使いこなすための機能をご紹介します。

6 付録

困ったときの対処のしかたや別売品の案内、各種資料を記載しています。

1
2
3
4
5
6

操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

お使いになる前に、同梱品とカメラ各部の名称を確認してください。

*istDS2カメラの特長

- 23.5×15.7mm、有効画素数610万画素のCCDを採用し、高精細、高ダイナミックレンジの撮影ができます。
- 11点測距AFセンサー（中央部9点はワイドクロスエリアAF）を搭載しています。
- 倍率0.95 倍で従来の35mmカメラと違和感のないファインダーで、マニュアルによるピント合わせが簡単に行えます。また、ファインダーには測距点が赤く光るスーパーインポーズ機能を搭載しています。
- CR-V3、単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素充電池、単3形アルカリ電池が使用できます。
- 液晶モニターには、2.5型の大型液晶を採用。約21万画素の高精細、明るさ調整機能付きで見やすさを向上させています。
- ユニバーサルデザインの考え方を随所に導入し、大きな文字とハイコントラストで見やすい大型液晶モニター、わかりやすいメニューにより、さらに操作しやすくなりました。

35mm判一眼レフカメラと*istDS2では、35mm判フィルムとCCDのフォーマットサイズが異なるために、同じレンズを使用しても写る範囲（画角）は同じにはなりません。

35mm判フィルムとCCDの大きさ

35mm判フィルム ：36×24mm
*istDS2のCCD：23.5×15.7mm

*istDS2と35mm判カメラでほぼ同じ範囲（画角）を撮影するには、35mm判カメラのレンズの焦点距離を約1.5で割った焦点距離のレンズを使用してください。

例）35mm判カメラで150mmのレンズを使う場合と同じ画角にするには、

150÷1.5＝100

*istDS2では、100mmのレンズを使用すれば良いことになります。

逆に、*istDS2で使用しているレンズの焦点距離を35mm判カメラの焦点距離に換算するには、約1.5倍してください。

例）*istDS2に300mmレンズを使用した場合、

300×1.5＝450

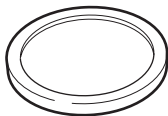
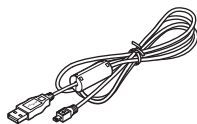
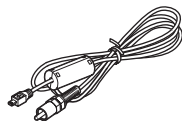
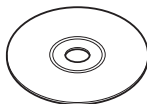
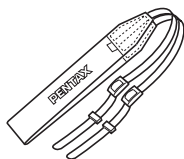
35mm判カメラで450mmレンズ相当を使用したのと同じになります。

主な同梱品の確認

このカメラには以下の付属品が同梱されています。
カメラをお使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

ホットシューカバー FK（カメラ装着）

アイカップFL（カメラ装着）

MEファインダーキャップ

ボディーマウントカバー（カメラ装着）

USBケーブル I-USB17

ビデオケーブル I-VC28

ソフトウェア（CD-ROM）S-SW43

ストラップ O-ST10

単3形アルカリ電池※（4本）

使用説明書（本書）

PENTAX PHOTO Browser 2.1／PENTAX PHOTO Laboratory 2.1 使用説明書

保証書

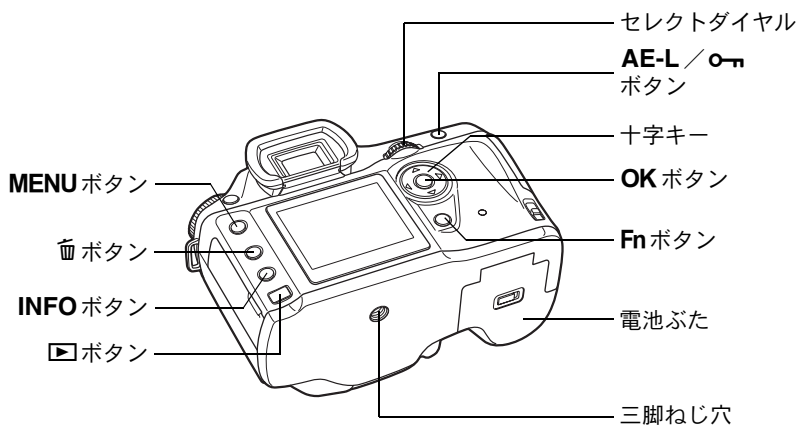
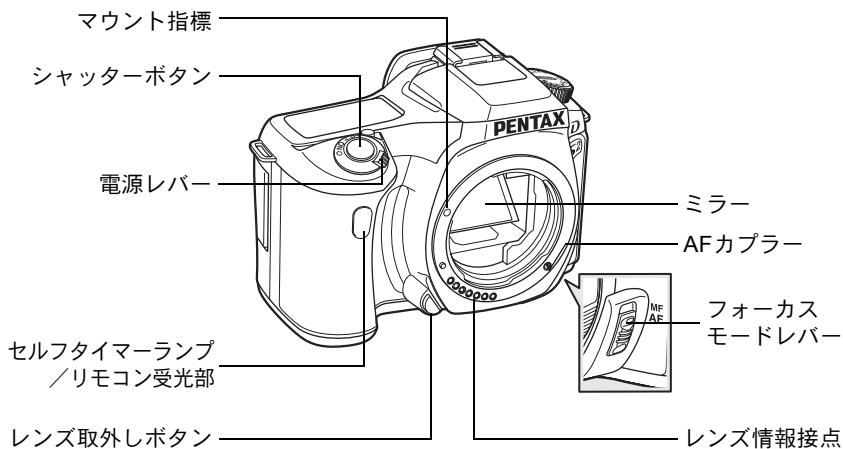
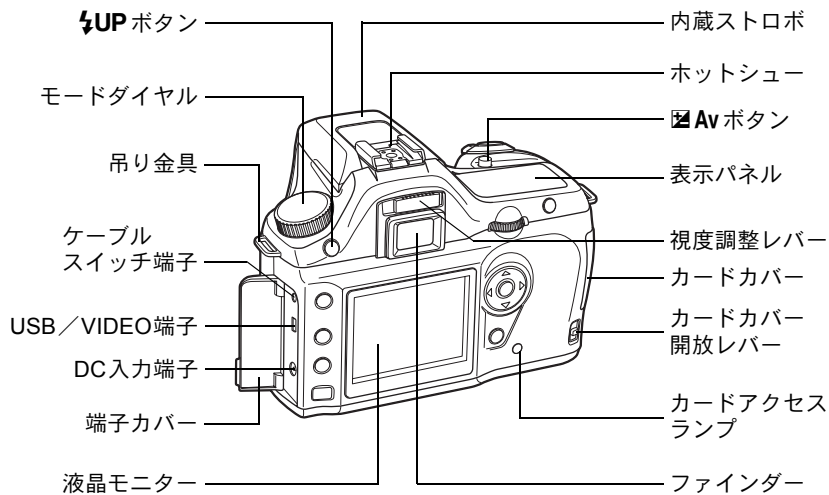
※ 同梱の電池は、動作確認用のサンプルです。

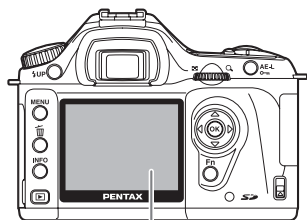
各部の名称

本体

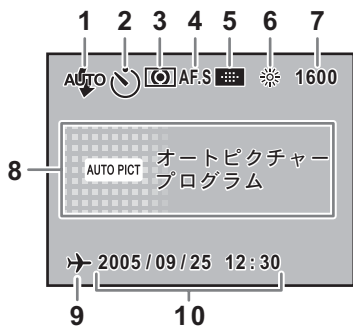
マウント指標
シャッターボタン
電源レバー
セルフタイマーランプ
／リモコン受光部
レンズ取外しボタン
ミラー
AFカプラー
フォーカス
モードレバー
MF
AF
レンズ情報接点
PENTAX

セレクトダイヤル
AE-L／ボタン
十字キー
OKボタン
Fnボタン
電池ぶた
三脚ねじ穴
MENUボタン
ボタン
INFOボタン
ボタン

UP ボタン
モードダイヤル
吊り金具
ケーブル
スイッチ端子
USB／VIDEO端子
DC入力端子
端子カバー
液晶モニター
内蔵ストロボ
ホットシュー
Av ボタン
表示パネル
視度調整レバー
カードカバー
カードカバー
開放レバー
カードアクセス
ランプ
ファインダー

液晶モニターのガイド表示

液晶モニターに表示される内容は、カメラの状態ごとに次のようになります。

電源オン時またはモードダイヤル操作時

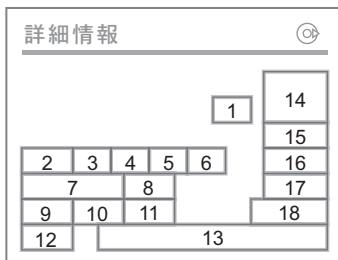
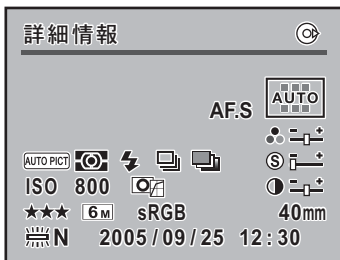
電源オン時、またはモードダイヤルを回したときに、液晶モニターに3秒間ガイド表示されます。

「詳細設定」メニューの「ガイド表示」を「オフ」にすると、表示されません。（p.99）

1 ストロボモード（有効なモードを表示）（p.49）
2 ドライブモード（p.102）
3 測光方式（p.131）
4 AFモード（p.121）
5 測距点切り替え（p.122）
6 ホワイトバランス設定（p.112）
7 感度設定（p.115）
8 撮影モード（モードダイヤル位置）（p.104）
9 ワールドタイム警告表示（p.165）
10 現在の日時（p.164）

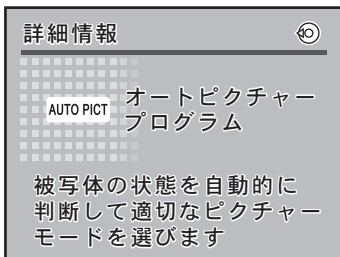
※ 3、4、5、6、7は標準設定以外にセットしたときだけ、9 はワールドタイム設定をオンにしているときだけアイコンが表示されます。

撮影時

撮影時に**INFO**ボタンを押すと、液晶モニターに撮影機能の設定内容が15秒間表示されます。

● 詳細情報表示

1 AFモード（p.121）
2 撮影モード（p.104）
3 測光方式（p.131）
4 ストロボモード（p.49）
5 ドライブモード（p.102）
6 オートブラケット（p.146）
7 ISO感度（p.115）
8 画像仕上（p.108）
9 画質（p.110）
10 記録サイズ（p.109）
11 色空間（p.117）
12 ホワイトバランス（p.112）
13 現在の日時（p.164）
14 測距点位置（p.122）
15 彩度（p.111）
16 シャープネス（p.111）
17 コントラスト（p.111）
18 レンズ焦点距離

詳細情報表示画面で十字キー（▶）を押すと、設定されているモードダイヤルの説明画面が表示されます。

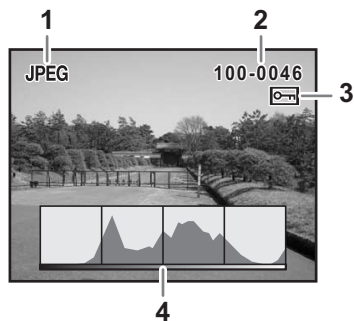
● モードダイヤル説明

再生時

画像再生時に**INFO**ボタンを押すごとに、画面表示が切り替わります。

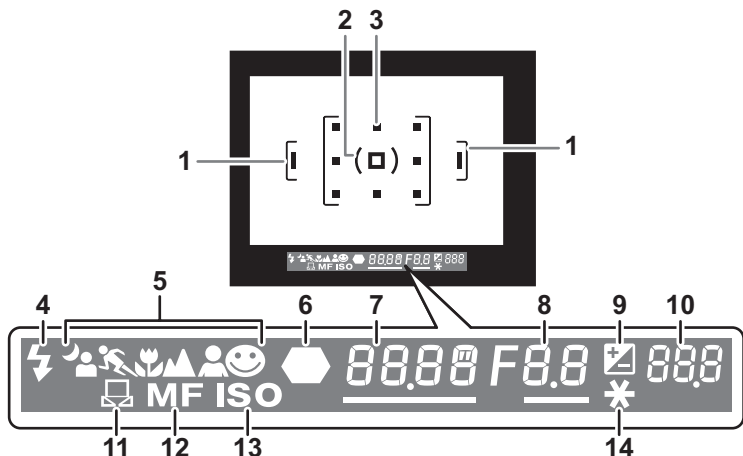
▶ボタンを押したとき、はじめに表示する情報を変更できます。（p.161）

● 詳細情報表示

1 撮影画像
2 回転アイコン（p.64）
3 画像のフォルダ番号とファイル番号（p.170）
4 画像プロテクト表示（p.77）
5 AFモード（p.121）
6 測距点情報（p.122）
7 シャッター速度（p.135）
8 絞り値（p.137）
9 露出補正値（p.142）
10 彩度（p.111）
11 撮影モード（p.104）
12 測光方式（p.131）
13 ストロボモード（p.49）
14 ドライブモード（p.102）
15 オートブラケット（p.146）
16 シャープネス（p.111）
17 ISO感度（p.115）
18 画像仕上（p.108）
19 コントラスト（p.111）
20 画質（p.110）
21 記録サイズ（p.109）
22 色空間（p.117）
23 レンズ焦点距離
24 ホワイトバランス（p.112）
25 撮影日時（p.164）

● **ヒストグラム表示**

1 撮影画質（記録方式）
2 画像のフォルダ番号とファイル番号（p.170）
3 画像プロテクト表示（p.77）
4 ヒストグラム

- 白飛び警告表示をオンにすると、白飛び部分が点滅表示されます。（p.161）
- ヒストグラム表示中に十字キー（▲▼）を押すと、ヒストグラムの表示位置を上下に移動することができます。

ファインダーの表示ガイド

1　AFフレーム（p.39）
2　スポット測光フレーム（p.131）
3　測距点（p.122）
4　ストロボ発光表示（p.49）
ストロボ発光可能なときは点灯、ストロボがお勧めなのに発光する設定になっていないときは点滅する
5　ピクチャーモードアイコン（p.47）
ピクチャーモードで撮影する場合、撮影時のピクチャーモードどれか1種類が点灯
夜景人物、動体、マクロ、風景、人物、標準
6　合焦マーク（p.44）
合焦したとき（ピントが合ったとき）に点灯
7　シャッター速度（p.135）
撮影時および調整時のシャッター速度（セレクトダイヤルによるシャッター速度調整が可能なときはアンダーラインが点灯）
8　絞り値（p.137）
撮影時および調整時の絞り値（セレクトダイヤルによる絞り調整が可能なときはアンダーラインが点灯）

9 露出補正表示（p.142）
露出補正有効時、露出補正調整時に点灯
ストロボ光量補正時はゆっくり点滅
露出補正調整かつストロボ光量補正時は早く点滅
調整値は撮影可能枚数の表示位置に表示

10 撮影可能枚数／露出補正値
現在の画質、記録サイズ設定であと何枚撮影できるかを表示
連続撮影可能枚数を表示（p.100）
露出補正調整時には露出補正値を表示（p.134）
露出モードが**M**のときは、適正露出値との差を表示（p.139）

11 マニュアルホワイトバランス表示（p.113）
マニュアルホワイトバランス動作時に点灯、調整中は点滅

12 マニュアルフォーカス表示（p.126）
フォーカスモードが**MF**の場合に点灯

13 ISO警告表示（p.116）
警告設定値以上のISO感度の場合に点灯

14 AEロック表示（p.143）
AEロック中に点灯

シャッターボタンを半押しにすると、オートフォーカスに使われた測距点が赤くスーパーインポーズされます。（p.122）

表示パネルの表示ガイド

カメラ上部の表示パネルには次のような情報が表示されます。

1 シャッター速度（p.135）

2 絞り値（p.137）

3 ストロボモード表示（p.49）

- ϟ ：内蔵ストロボ充電完了（点滅はストロボお勧め）
- ⊛ ：発光禁止
- ϟAUTO ：自動発光
- ◉ ：赤目軽減機能有効

4 ドライブモード（p.102）

- □ ：1コマ撮影
- ⧉ ：連続撮影
- ⏲ ：セルフタイマー撮影
- ▯ ：リモコンモード撮影

5 測距点情報（p.122）

- 表示なし：オート
- ⊞ ：セレクト
- [·] ：中央

6 測光方式（p.131）

- 表示なし：分割測光
- [◎] ：中央重点測光
- [•] ：スポット測光

7 オートブラケット（p.146）

8 ホワイトバランス（p.112）（オート設定時は非表示）

9 電池残量表示

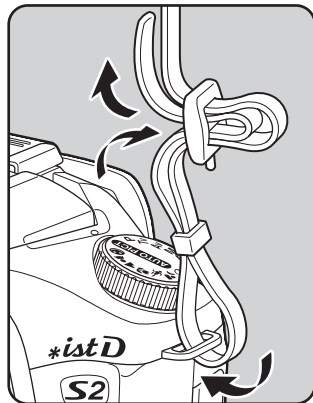
10 露出補正表示（p.142）

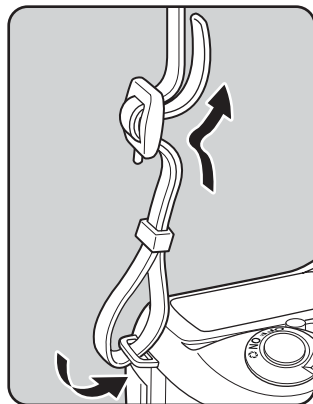
11 撮影可能枚数／露出補正値／PC（Pb）
（PC：マスストレージ、
Pb：PictBridge）

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮るまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影をはじめる前に、操作を行なってください。

ストラップを取り付ける

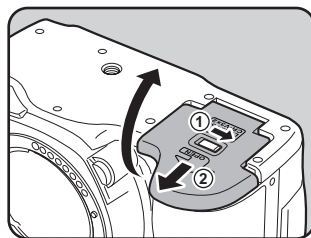
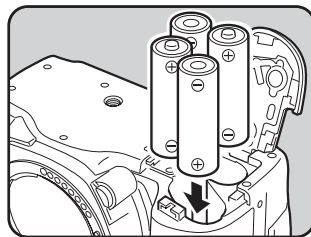
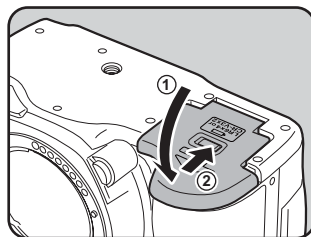
1 **ストラップの先端をカメラの吊り金具に通し、留め具の内側になるように固定する**

2 **もう一方のストラップの先端をカメラのもう一方の吊り金具に通し、留め具の内側になるように固定する**

電池を入れる

カメラに電池をセットします。電池はCR-V3を2本、または、単3形ニッケル水素充電池、単3形リチウム電池、単3形アルカリ電池のいずれか4本を使用します。

本機は動作確認用として、単3形アルカリ電池を同梱していますが、他にも使用できる電池があります。「電池について」(p.26)をご覧いただき、用途に合った電池を選んでご使用ください。

注意

- CR-V3、単3形リチウム電池、単3形アルカリ電池は充電式ではありません。
- 電源がオンのときは、電池ぶたを開けたり、電池を取り出したりしないでください。
- 長い間使わないときは、電池を取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、電池が液もれをすることがあります。
- 長時間電池を取り外して、新しく電池を入れたときに日時がリセットされていたら、「日時を設定する」の手順に従って、設定しなおしてください。(p.35)
- 電池は正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。また、電池の電極はよく拭いてから入れてください。
- 電池は、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で交換してください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。

1 電池ぶた開放レバーを矢印の方向(①)に押しながら、電池ぶたをレンズ側にスライド(②)させてから引き上げる

2 電池の向きを電池室内の「+」「−」表示に合わせて、挿入する

3 電池ぶたで電池を押さえながら電池ぶたを閉め（①）、矢印の方向にスライドさせる（②）

- 長時間ご使用になるときは、ACアダプター（別売品）をご使用ください。（p.28）
- 電池交換をしても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

電池について

このカメラでは、以下の4種類の電池を使用することができます。電池の特性は種類によって異なりますので、用途にあわせて電池をお選びください。

CR-V3	寿命が長いので、旅行などに便利です。
単3形ニッケル水素充電池（Ni-MH）	充電して繰り返し使用することができるので経済的です。
単3形リチウム電池	低温に強く、寒い地域での撮影に向いています。
単3形アルカリ電池	同梱品の電池です。お使いの電池が消耗してしまっても、容易に入手できます。ただし、使用条件によっては、カメラの性能を十分に発揮させられない場合がありますので、緊急用や動作確認用として以外は、使用をお勧めしません。

オキシライド電池とCR-V3タイプの充電池は、電圧特性上、誤作動の恐れがあるため使用をお勧めしません。

電池容量の確認

表示パネルに表示された▰▰で、電池の残量を確認することができます。

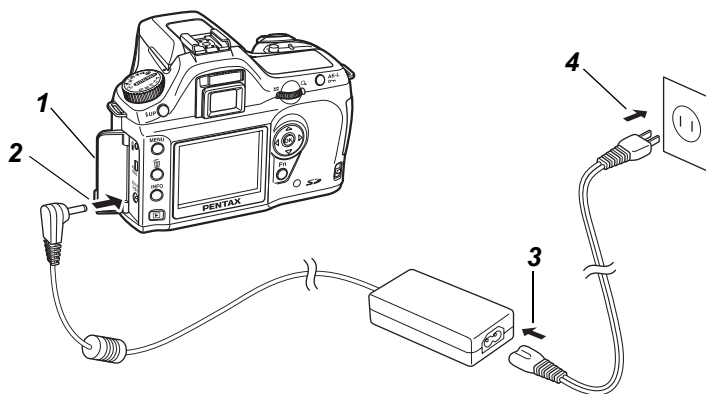
▰▰	点灯	：	電池がまだ十分に残っています。
↓			
▱▰	点灯	：	容量が少なくなりました。
↓			
▱▱	点灯	：	残量がほとんどありません。
↓			
▱▱	点滅	：	メッセージの表示後、電源オフとなります。

撮影可能枚数と再生時間（新品電池交換時）

電池 （使用温度）		一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
CR-V3	（23°C）	850枚	750枚	650枚	700分
	（ 0°C）	560枚	500枚	410枚	470分
単3形リチウム電池	（23°C）	750枚	650枚	550枚	470分
	（ 0°C）	670枚	570枚	470枚	400分
単3形ニッケル水素充電池（2500mAh）	（23°C）	560枚	500枚	440枚	350分
	（ 0°C）	500枚	440枚	380枚	300分
単3形アルカリ電池	（23°C）	90枚	70枚	50枚	140分
	（ 0°C）	不適	不適	不適	70分

静止画撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件、再生時間については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

- 使用環境温度が下がると、電池の性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備の電池を用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下した電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 単3形アルカリ電池は特性上、カメラの性能を十分に発揮させられない場合がありますので、緊急用や動作確認用として以外は、使用をお勧めしません。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備電池をご用意ください。

ACアダプターを使用する（別売品）

液晶モニターを長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプターキットK-AC10J（別売）のご使用をお勧めします。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認してから、端子カバーを開ける

2 ACアダプターのDC端子を、カメラのDC入力端子に接続する

3 ACコードをACアダプターに接続する

4 コンセントに電源プラグを差し込む

- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をオフにした状態で行なってください。
- カメラやACアダプター、ACコード端子、コンセントはしっかり差し込んでください。カメラがSDメモリーカードにデータを記録、または読み出している間に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損する恐れがあります。

- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC10Jの使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプターを接続しても、カメラ内の充電池を充電することはできません。

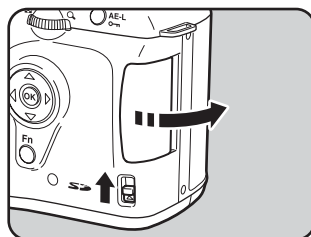
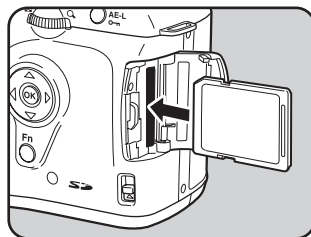
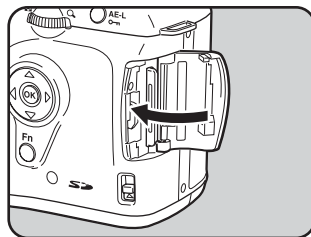
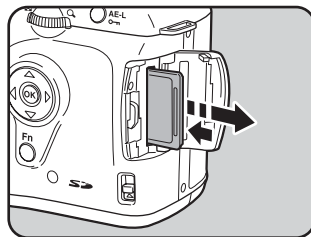
SDメモリーカードを入れる／取り出す

撮影した画像は、SDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカード（市販品）を入れるときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。

注意

- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.163）をご覧ください。

1 カードカバー開放レバーを矢印の方向に押す

カードカバーが開きます。

2 SDメモリーカードのラベル面を液晶モニター側に向け、奥まで押し込む

3 カードカバーを閉じる

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをいったん押し込みます。

SDメモリーカード使用上の注意

- SD メモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録、消去またはカードのフォーマットをすることが禁止され、それまでに保存したデータが保護されます。

- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータ記録中や、画像の再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SD メモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- SDメモリーカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。☞SDメモリーカードをフォーマットする（p.163）

画像の記録サイズと画質

撮影する画像の記録サイズ（縦横の大きさ）と画質（画像記録時のデータ圧縮率）は、撮影後の画像の用途に応じて設定します。
記録サイズの数値や画質の★の数は、多くなるほどプリントしたときに鮮明な画像を得ることができます。しかし、画像の容量が増えるので、撮影できる枚数（カメラのSDメモリーカードに記録できる枚数）は少なくなります。
また、撮影した写真や印刷した写真の美しさ、鮮明さには、画質設定や露出制御などの撮影時設定や使用するプリンターの解像度なども関係してきますので、記録サイズをむやみに大きくする必要はありません。例えば、はがきサイズにプリントする場合は、1.5M（1536×1024）程度が目安となります。用途に応じて適切な記録サイズと画質を設定してください。

画像の記録サイズと画質の設定は、「撮影」メニューで行います。
☞記録サイズを設定する（p.109）
☞画質を設定する（p.110）

● **記録サイズ／画質と撮影可能枚数の目安**

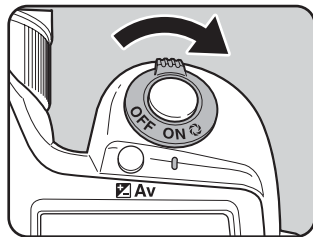
記録サイズ ＼ 画質		RAW	★★★ S.ファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
6M	（3008×2008）	11枚	―	―	―
	（3008×2000）	―	34枚	70枚	117枚
4M	（2400×1600）	―	51枚	96枚	161枚
1.5M	（1536×1024）	―	106枚	173枚	271枚

- この表の数値は、128MBのSDメモリーカードを使用した場合の枚数です。
- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

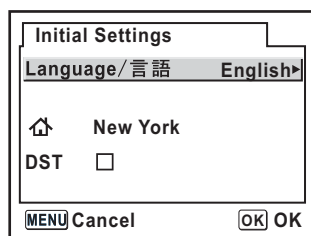
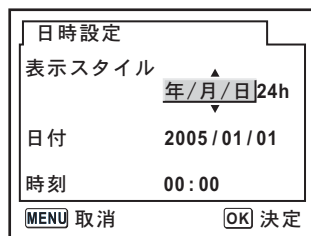
電源を入れる

1 電源レバーを「ON」の位置に合わせる

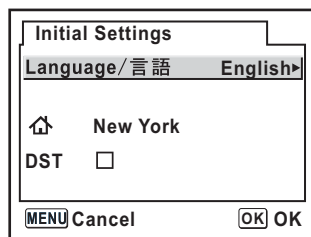
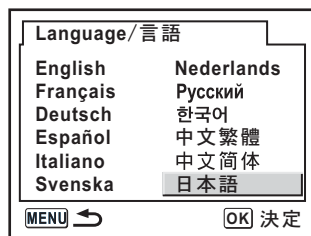
電源がオンになります。

電源レバーを「OFF」の位置に合わせると電源がオフになります。

- カメラを使用しないときは、必ず電源をオフにしてください。
- 一定時間操作をしないで放置すると、自動的に電源がオフになります。（初期設定では1分間）（p.170）

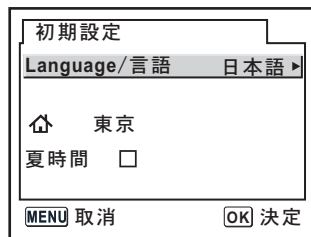
初期設定をする

工場出荷後カメラの電源を初めてオンにすると、液晶モニターに「Initial Settings」（初期設定）の画面が表示されます。下記の手順にしたがって、液晶モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定をする必要はありません。

日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」（p.35）の手順に従って日時を設定してください。

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

3 OKボタンを押す

「日本語」を選んだときに東京（⌂）、□（夏時間）が右図のように表示されていたら、手順8に進んでください。

初期設定
Language/言語　日本語 ▸
⌂　東京
夏時間　□
MENU 取消　OK 決定

4 十字キー（▼）を押す

カーソルが「⌂」に移動します。

5 十字キー（◀▶）を押して、「東京」を表示させる

6 十字キー（▼）を押す

カーソルが夏時間の□に移動します。

7 十字キー（◀▶）を押して、□（オフ）に設定する

8 OKボタンを押す

日時を設定する画面が表示されます。

言語設定を間違えてしまったら

次の通りに操作していただければ、「Language/言語」画面を表示できますので、p.33の手順2から、設定をやり直してください。

1. カメラの電源を入れ直す
2. MENUボタンを押す
3. 十字キー（▶）を2回押す
4. 十字キー（▼）を5回押す
5. 十字キー（▶）を1回押す

「Language/言語」画面が表示されます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）を押して、日付の表示スタイルを設定する

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）を押して、24h（24 時間表示）または 12h（12時間表示）を設定する

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

8 十字キー（▲▼）を押して、西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻欄を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

9 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。メニュー操作で設定した場合は「X詳細設定」メニューに戻りますので、もう一度**OK**ボタンを押してください。

初期設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。

- 日時の設定終了後**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定が行えます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。（p.164、p.168）

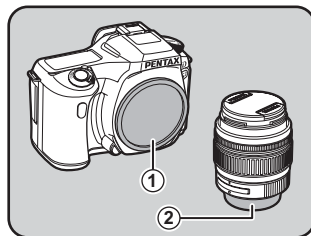
レンズを取り付ける

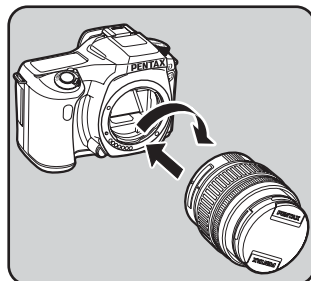
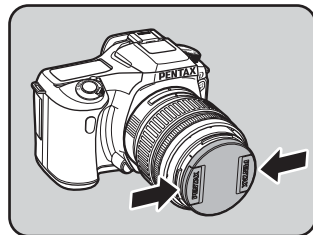
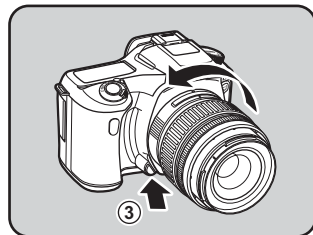
DA・D FA・FA Jレンズ、または絞り**A**（オート）のポジションのあるレンズを使用すると、カメラの露出モードをすべて利用できます。絞り**A**（オート）以外での使用には機能制限があります。「絞りリングの使用」設定時の注意（p.182）もご覧ください。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、工場出荷時の設定では、カメラが作動しなくなります。カスタムファンクションで絞りリングの使用でレリーズ許可を設定してください。（p.101）

不用意なレンズの動きを防ぐため、レンズの着脱は電源オフで行なってください。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 ボディマウントカバー（①）とレンズカバー（②）を取り外す

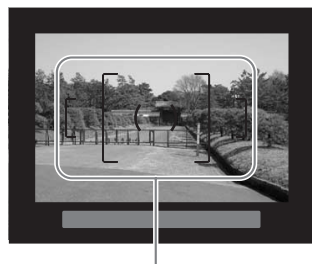
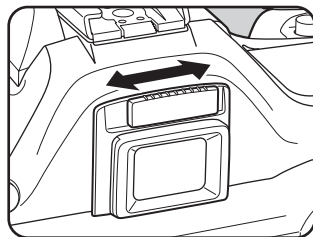
レンズカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズの赤点を合わせ、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

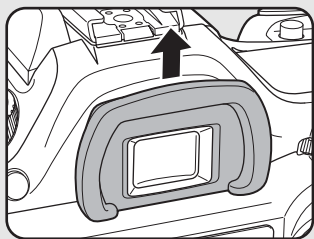
レンズ取り付け後、確実にロックされていることを確認してください。レンズの赤点が真上にあり、取り付け部が左右に動かないことを確認してください。

4 図のように矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す

レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン（③）を押しながらレンズを左へ回してください。

- ボディマウントカバー（①）は工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。別売アクセサリーとしてロック機構付きのボディーマウントキャップKをご用意しています。
- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

ファインダーの視度を調整する

撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度を調整することができます。
ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整レバーを左右に動かして、見やすい位置に調整してください。
視度は、$-2.5m^{-1}$～$+1.5m^{-1}$の範囲で調整できます。

1 カメラを明るい方へ向けて、ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内の測距点AFフレームがはっきり見える位置に調整します。

測距点AFフレーム

- 工場出荷時には、ファインダー部にアイカップを装着しています。アイカップを付けたままでも、視度調整は可能ですが、上図のようにアイカップを外すと調整がしやすくなります。アイカップを外すには、右図のように、上方向に引き抜いてください。
- 視度調整レバーを使っても、ご自分の視力に合わせることができない方のために、視度調整レンズアダプター Mをご用意しています。ただし、アイカップは取り外してお使いください。（p.186）

3 使ってみよう

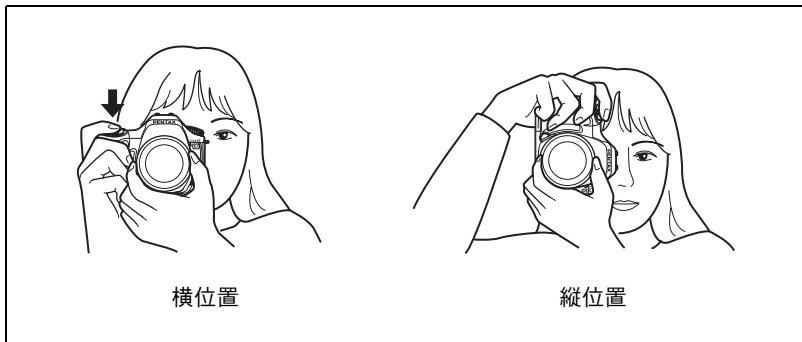
この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルをピクチャーモード（オートピクチャーまたは標準～ストロボオフ）に設定した場合の基本操作について説明しています。

高度な機能、個性的な撮影をするための設定については、4章以降をご覧ください。

撮影の基本操作

カメラの構え方

撮影するときは、カメラの構え方が大切です。
- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

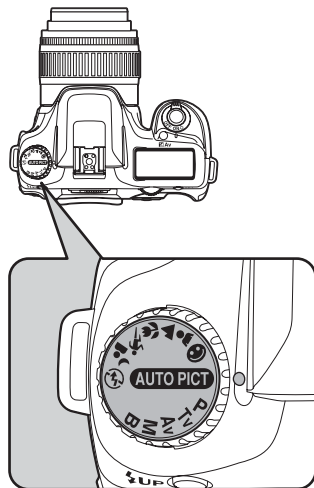
横位置　　縦位置

- 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると効果があります。
- 個人差はありますが、一般的には1/（焦点距離×1.5）が手持ちの限界シャッター速度とされています。例えば、焦点距離が50mmでは1/75秒、100mmでは1/150秒程度です。これ以下のシャッター速度になる場合には、なるべく三脚を使用してください。
- 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

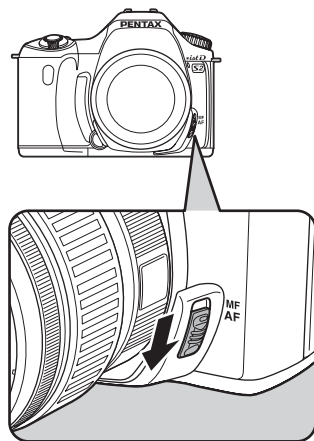
カメラまかせで撮影する

シャッターボタンを押すだけで、シーンに応じた撮影条件をカメラが自動的に設定する撮影方法を説明します。

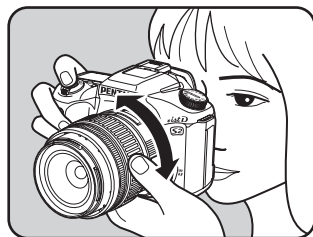
1 モードダイヤルを AUTO PICT に合わせる

被写体に最適な撮影モードをカメラが選択します。

☞シーンに合わせて撮影モードを選ぶ（p.47）

2 フォーカスモードレバーを AF に合わせる

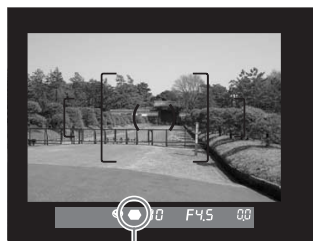
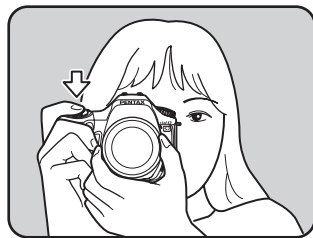
カメラがピント合わせを行う、オートフォーカスモードになります。（p.118）

3 レンズのズームリングを回して、被写体の大きさを決める

被写体の大きさを決めます。

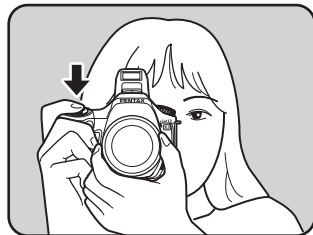
☞ズームレンズの使い方（p.48）

4 AF フレームの中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

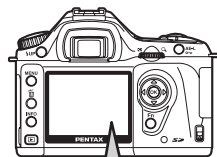
ストロボ発光が必要な場合には、ストロボが自動的にポップアップします。（ストロボ設定が「オート」以外の場合は、手動でポップアップしてください。）

☞シャッターボタンの操作（p.45）
☞オートフォーカスが苦手なもの（p.46）
☞内蔵ストロボを使う（p.49）

合焦マーク

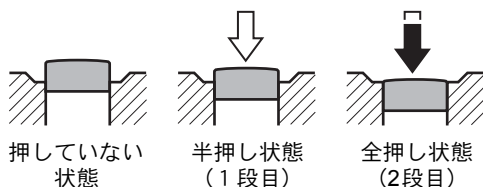
5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

6 液晶モニターで撮影画像を確認する

撮影直後には1秒間液晶モニターに画像が表示されます（クイックビュー）。クイックビュー表示中に🗑ボタンを押すと、画像を消去できます。

☞クイックビューの表示時間（p.171）
☞画像を消去する （p.73）
☞白飛び警告表示（p.161）

シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。

押していない状態　半押し状態（1段目）　全押し状態（2段目）

シャッターボタンを半押しすると（1段目まで押し込む）、ファインダー内や表示パネルに情報が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む（2段目まで押し込む）（全押しする）と撮影することができます。

- カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押し込むと半押しになるのか、感覚をつかんでおいてください。
- ファインダー内の表示は、シャッターボタンを半押ししている間は、ずっと表示されています。指を離しても約10秒間（初期設定）表示されたままになります。（p.20）

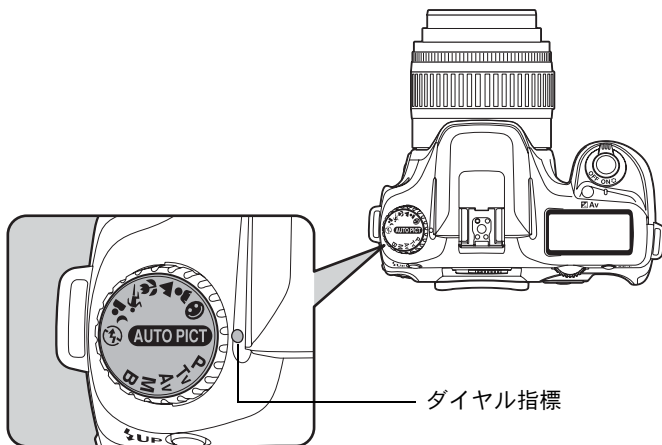
オートフォーカスが苦手なもの

オートフォーカス機構は、万能ではありません。撮影するものが下記の（a）～（f）のような状態のときには、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク⬣を利用した手動ピント合わせでも同様です。
ピントが合わないときは、フォーカスモードレバーを**MF**に合わせて、従来の一眼レフカメラと同様に、ファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。（p.127）

（a）測距点の内側が白い壁などの極端にコントラスト（明暗差）の低いものだけの場合
（b）測距点の内側に光を反射しにくいものがある場合
（c）非常に速い速度で移動しているもの
（d）反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るいもの）
（e）測距点の内側に繰り返しの縦線や横線が存在する場合
（f）遠近のものが測距点の内側に同時に存在する場合

上記の条件（f）のときはファインダーに⬣（合焦マーク）が表示されていても、写したいものにピントが合わないことがありますのでご注意ください。

シーンに合わせて撮影モードを選ぶ

モードダイヤルのAUTO PICT（オートピクチャー）モードをダイヤル指標に合わせると、カメラが最適なシーンを選んで設定します。

ただしオートピクチャーで思うような画像が撮れない場合、モードダイヤルで、（標準）、（人物）、（風景）、（マクロ）、（動体）、（夜景人物）、（ストロボオフ）を選んでください。
各モードの意味は次の通りです。

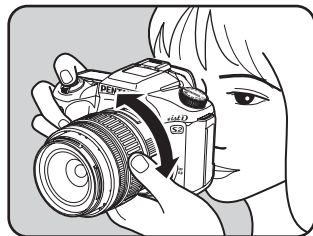
AUTO PICT（オートピクチャー）	標準、人物、風景、マクロ、動体モードから最適な撮影モードを自動的に選択します。
（標準）	一般的な撮影に適しています。
（人物）	人物撮影に適しています。
（風景）	ピントが合って見える範囲を前後に深くし、木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色の画像に仕上げます。
（マクロ）	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。
（動体）	スポーツなど動きのある被写体に適しています。
（夜景人物）	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。
（ストロボオフ）	内蔵ストロボを発光禁止にします。その他の設定は（標準）と同じです。

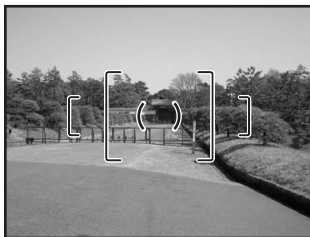
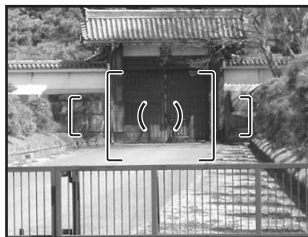
（夜景人物）では、ストロボを使用しても暗いところでシャッター速度が遅くなります。三脚等をご使用になり、手ぶれしないようご注意ください。

ズームレンズを使う

ズームレンズを使えば写したいものを大きくしたり（望遠)、広い範囲で撮影したり（広角）自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを左右に回す

ズームリングを右に回すと望遠に、左に回すと広角になります。

- レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると、撮影する範囲が広い広角側に、大きくすると、遠いものを大きく撮影する望遠側になります。
- このカメラでは、パワーズーム機能（イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームなど）は使用できません。

広角

望遠

内蔵ストロボを使う

背景が撮りたいものより明るい場合や逆光撮影など、意図的に内蔵ストロボを発光させたい場合は、次の手順で使用します。
内蔵ストロボが有効なのは、被写体との距離がおおよそ0.7m～4mの範囲です。0.7mより近いと、露出が正しく制御されず、ケラレなどが発生します。（この距離は使用するレンズや、設定感度によって多少異なります。（p.150））

内蔵ストロボとレンズの適合

内蔵ストロボは、ご使用のレンズや撮影条件によってケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）を生じることがあります。事前にテスト撮影をして確認されることをお勧めします。
☞DA・D FA・FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表（p.152）

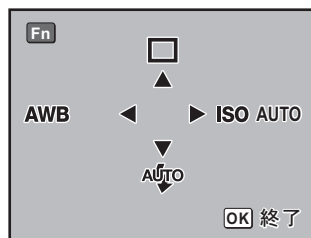
注意
- 内蔵ストロボを使用する場合、レンズフードは必ず外して撮影してください。
- 絞りA位置の機能がないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

AUTO	自動発光	周りの明るさをカメラが自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。ストロボの発光が必要な場合は自動的にポップアップします。（ポップアップしていても、発光の必要が無い場合は、発光しません。）
⚡	手動発光	ストロボの発光を手動で行います。ポップアップで発光し、収納すると発光しません。
⚡A👁	自動発光＋赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
⚡👁	手動発光＋赤目軽減	ストロボの発光を手動で行います。手動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。

⚡UP ボタンを押してストロボを手動でポップアップした場合は、ストロボモードの設定にかかわらず、手動発光（強制発光）になります。

ストロボモードの選択方法

1 **Fnボタンを押す**

Fnメニュー画面が表示されます。

2 **十字キー（▼）を押す**

ストロボモード選択画面が表示されます。

メモ モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**B**のいずれかに合わせたとき、AUTOと⚡Aはグレー表示となり選択できません。

3 **十字キー（◀▶）でストロボモードを選択する**

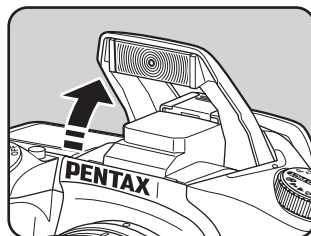
4 **OKボタンを2回押す**

撮影できる状態になります。

自動発光AUTO、⚡A（ストロボオートポップアップ）で使用する

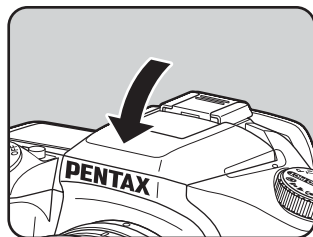
1 **モードダイヤルをAUTO PICT、☻、♟、✿、♟のいずれかに合わせる**

2 **シャッターボタンを半押しする**

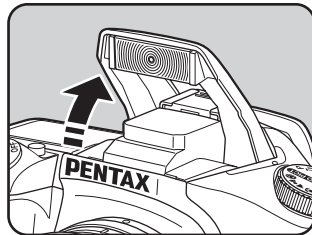
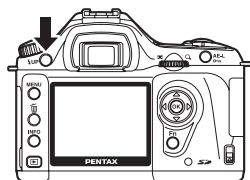
必要に応じて内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。充電が終わると、表示パネルとファインダー内に⚡が表示されます。（p.17、p.20、p.22）

内蔵ストロボがポップアップした状態で⚡UPボタンを押すと自動発光と手動発光（強制発光）を切り替えられます。自動発光設定のときは、表示パネルに⚡AUTOが表示されます。

3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

4 図の矢印の部分を押し下げ、ストロボを収納する

手動発光（強制発光）⚡、⚡◎で使用する

1 ⚡UPボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。ストロボ発光モードの設定にかかわらず手動発光（強制発光）になります。充電が終わると、表示パネルとファインダー内に⚡が表示されます。
（p.17、p.20、p.22）

撮影モードがAUTO PICT、☻、人物、風景、マクロ、動体、夜景人物のどれかに設定されているとき、内蔵ストロボがポップアップした状態で⚡UPボタンを押すと自動発光と手動発光（強制発光）を切り替えられます。

2 シャッターボタンを全押しする

ストロボが発光し、撮影されます。

3 ストロボを押し下げ、収納する

内蔵ストロボの赤目軽減機能

「赤目現象」とは、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。赤目現象は、ストロボの光が、目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。周りが暗いときには、瞳孔が開いているため、赤目現象が目立ちます。
赤目現象は完全に防ぐことはできませんが、軽減するには次のような対策が有効です。

- できるだけ周りを明るくして撮影する
- ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影する
- 赤目軽減発光機能のあるストロボを使う
- 外付けのストロボをご使用のときは、できるだけカメラから離す

このカメラには、内蔵ストロボの2度発光による赤目軽減機能が付いています。赤目軽減機能では、シャッターがきれる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。赤目軽減機能を使うには、ストロボ発光方法として、ピクチャーモードで⚡A◉（赤目軽減自動発光）を、その他のモードでは、⚡◉（赤目軽減手動発光）を選んでください。

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、内蔵ストロボを使って撮影すると顔が陰にならないきれいな写真が撮れます。このようなストロボの使い方を日中シンクロといいます。
日中シンクロでは、ストロボを手動発光にして撮影します。

● 撮影の方法（オートピクチャーの場合）

1 ストロボがポップアップされ、ストロボモードが⚡（手動発光）になっていることを確認する。（p.51）
2 ストロボの充電完了を確認する。
3 撮影する。

背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

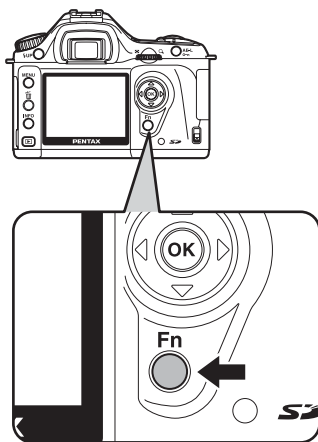
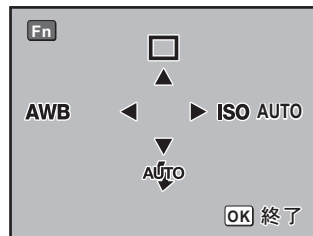
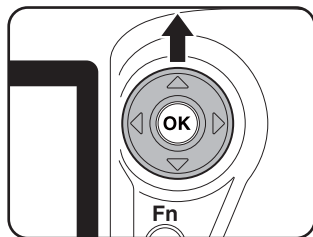
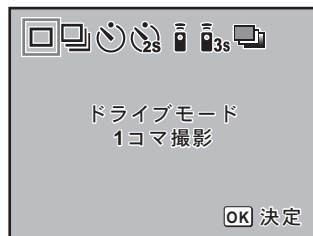
ストロボなし

ストロボ使用 日中シンクロ

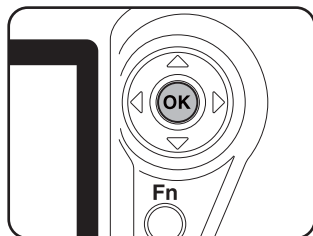
いろいろな方法で撮影する

連続撮影

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。

1 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

ドライブモード選択画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で⧉を選ぶ

4 OKボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。

「**C** カスタム」メニューの「撮影可能枚数表示」を「2 連続撮影可能枚数」にすると、シャッターボタンを半押ししたときに、連続撮影が可能な枚数（バッファの空き）を表示します。（p.100）

6 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。指をシャッターボタンから離すと、連続撮影を終了します。

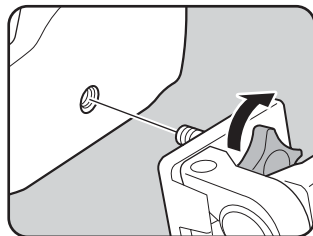
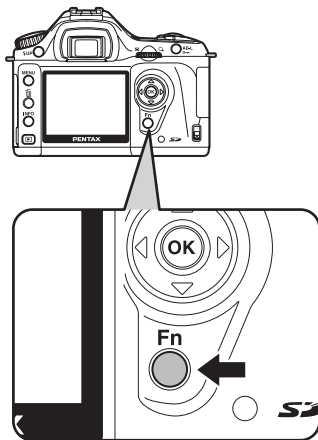
カメラの電源をオフにしても、連続撮影設定は維持されます。連続撮影を止めるには、Fnメニュー画面をもう一度表示させ、□（1コマ撮影）に設定し直します。

- フォーカスモードが**AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、シャッターが1回切れるごとに毎回ピント合わせが行なわれます。（p.121）
- モードダイヤルが **P**、**Tv**、**Av**、**M** モードのいずれかに合わせられ、かつ、フォーカスモードが **AF.C**（コンティニュアスモード）に設定されている場合と、ピクチャーモードが（動体）に設定されている場合は、常にピント合わせが行われます。この場合、ピントが合っていなくてもシャッターがきれるのでご注意ください。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。ただし、カスタムファンクションで、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。（p.148）

セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影には、と2sの 2 種類があります。

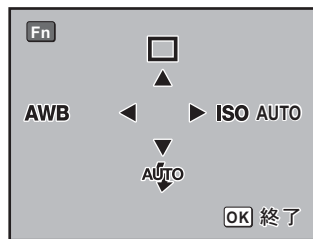
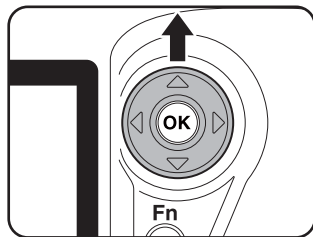
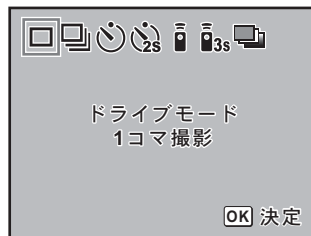
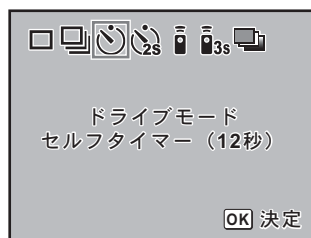
(セルフタイマー)	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
2s	シャッターボタンを押すとすぐにミラーがアップし、約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するときに使います。

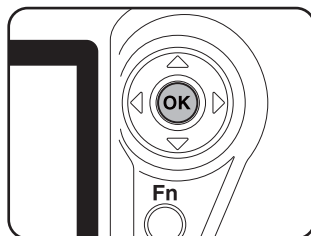
1 カメラを三脚などで固定する

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

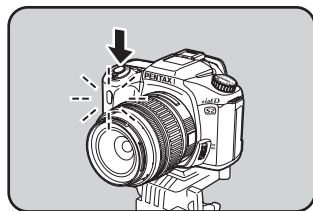
ドライブモード選択画面が表示されます。

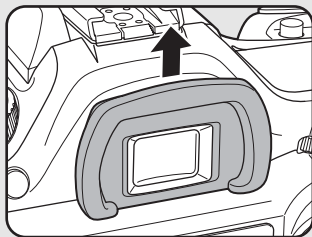
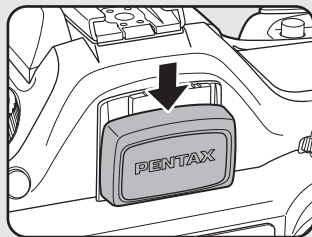
4 十字キー（◀▶）で⏲または⏲2sを選ぶ

5 OK ボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

6 撮りたいものが画面に入っているかファインダーで確認し、シャッターボタンを半押しする

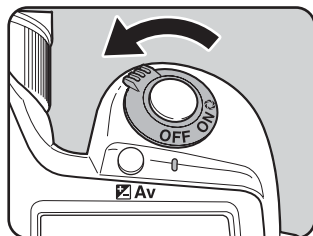
ピントが合うと、合焦マーク●が点灯します。

7 シャッターボタンを全押しする

の場合、セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。

の場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

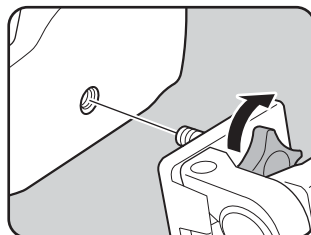
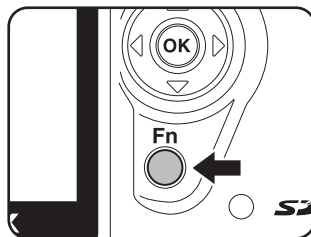
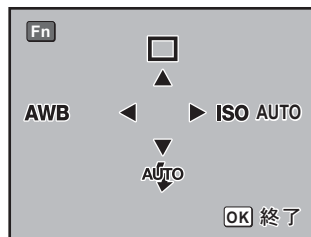
- セルフタイマーの電子音は、消すことができます。(p.164)
- セルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能(p.143)や付属のMEファインダーキャップをご利用ください。(露出モードを**M**(マニュアル)に設定している場合(p.139)はファインダーから入る光は無視できます。)
- MEファインダーキャップなどのアクセサリーの取り付けは、アイカップFLを上に引き上げ、取り外してから行ないます。

アイカップFLを取り外す

MEファインダーキャップを取り付ける

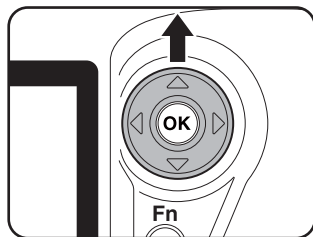
8 撮影終了後に電源をオフにする

次に電源をオンにしたときは、セルフタイマー撮影が解除され、1コマ撮影に戻ります。

リモコン撮影（リモコンF：別売品）

別売のリモコンFを使うとカメラから離れた所から撮影することができます。リモコン撮影には（リモコン）と（3秒後レリーズ）の2種類があります。

	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
3S	リモコンのシャッターボタンを押すと、3秒後にシャッターがきれます。

1 カメラを三脚などで固定する

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

ドライブモード選択画面が表示されます。

4 十字キー（◀ ▶）で または を選ぶ

セルフタイマーランプが点滅し、リモコン待機状態であることをお知らせします。

5 OK ボタンを2回押す

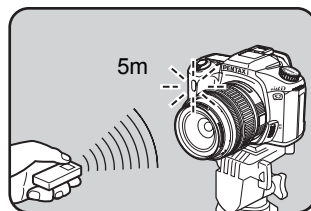
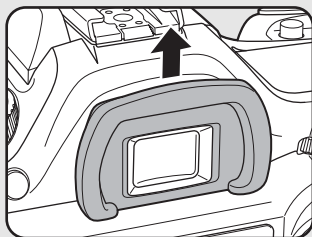
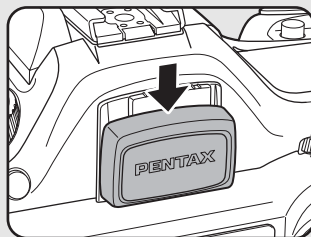
撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

- 初期設定ではリモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてからリモコン操作をしてください。ただし、カスタムファンクションで「リモコン時のAF」を可能に設定することができます。（p.100）
- リモコン撮影時は、ストロボモードを AUTO（自動発光）に設定しても、自動ポップアップしません。ストロボを使用したいときはあらかじめ手動でポップアップしてください。（p.51）

7 リモコンをカメラの正面に向けて、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約5mです。リモコンのシャッターボタンを押してからすぐに、または3秒後に撮影されます。
撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- リモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.143）や付属のMEファインダーキャップをご利用ください。（露出モードを**M**（マニュアル）に設定している場合（p.139）はファインダーから入る光は無視できます。）
- MEファインダーキャップなどのアクセサリーの取り付けは、アイカップFLを上に引き上げ、取り外してから行ないます。

アイカップFLを取り外す

MEファインダーキャップを取り付ける

- リモコン撮影を設定後に中止したいときは、カメラの電源をオフにしてください。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。
- 内蔵ストロボを使用する場合は、あらかじめストロボを上げておいてください。
- リモコン撮影モードのまま約5分間放置すると、自動的に1コマ撮影に戻ります。
- リモコン用電池では、約30,000回リモコン送信することができます。電池の交換については当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお問い合わせください。（交換は有料になります）

ミラーアップ機能を使ってカメラぶれを防ぐ

ケーブルスイッチ（別売品）や、リモコン（別売品）などを使ってもまだカメラぶれが気になる場合、ミラーアップ機能を使う方法があります。2秒セルフタイマーを使って撮影すると、シャッターボタンを押すとミラーがアップし、2秒後にシャッターが切れます。ミラーアップ時の振動を避けることができます。
ミラーアップ機能を使って撮影するときは、以下の手順で操作してください。

1 **カメラを三脚などで固定する**

2 **Fnボタンと十字キー（▲）で 2S（2秒セルフタイマー）を選択する（p.55）**

3 **撮影するものにピントを合わせる**

4 **シャッターボタンを全押しする**

ミラーがアップした後、2秒後にシャッターがきれます。露出値はミラーアップ直前の値でAEロックされます。

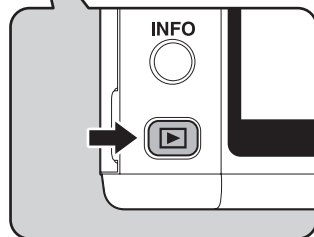
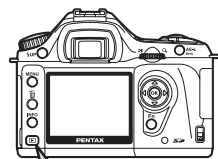
再生する

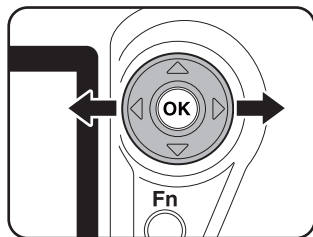
撮影した画像を再生する

撮影した画像をカメラで再生する方法を説明します。

パソコンを使って再生するには、付属のソフトウェア「PENTAX PHOTO Browser 2.1」をご使用ください。ソフトの使用方法は、「PENTAX PHOTO Browser 2.1・PENTAX PHOTO Laboratory 2.1使用説明書」をご覧ください。

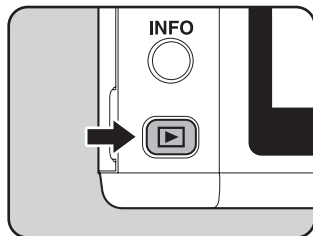
1 撮影後に、▶ボタンを押す

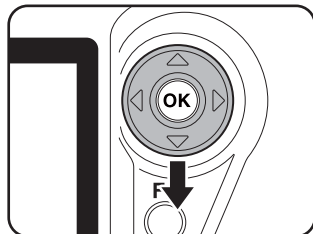
最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）が液晶モニターに表示されます。

2 十字キー（◀▶）を押す

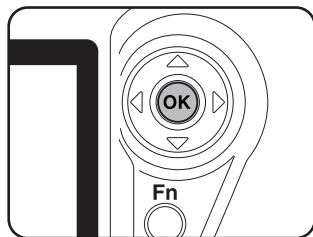
◀：前の画像が表示される
▶：次の画像が表示される

画像を回転する

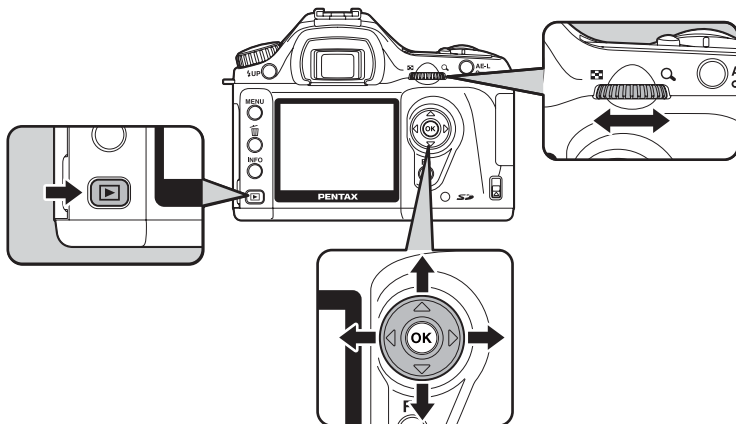
画像を左回りに90°ずつ回転して表示します。縦位置で撮影した画像を見やすく表示することができます。

1 撮影後に、▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）が液晶モニターに表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

1回押すごとに画像が左回りに90°ずつ回転して表示されます。

3 OKボタンを押す

画像の回転表示情報を保存します。

再生した画像を拡大表示する

再生した画像を約12倍まで拡大して表示できます。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 セレクトダイヤルを右（🔍 の方向）に回す

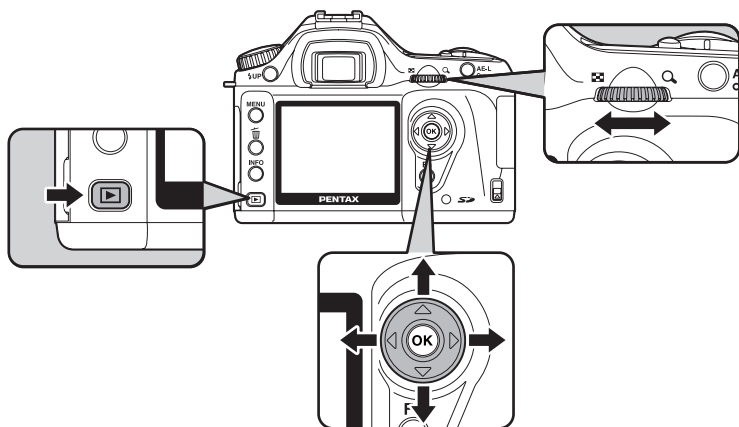
1クリック回すごとに拡大し、最大12倍まで拡大します。左（⊞の方向）へ回すと元に戻ります。

OK ボタンを押すと、1倍表示に戻せます。

拡大表示時に、十字キー（▲▼◀▶）を押すと、表示位置を変えることができます。

セレクトダイヤルの1クリック目の倍率は、初期設定では1.2倍です。「**C** カスタム」メニューの「拡大再生の開始倍率」で変更できます。（p.101）

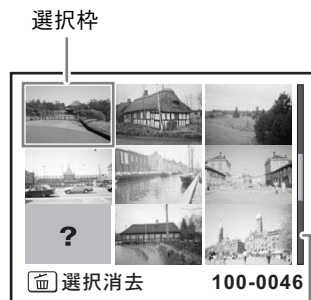
9画像ずつ表示する

撮影した画像を、液晶モニターに9画像ずつ表示します。

1 ▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）が液晶モニターに表示されます。

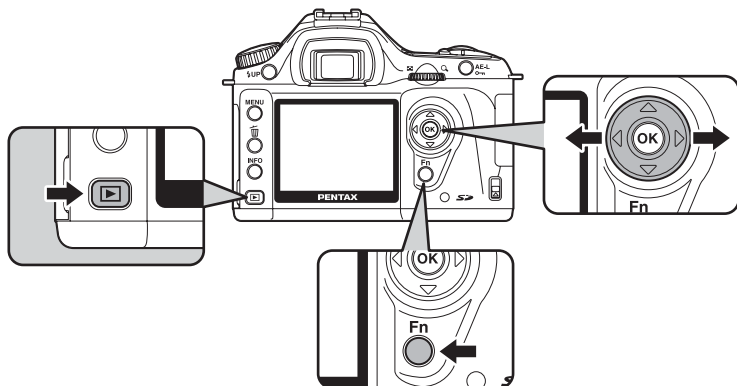
2 セレクトダイヤルを左（▦ の方向）に回す

画像が小さなコマで一度に9コマずつ表示されます。十字キー（▲▼◀▶）で画像が選べます。画面右端にスクロールバーが表示されます。最下行の画像を選択しているときに十字キー（▼）を押すと、次の9画像が表示されます。

表示できない画像には「?」が表示されます。

3 セレクトダイヤルを右（Q の方向）に回すか、OKボタンを押す

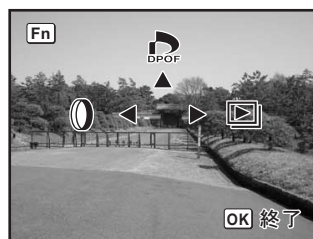
選択した画像が全画面表示されます。

スライドショウで連続再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を連続して再生します。連続再生を開始するには、液晶モニターに表示されるメニュー画面を使用します。

1 **▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で最初に表示させる画像を選ぶ**

最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 **Fnボタンを押す**

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

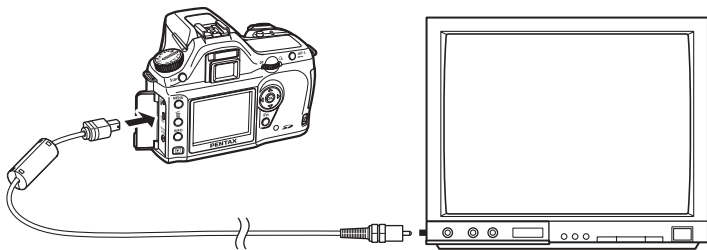
どれかボタンを押すと、スライドショウが終了します。

シャッターボタン、▶ボタンを押すか、電源レバーをプレビュー位置にする、またはモードダイヤルを回すと撮影モードになります。

スライドショウの表示時間は「▶再生」メニューで設定します。「▶再生」メニューからもスライドショウをスタートできます。（p.162）

AV機器と接続する

ビデオケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えた機器をモニターにして画像を再生することができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずオフにしてください。

☞ビデオ出力方式を選択する（p.169）

1 **カメラの端子カバーを開きUSB／VIDEO端子にビデオケーブルを接続する**

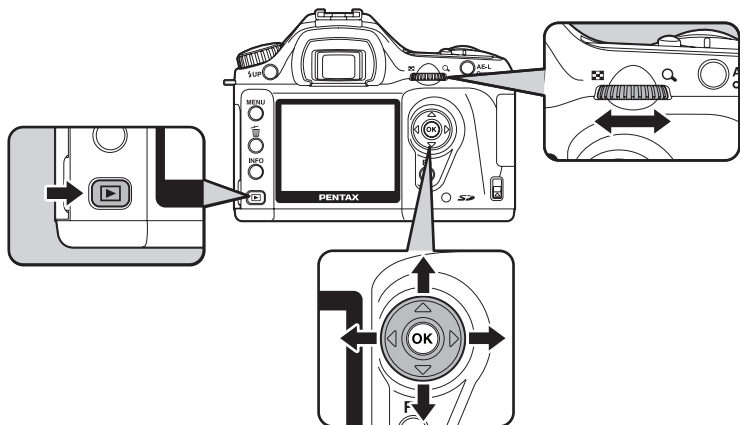
2 **ビデオケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子に接続する**

3 **AV機器とカメラの電源をオンにする**

- 長時間使用するときは、ACアダプター（別売品）のご使用をお勧めします。（p.28）
- 複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。
- 国や地域によっては、カメラのビデオ出力方式が初期設定（NTSC）になっていると、画面がうまく映らない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。（p.169）
- AV機器に接続している間は、カメラの液晶モニターはオフになります。

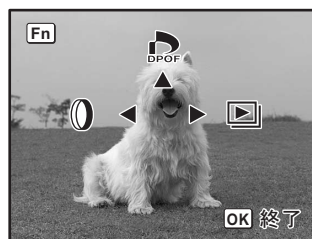
画像をフィルタで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルタを使って加工できます。加工した画像は、元の画像と別の名前で保存されます。

- RAW画像はデジタルフィルタ加工できません。
- デジタルフィルタは、「▶再生」メニューからも設定できます。

デジタルフィルタ

白黒	白黒の画像にします。
セピア	古い写真のようなセピア色に加工します。
ソフト	全体にぼかしたような、ソフトな画像に加工します。3段階の調整が可能です。
スリム	画像の縦横比を変更します。縦方向に最大2倍、横方向に最大2倍まで調整できます。

1 再生モードでFnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（◀）を押す

フィルタ選択画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で画像を選択する

4 十字キー（▲▼）でフィルタを選択する

フィルタを選択すると、効果が画像で確認できます。「白黒」、「セピア」フィルタを選んだ場合は手順6へ進みます。

5 スリムフィルタとソフトフィルタの場合は、セレクトダイヤルでスリム度やソフト度を調節する

スリムフィルタの場合は、左へ回すと幅広く、右へ回すと細くなります。ソフトフィルタの場合は、ソフト度を3段階から選択します。
十字キー（◀▶）で他の画像を選ぶと、設定されたスリム度やソフト度のままで表示されます。

6 OKボタンを押す

保存確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲）で「新規保存」を選ぶ

8 OKボタンを押す

フィルタ処理された画像が、撮影画像とは別の名前で保存されます。

画像を消去する

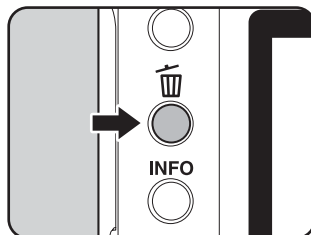
1画像ずつ消去する

画像を1画像ずつ消去します。

注意
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を選ぶ

2 🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

画像が消去されます。

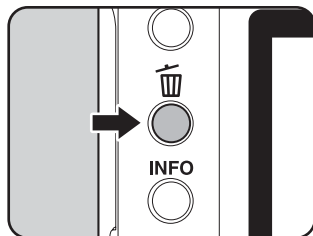
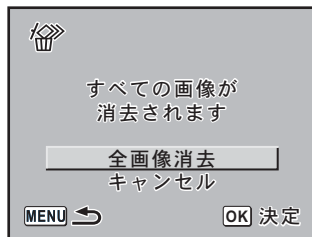
まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

注意
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。

1 ▶ボタンを押す

2 🗑ボタンを2回押す

全消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「全画像消去」を選ぶ

4 OK ボタンを押す

全画像が消去されます。

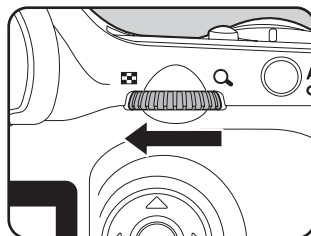
選択して消去する（9画面表示で消去）

9画面表示で複数の画像を選択し、一括して削除します。

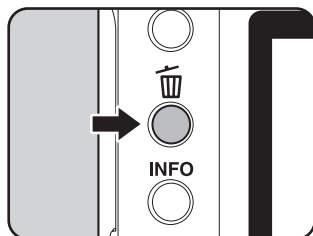
注意
- 消去した画像は復元ができません。
- プロテクトされている画像は消去できません。
- 一度に選択できるのは、同一フォルダ内にあるファイルだけです。

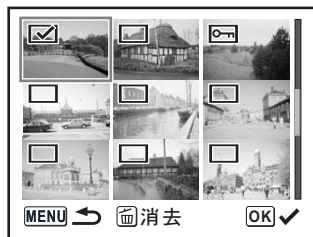
1 ▶ボタンを押す

最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

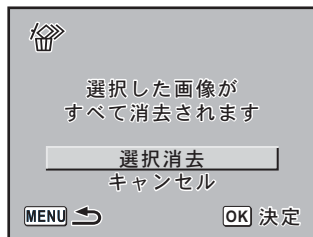
2 セレクトダイヤルを左（⊞ の方向）に回す

画像が9コマずつ表示されます。

3 🗑ボタンを押す

画像の上に□が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像に移動し、OKボタンを押す

画像が選択され、☑が表示されます。
Fnボタンを押すと全画像を選択できます。（選択する画像の数によっては、選択完了まで時間がかかることがあります。）

5 🗑ボタンを押す

消去確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲）で「選択消去」を選ぶ

7 OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

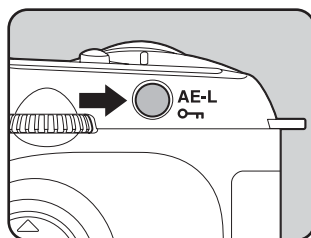
画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

注意
プロテクトされた画像もSDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）で画像を選ぶ

最後に撮影した画像（ファイル番号が一番大きい画像）がはじめに液晶モニターに表示されます。

2 O‒ボタンを押す

プロテクト画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

4 OKボタンを押す

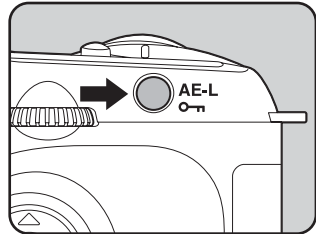
選択した画像がプロテクト（保護）されます。

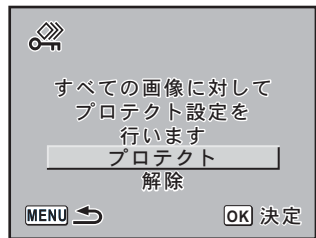
- プロテクトを解除するには、手順3で「解除」を選びます。
- プロテクトされた画像には、再生時にO‒が表示されます。（p.19）

全画像をプロテクトするには

1 ▶ボタンを押す

2 O‐ボタンを2回押す

全画像プロテクト画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

SDメモリーカード内のすべての画像がプロテクト（保護）されます。

手順3で「解除」を選ぶと、全画像のプロテクト設定が解除されます。

プリントサービスの設定をする（DPOF）

画像を記録したSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真と同様にプリント注文をすることができます。
あらかじめDPOF（Digital Print Order Format）の設定をすることで、プリント枚数の指定や、画像に日付を入れることができます。

RAW画像はDPOF設定できません。

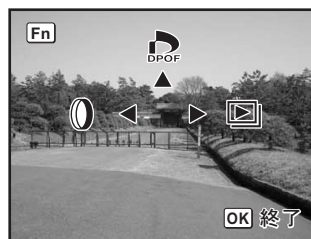
1画像ずつ設定する

各画像ごとに、次の項目の設定をします。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚までの設定ができます。
日付	プリントする画像に日付を入れるか入れないかを設定します。

1 ▶ボタンを押し、十字キー（◀▶）を押して画像を選ぶ

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（▲）を押す

DPOF設定画面が表示されます。
すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付の☑／□が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でプリント枚数を設定し、十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

5 十字キー（◀▶）で日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑：プリントに日付を入れる
□：プリントに日付を入れない

6 OK ボタンを押す

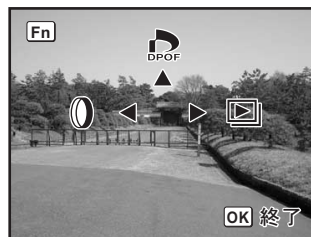
DPOF設定が保存され、再生できる状態になります。

注意　プリンターやプリント取扱い店のプリント機器によっては、DPOFの設定で日付をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

メモ　DPOF設定を解除するには、手順4で枚数を「00」に設定して、**OK** ボタンを押します。

全画像を設定する

1 再生モードでFnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

DPOF設定画面が表示されます。

3 Fnボタンを押す

全画像設定画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でプリント枚数、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順4、5（p.80）をご覧ください。

5 OKボタンを押す

設定した値で全画像のDPOF設定が保存され、再生できる状態になります。

全画像設定では、全てのコマに同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいかを確認してください。

全画像設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

カメラとプリンターをつないでプリントする（PictBridge）

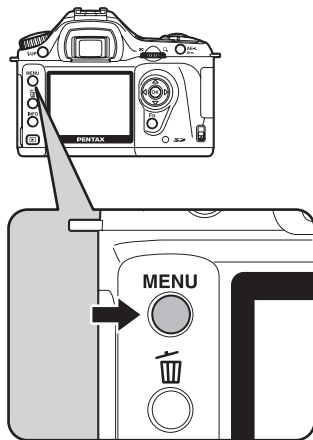
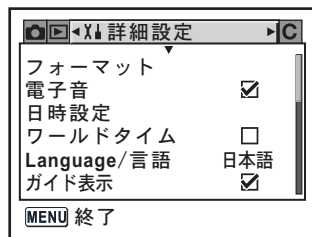
パソコンを介さなくてもカメラとプリンターを直接つないで写真をプリント（ダイレクトプリント）できます。
ダイレクトプリントする場合、カメラとPictBridge対応プリンターを、付属のUSBケーブル（I-USB17）で接続します。
どの画像をプリントするのか、何枚プリントするのか、日付を入れるのか、などは、カメラとプリンターを接続した状態で、カメラ側で設定します。
ダイレクトプリントは次の手順で行います。

カメラの「転送モード」を「PictBridge」に設定する（p.84）
↓
カメラをプリンターに接続する（p.85）
↓
プリントの設定をする（p.79）
　1画像ずつプリントする（p.86）
　全画像をプリントする（p.88）
　DPOF設定でプリントする（p.90）
カメラとプリンターを外す（p.90）

- カメラをプリンターに接続するときは、ACアダプター（別売）のご使用をお勧めします。プリンターと通信中にバッテリーが消耗すると、プリンターが誤動作したり、画像データが壊れることがあります。
- データ転送中は、USBケーブルを抜かないでください。
- プリンターの種類によっては、カメラ側の設定（印刷設定、DPOF設定など）が一部反映されないことがあります。
- 設定されたプリント枚数が500枚以上になる場合、正しくプリントされないことがあります。
- 1枚の用紙に複数画像をプリントする設定はカメラではできません。プリンター側で設定してください。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- RAW画像は、直接印刷できません。RAW画像の印刷には、パソコンをご利用ください。
- パソコンと接続する場合は、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 2.1・PENTAX PHOTO Laboratory 2.1使用説明書」をご覧ください。

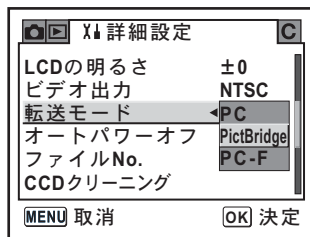
「転送モード」を設定する

1 MENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（◀▶）で「🔧詳細設定」メニューを選ぶ

3 十字キー（▲▼）で「転送モード」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「PictBridge」を選ぶ

6 OKボタンを押す

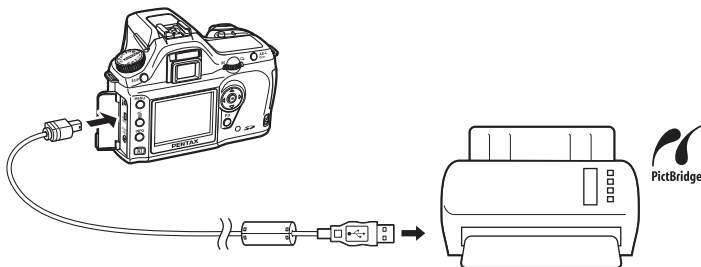
設定が変更されます。

7 MENUボタンを押す

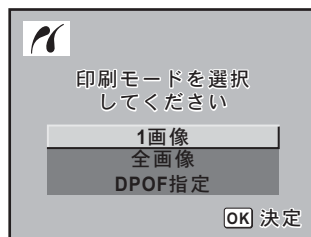
カメラをプリンターに接続する

1 カメラの電源をオフにする

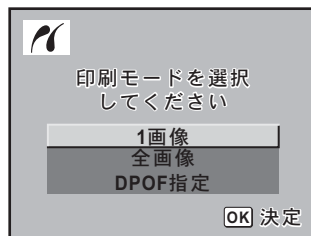
2 付属のUSBケーブルで、カメラとPictBridge対応プリンターを接続する

PictBridge対応プリンターには、PictBridgeのロゴが表示されています。

3 プリンターの電源をオンにする

4 プリンターの起動が完了したら、カメラの電源をオンにする

PictBridgeメニュー画面が表示されます。

「転送モード」が「PC」または「PC-F」の場合、PictBridgeメニュー画面は表示されません。

1画像ずつプリントする

1 PictBridge メニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「1画像」を選ぶ

2 OKボタンを押す

1画像印刷画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でプリントする画像を選ぶ

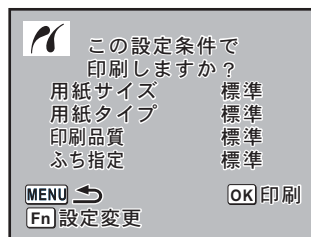
4 十字キー（▲▼）でプリントする枚数を選ぶ

99枚まで設定できます。

5 Fnボタンで、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑：プリントに日付を入れる
□：プリントに日付を入れない

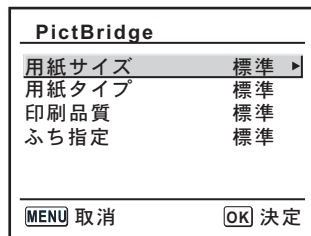
6 OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。
初期設定のまま印刷するときは、手順12へ進みます。
印刷設定を変更するときは、手順7へ進みます。

7 Fnボタンを押す

印刷設定の変更画面が表示されます。

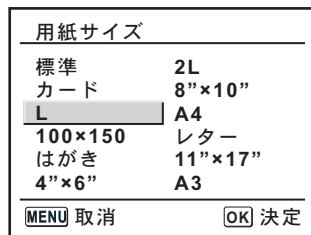
PictBridge

用紙サイズ	標準 ▸
用紙タイプ	標準
印刷品質	標準
ふち指定	標準

MENU 取消　　OK 決定

8 「用紙サイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

用紙サイズ選択画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼◀▶）で用紙サイズを選ぶ

お使いのプリンターで印刷可能な用紙だけが選択できます。
「標準」を選択するとプリンターの設定にしたがいます。

10 OK ボタンを押す

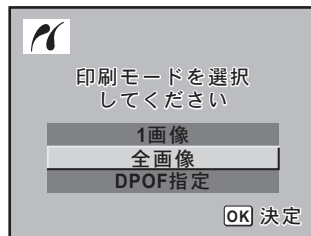
11 手順8〜10の操作を繰り返して､｢用紙タイプ｣｢印刷品質｣｢ふち指定｣を設定する

各項目の設定が終了するごとに、印刷設定の変更画面が表示されます。
「標準」を選択するとプリンターの設定にしたがいます。
「用紙タイプ」は、★の数が多いほど高品質な用紙に対応します。
「印刷品質」は、★の数が多いほど高品質な印刷を行います。

12 OK ボタンを2回押す

設定した値で印刷が開始されます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

全画像をプリントする

1 PictBridge メニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「全画像」を選ぶ

2 OK ボタンを押す

全画像印刷画面が表示されます。

3 プリント枚数、日付プリントの有無を設定する

全画像を何枚ずつプリントするか、日付をプリントするかどうかを選びます。

設定のしかたは「1画像ずつプリントする」の手順4～5（p.87）をご覧ください。

4 OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。

印刷設定を変更するときは、「1画像ずつプリントする」の手順7～11（p.87～p.88）をご覧ください。

5 印刷設定の確認画面でOKボタンを押す

設定した条件で全画像のプリントが開始されます。

MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

プリントサービスの設定（DPOF）内容でプリントする

1 PictBridgeメニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「DPOF指定」を選ぶ

2 OKボタンを押す

DPOF指定印刷画面が表示されます。
十字キー（◀▶）で、画像ごとの印刷枚数、日付の有無、プリント合計枚数を確認できます。印刷枚数と日付の有無はプリントサービスで設定します。（p.79）

3 OKボタンを押す

印刷設定の確認画面が表示されます。
印刷設定を変更するときは、「1画像ずつプリントする」の手順7～11（p.87～p.88）をご覧ください。

4 印刷設定の確認画面でOKボタンを押す

設定した内容でプリントされます。
MENUボタンを押すと、印刷を中止します。

プリンターからケーブルを取り外す

プリントが終了したら、ケーブルをプリンターから取り外します。

1 カメラの電源をオフにする

2 カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外す

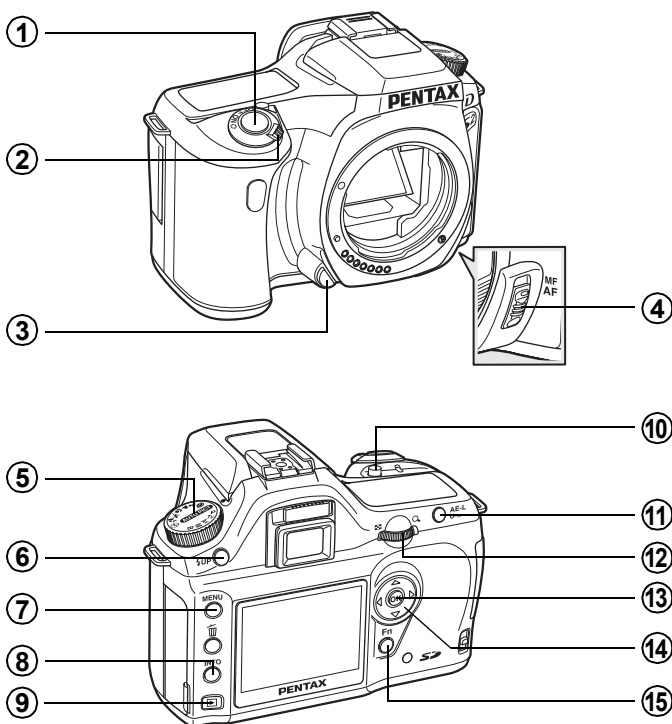
4 メニューリファレンス

*istDS2の機能をボタンやメニューごとに解説します。

メニュー画面やFnメニュー画面の操作時は、カメラの設定状況により設定変更できない項目は、グレー表示になり、選択できません。

ボタンの機能を使う

撮影時

撮影時に使用するボタンの機能を示します。

① **シャッターボタン**

画像を撮影します。(p.45)

② **電源レバー**

電源のオン／オフ（p.32）と被写界深度の確認（プレビュー）（p.130）をします。

③ **レンズ取り外しボタン**

レンズを取り外すときに押します。(p.38)

④ フォーカスモード切替レバー

オートフォーカスモード（p.118）とマニュアルフォーカスモード（p.126）を切り替えます。

⑤ モードダイヤル

撮影モードを切り替えます。（p.104）

⑥ ⚡UP ボタン

内蔵ストロボをポップアップします。（p.49）

⑦ MENU ボタン

「📷撮影」メニュー（p.98）を表示します。続いて、十字キー（▶）を押すと、「▶再生」メニュー（p.98）、「🔧詳細設定」メニュー（p.99）、「C カスタム」メニュー（p.100）に切り替わります。

⑧ INFO ボタン

液晶モニターに撮影情報を表示します。（p.17）

⑨ ▶ ボタン

再生モードに切り替えます。（p.63）

⑩ ☒Av ボタン

露出補正値や絞り値を設定するときに押します。（p.137、p.142）

⑪ AE-L ボタン

撮影前の露出を記憶させます。（p.143）

M（マニュアル）モードで適正露出値になるよう自動調整します。（p.141）

⑫ セレクトダイヤル

シャッター速度、絞り値、露出補正値を設定します。（p.135、p.137、p.142）

⑬ OK ボタン

メニュー画面で選択した設定を決定します。

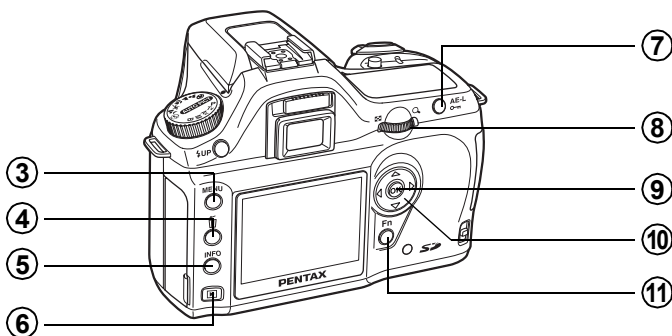
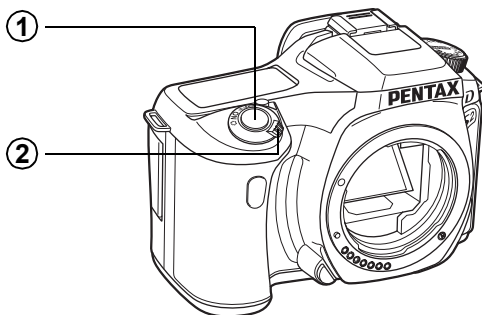
⑭ 十字キー（▲▼◀▶）

メニュー画面やFnメニュー画面でカーソルの位置変更、項目の変更をします。

⑮ Fn ボタン

Fnメニュー画面を表示させます。続いて押す十字キー（▲▼◀▶）によって作動が決まります。（p.102）

再生時

再生時に使用するボタンの機能を示します。

①　シャッターボタン

撮影モードに切り替えます。

②　電源レバー

電源のオン／オフをします。（p.32）

③　MENUボタン

「▶再生」メニュー（p.98）を表示します。続いて、十字キー（◀▶）を押すと、「詳細設定」メニュー（p.99）、「**C** カスタム」メニュー（p.100）、「撮影」メニュー（p.98）に切り替わります。

④　ボタン

画像を消去します。（p.73）

⑤ INFOボタン

液晶モニターに撮影情報を表示します。（p.18）

⑥ ▶ボタン

撮影モードに切り替えます。

⑦ O-nボタン

画像を誤って消去しないようにプロテクトします。（p.77）

⑧ セレクトダイヤル

再生した画像を拡大表示（p.65）、または、9画像ずつ表示（p.66）します。

⑨ OKボタン

メニュー画面や再生画面で選択した設定を決定します。

⑩ 十字キー（▲▼◀▶）

メニュー画面やFnメニュー画面、再生画面でカーソルの位置変更、項目の変更をします。

⑪ Fnボタン

Fnメニュー画面を表示させます。続いて押す十字キー（▲◀▶）によって作動が決まります。（p.102）

メニューを使う

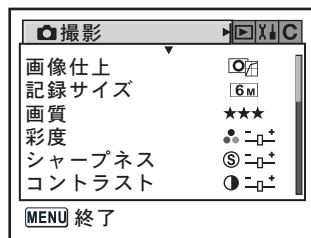
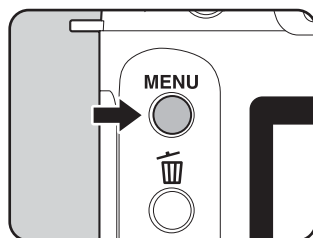
メニューの操作方法

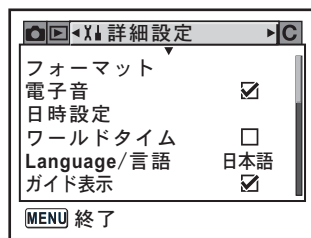
「撮影」メニュー、「再生」メニュー、「詳細設定」メニュー、「Cカスタム」メニューの操作方法を説明します。

メニュー画面を表示する

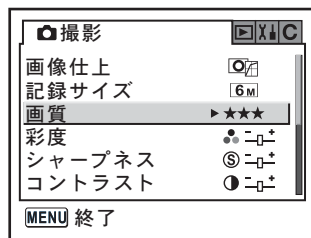
1 **撮影モードで MENU ボタンを押す**

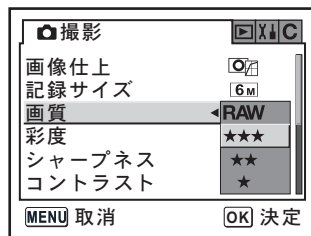
液晶モニターに「撮影」メニューが表示されます。

撮影
画像仕上
記録サイズ　6M
画質　★★★
彩度
シャープネス
コントラスト
MENU 終了

2 **十字キー（▶）を押す**

1回押すごとに「再生」メニュー、「詳細設定」メニュー、「Cカスタム」メニューが表示されます。

メニュー項目を選択し、設定する

ここでは「撮影」メニューの画質を設定する場合を例に説明します。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

選べる画質が表示されます。
ポップアップがあるときは、十字キー（▶）でポップアップに移行します。

5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

6 OKボタンを押す

メニュー画面に戻ります。続いて他の項目を設定できます。
MENUボタンを押すと、撮影または再生できる状態になります。

MENUボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源をオンにしたまま電池を取り出したりするなど誤った操作で電源をオフすると設定は保存されません。

- ポップアップが表示されていないときは、セレクトダイヤルを使って、「撮影」メニューと「再生」メニュー、「詳細」メニュー、「Cカスタム」メニューを切り替えることができます。
- 撮影モードで**MENU**ボタンを押すと「撮影」メニューが、再生モードで**MENU**ボタンを押すと「再生」メニューが開きます。

「📷撮影」メニューの設定項目

「📷撮影」メニューでは、撮影に関する設定を行います。

項目	機能	参照
画像仕上	画像の基本的な色調などを設定します。	p.108
記録サイズ	画像の記録サイズを設定します。	p.109
画質	画質を設定します。	p.110
彩度	色の鮮やかさを設定します。	p.111
シャープネス	画像の輪郭をくっきりまたはソフトにします。	p.111
コントラスト	画像の明暗差を設定します。	p.111
クイックビュー	クイックビューの表示時間を設定します。	p.171
オートブラケット	オートブラケット撮影の設定をします。	p.146
測光方式	ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.131
測距点切り替え	ファインダー内のどの部分にピントを合わせるかを設定します。	p.122
AFモード	オートフォーカスの方法を設定します。	p.121
ストロボ光量補正	ストロボの発光量を調節します。	p.147

「▶再生」メニューの設定項目

「▶再生」メニューでは、画像の再生や編集に関する設定を行います。

項目	機能	参照
再生時の表示方法	再生時に表示する撮影情報を設定します。	p.161
白飛び警告表示	クイックビューや再生時に白飛び警告を表示するか否かを設定します。	p.161
デジタルフィルタ	撮影した画像を白黒やセピア色に、またソフトやスリムに加工します。	p.71
スライドショウ	保存された画像を連続して再生します。	p.68

「X⁄詳細設定」メニューの設定項目

「X⁄詳細設定」メニューでは、カメラに関するいろいろな項目を設定します。

項目	機能	参照
フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.163
電子音	電子音のオン／オフを切り替えます。	p.164
日時設定	年月日の表示形式と日時を設定します。	p.164
ワールドタイム	海外で使用する際、現在地とは別に、指定した都市の日時を液晶モニターに表示できるようにします。	p.165
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.168
ガイド表示	液晶モニターに操作ガイドを表示するか否かを設定します。	p.168
LCDの明るさ	液晶モニターの明るさを設定します。	p.169
ビデオ出力	テレビモニタへの出力方式を設定します。	p.169
転送モード※	USBケーブルの接続先（パソコンまたはプリンター）を設定します。	p.84
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.170
ファイルNo.	画像のファイルNo.の付け方を設定します。	p.170
CCDクリーニング	CCDをクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。	p.183
リセット	日時設定、言語、ビデオ出力、ワールドタイム以外の設定内容をリセットします。	p.172

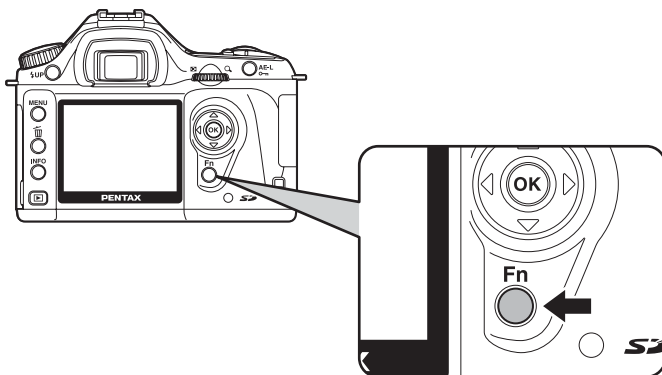
※ パソコンとの接続については、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 2.1・PENTAX PHOTO Laboratory 2.1使用説明書」のp.13をご覧ください。

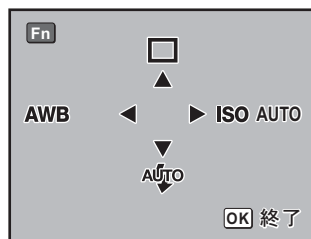
「Cカスタム」メニューの設定項目

カスタムファンクションでは、一眼レフカメラの機能をフルに生かして撮影するための機能を設定します。初期設定では、カスタムファンクションを使用しない設定となっています。
1番目の項目である「設定」を☑（オン）にすると、「**C** カスタム」メニューの設定内容が変更できるようになります。

項目	機能	参照
設定	カスタムファンクションを使用するか否かを設定します。	—
ノイズリダクション	低速シャッター時にノイズリダクションをするか否かを設定します。	—
露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.143
感度AUTO時の調整範囲	感度を「AUTO」にしているときに、どの範囲で感度を自動調整するかを設定します。	p.115
ISO感度警告表示	どの感度以上でファインダー内にISO感度警告表示をするかを設定します。	p.116
測距点と露出の関連付	分割測光時に露出値と測距点（ピント合わせ位置）を関連付けるか否かを設定します。	p.132
測光作動時間	測光タイマーの作動時間を設定します。	p.132
AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するか否かを設定します。	p.125
撮影可能枚数表示	表示パネルとファインダー内の撮影可能枚数表示を、シャッターボタン半押し時に連続撮影可能枚数表示に切り替えるかどうかを設定します。	—
撮影時のOKボタン	撮影時に**OK**ボタンを押したときの動作を設定します。	p.120、p.122
MでのAE-Lボタン	**M**（マニュアル）モードで**AE-L**ボタンを押したときの露出の調整方法を選択します。	p.141
スーパーインポーズ	選択された測距点（ピント合わせ位置）をファインダーに表示するか否かを設定します。	p.122
リモコン時のAF	リモコン撮影するときにオートフォーカスするか否かを設定します。 「オン」にすると、リモコンでのレリーズ時に、AFを行った後シャッターがきれます。合焦しないとシャッターがきれません。 「オフ」にすると、リモコンでのレリーズ時はAF動作を行いません。	—

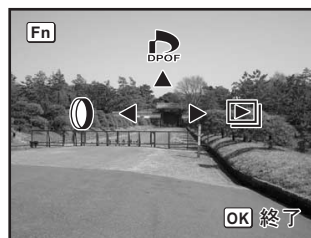
項目	機能	参照
Sレンズ使用時のFI	スクリューマウントレンズ使用時にフォーカスインジケーションを利用可能にするか否かを設定します。 利用可能に設定すると、カメラはレンズ非着用時もレンズが装着されていると認識します。	—
絞りリングの使用	レンズの絞りリングの位置が **A** 以外のときに撮影できるか否かを設定します。	p.182
充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするか否かを設定します。	p.148
クイックビュー表示	クイックビュー時にヒストグラムを表示するか否かを設定します。	p.171
拡大再生の開始倍率	拡大再生の開始倍率を設定します。 「1.2倍」、「2倍」、「4倍」、「8倍」、「12倍」から選択します。初期設定は「1.2倍」です。	—
マニュアルWBの測定	ホワイトバランスをマニュアルで設定するときに、ホワイトバランスの測定を画面全体でするか、スポット測光エリアでするかを設定します。	p.113
色空間	使用する色空間を設定します。	p.117
カスタムのリセット	カスタムファンクションメニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.173

Fnメニューを使う

撮影時

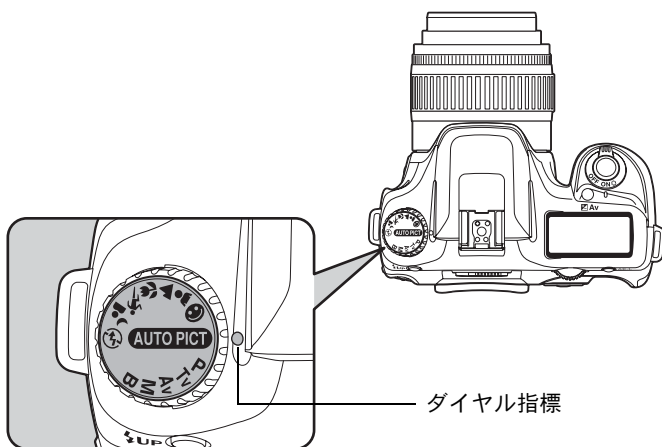
撮影モードで **Fn** ボタンを押すと、撮影モードのFnメニュー画面が表示されます。

続いて押す十字キー（▲▼◀▶）によって動作が決まります。

十字キー	項目	機能	参照
▲	ドライブモード	連続撮影、セルフタイマー、リモコン、オートブラケットを選択します。	p.53、p.55、p.59、p.144
▼	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.49
◀	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.112
▶	ISO感度	感度を設定します。	p.115

再生時

再生モードで**Fn**ボタンを押すと、再生モードのFnメニュー画面が表示されます。

続いて押す十字キー（▲◀▶）によって動作が決まります。

十字キー	項目	機能	参照
▲	DPOF設定	プリント予約をします。	p.79
◀	デジタルフィルタ	撮影した画像を白黒やセピア色に、またソフトやスリムに加工します。	p.71
▶	スライドショウ	保存された画像を連続して再生します。	p.68

モードダイヤルを使う

モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、撮影モードを切り替えることができます。

項目	機能	参照
AUTO PICT（オートピクチャー）	標準、人物、風景、マクロ、動体モードから最適な撮影モードを自動的に選択します。	p.47
（標準）	一般的な撮影に適しています。	
（人物）	人物撮影に適しています。	
（風景）	ピントが合って見える範囲を前後に深くし、木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色の画像に仕上げます。	
（マクロ）	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。	
（動体）	スポーツなど動きのある被写体に適しています。	
（夜景人物）	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。	
（ストロボオフ）	ストロボを発光禁止にします。その他の設定は（標準）と同じです。	

（夜景人物）では、ストロボを使用しても暗いところでシャッター速度が遅くなります。三脚等をご使用になり、手ぶれしないようご注意ください。

項目	機能	参照
P（プログラム）	シャッター速度と絞りが自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.134
Tv （シャッター優先）	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	p.135
Av（絞り優先）	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	p.137
M（マニュアル）	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、思い通りの絵作りをしたいときに使います。	p.139
B（バルブ）	花火や夜景などを長時間シャッターを開いたままで撮影したいときに使います。	p.141

5 機能リファレンス

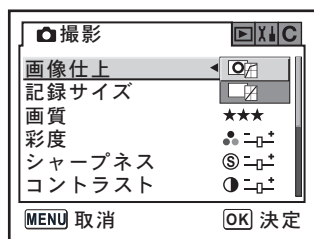
*istDS2 をより深く使いこなすための機能をご紹介します。

記録サイズと画質を設定する

画像仕上を設定する

画像の基本的な色調を設定します。初期設定は、（鮮やか）です。

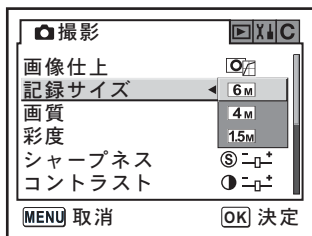
	鮮やか	鮮やかでコントラストが強く、シャープな画像に仕上げます。
	ナチュラル	レタッチ素材として最適な、自然な画像に仕上げます。

「撮影」メニューの「画像仕上」で設定します。（p.98）

ピクチャーモード（p.47）では、設定を変更できません。（鮮やか）に固定となります。

記録サイズを設定する

画像の記録画素数を 6M（3008×2008／3008×2000）、4M（2400×1600）、1.5M（1536×1024）から選ぶことができます。画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。また、画像の容量は設定している画質によっても異なります。初期設定は、6M（3008×2000）です。

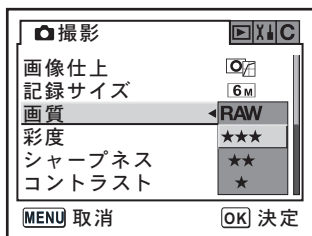
6M	3008×2008（RAW） 3008×2000（JPEG）	A3サイズでの印刷などに適しています。
4M	2400×1600	A4サイズでの印刷などに適しています。
1.5M	1536×1024	A5サイズでの印刷などに適しています。

「撮影」メニューの「記録サイズ」で設定します。（p.98）

「画質」がRAWの場合、「記録サイズ」は選択できません。（3008×2008固定）

画質を設定する

画像の画質を設定します。画像の容量は、設定している記録サイズによっても異なります。初期設定は、★★★（S.ファイン）です。

RAW	RAW	RAWデータはCCDの出力を加工せずに記録するデータのことです。 ホワイトバランス、コントラスト、彩度、シャープネスなどの設定は画像に反映されませんが、情報として記録されます。パソコンに転送し、付属ソフトウェアのPENTAX PHOTO Laboratory 2.1を使用して展開処理を行う場合には、これらの設定を使いJPEGやTIFFなどの画像データを作成します。
★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、A4サイズなど大きな画像のプリントなどに適しています。画像はJPEG形式で記録されます。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、画像のプリントおよびパソコンの画面で画像を見るときに適しています。画像はJPEG形式で記録されます。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。画像はJPEG形式で記録されます。

設定は「撮影」メニューの「画質」で設定します。（p.98）

彩度／シャープネス／コントラストを設定する

画像の彩度、シャープネス、コントラストを5段階から選択します。初期設定は、すべて「0（標準）」です。

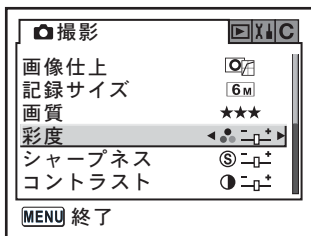
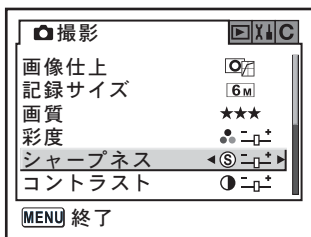
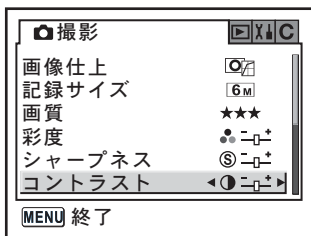
彩度	色の鮮やかさを設定します。
シャープネス	画像の輪郭をくっきりまたはソフトにします。
コントラスト	画像の明暗差を設定します。

「撮影」メニューの「彩度」「シャープネス」「コントラスト」で設定します。（p.98）

ピクチャーモード（p.47）では、設定を変更できません。

撮影
画像仕上
記録サイズ
画質
彩度
シャープネス
コントラスト
MENU 終了

＋側：彩度が高くなります。
－側：彩度が低くなります。

撮影
画像仕上
記録サイズ
画質
彩度
シャープネス
コントラスト
MENU 終了

＋側：シャープネスが強くなります。
－側：シャープネスが弱くなります。

＋側：コントラストが高くなります。
－側：コントラストが低くなります。

ホワイトバランスを調整する

被写体の色は光源によって変わります。例えば、日中の光があたっているときと電球の光があたっているときとでは、同じ白い被写体であっても白の色が違います。フィルムを使用するカメラでは、フィルムを使い分けたりフィルターを使用して調節しますが、デジタルカメラではホワイトバランスで白の色を調整します。初期設定は、**AWB**（オート）です。

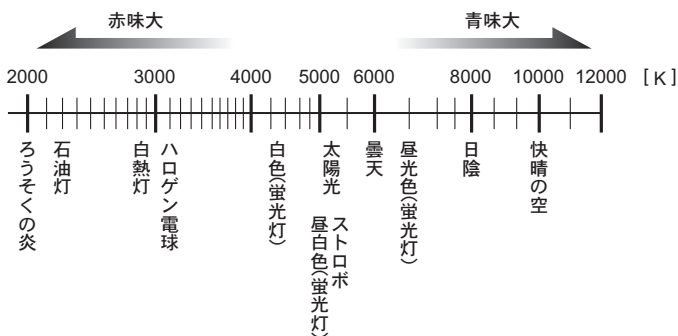
AWB	オート	調整をカメラにまかせます。（約4000～8000K）
	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。（約5200K）
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。（約8000K）
	曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。（約6000K）
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類によって、W（白色（約4200K）の蛍光灯）、N（昼白色（約5000K）の蛍光灯）、D（昼光色（約6500K）の蛍光灯）から選択することができます。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。（約2850K）
	ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。（約5400K）
	マニュアル	マニュアルで調整して撮影するときに設定します。

色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。

Fnメニューの「ホワイトバランス」で設定します。（p.102）

- マニュアルで調整する方法については、p.113をご覧ください。
- ピクチャーモード（p.47）では、調整できません。

色温度について

光の色は、温度が高くなるにつれて青味を帯びた光色に、温度が低くなるにつれて赤味を帯びた光色に変化します。このような光の色の変化を絶対温度（K：ケルビン）で表したものを色温度といいます。このカメラでは、さまざまな光の下で自然な色で撮影できるようホワイトバランスを設定できます。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

撮影時の光源に合わせて任意にホワイトバランスを調整します。マニュアルホワイトバランスを使うと、あらかじめカメラに用意されたホワイトバランス（p.112）では調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影できます。

1 モードダイヤルを、P、Tv、Av、Mのいずれかに合わせる

2 Fnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

3 十字キー（◀）を押す

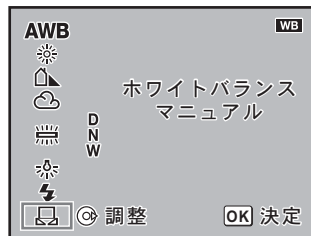
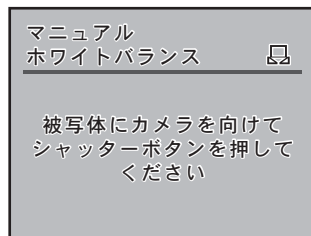
ホワイトバランス選択画面が表示されます。

4 十字キー（▼）を押し、 （マニュアル）を選択する

5 十字キー（▶）を押す

メッセージ画面が表示されます。

マニュアル
ホワイトバランス

被写体にカメラを向けて
シャッターボタンを押して
ください

6 ホワイトバランスを調整する照明の下で、白またはグレーの紙等をファインダーいっぱいに入れる

7 シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、フォーカスモードレバーを**MF**の位置に合わせてください。

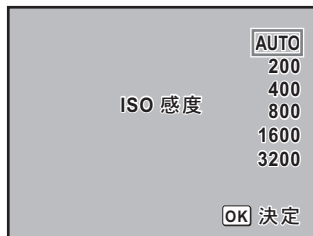
調整が完了すると、液晶モニターに「OK」と表示されます。

調整に失敗した場合は、「NG」と表示されます。

8 OKボタンを押す

- ホワイトバランスを調整するためにシャッターボタンを押しても、画像は記録されません。
- 調整がうまくいかなかったときは、**Fn**ボタンを押すと再調整できます。
- マニュアルでホワイトバランスを設定するときに測定する範囲を設定できます。「**C** カスタム」メニューの「マニュアルWBの測定」（p.101）で「画面全体」を選択すると、画面全体でホワイトバランスが測定され、測定時は分割測光（p.131）されます。「スポット測光エリア」を選択すると、スポット測光エリア（p.132）でのみホワイトバランスが調整されます。
- 極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。

感度を設定する

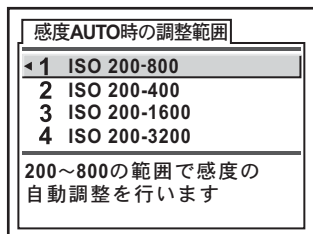
撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定します。
感度は、「AUTO（自動調整）」か、ISO感度200～3200相当の間で設定できます。初期設定は、「AUTO」です。
Fnメニューの「ISO感度」で設定します。（p.102）

ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。

感度AUTO時に自動調整する範囲を設定する

感度を「AUTO」にしているときに、どの範囲で感度の自動調整をするかを設定する機能です。初期設定では「ISO 200-800」の範囲で自動調整します。

1	ISO 200-800	200～800の範囲で感度の自動調整を行います。
2	ISO 200-400	200～400の範囲で感度の自動調整を行います。
3	ISO 200-1600	200～1600の範囲で感度の自動調整を行います。
4	ISO 200-3200	200～3200の範囲で感度の自動調整を行います。

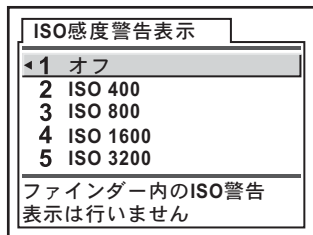
「**C** カスタム」メニューの「感度AUTO時の調整範囲」で設定します。（p.100）

感度AUTO時の調整範囲
1 ISO 200-800
2 ISO 200-400
3 ISO 200-1600
4 ISO 200-3200
200～800の範囲で感度の
自動調整を行います

以下の場合は、感度の自動調整はできません。
- 露出モードが**M**（マニュアル）、**B**（バルブ）のとき
- ストロボ発光時
- オートブラケット撮影時
- 露出を補正したとき

ISO感度警告表示をする

設定した感度を超えたときに、ファインダーにISO感度警告を表示します。常用しない感度を設定しておくと、感度を上げて撮影した後で、感度の戻し忘れを防ぐことができます。初期設定では、ISO感度警告は表示しません。

1	オフ	ISO感度警告表示はしません。
2	ISO 400	ISO400以上のときにISO感度警告を表示します。
3	ISO 800	ISO800以上のときにISO感度警告を表示します。
4	ISO 1600	ISO1600以上のときにISO感度警告を表示します。
5	ISO 3200	ISO3200のときにISO感度警告を表示します。

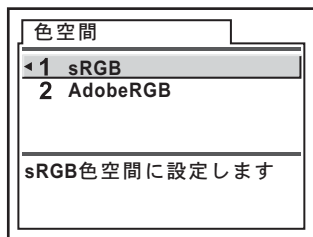
「**C**カスタム」メニューの「ISO感度警告表示」で設定します。（p.100）

感度を設定値以上にすると、ファインダー内に**ISO**（ISO感度警告表示）が表示されます。

カメラが感度を自動調整（p.115）した場合は、設定した感度を超えた場合でも、ISO感度警告は表示されません。

色空間を設定する

使用する色空間を設定できます。初期設定は、「1 sRGB」です。

1	sRGB	sRGB色空間に設定します。
2	AdobeRGB	AdobeRGB色空間に設定します。

「**C** カスタム」メニューの「色空間」で設定します。（p.101）

色空間とは

デジタルカメラやモニター、プリンターなどの画像入出力機器は、それぞれ色を再現できる範囲が異なります。
この色再現可能範囲を色空間といいます。
異なる色空間を持つ機器同士の色再現を合わせるために、いくつかの基準となる色空間が提案されていますが、このカメラではsRGB色空間とAdobeRGB色空間に対応しています。
sRGB色空間はパソコンを中心とした機器で広く使われています。
AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも広い色再現範囲をもっており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。
なお、AdobeRGB色空間で作られた画像をsRGB対応の機器でそのまま出力すると、sRGB色空間で作られた画像を出力したときに比べ色が薄く見えます。

ピントを合わせる

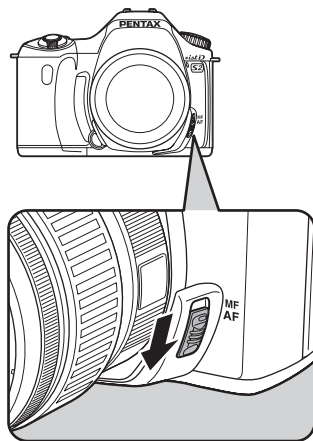
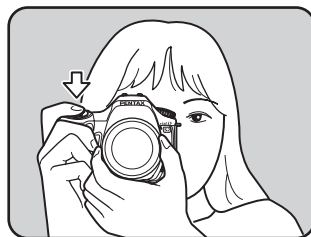
ピント合わせの方法には、以下の2通りがあります。

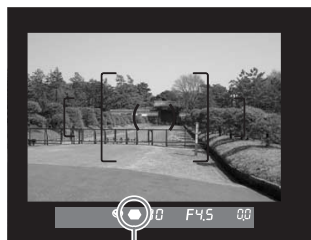
AF	オートフォーカス	シャッターを半押しにすると自動的にピントを合わせます。
MF	マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを調整します。

また、ファインダー内でピントを合わせる位置（測距点）は、「オート」「セレクト」「中央」から選択できます。（p.122）

オートフォーカスを利用する

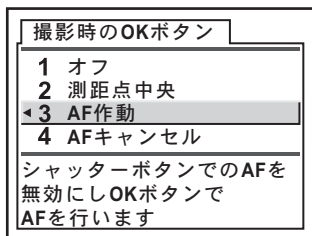
オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしてピントが合うとその位置に固定する**AF.S**（シングルモード）と、半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整する**AF.C**（コンティニュアスモード）があります。（p.121）

1 **フォーカスモードレバーをAFの位置に合わせる**

2 ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。（点減すると、ピントは合っていません。）

☞ オートフォーカスが苦手なもの（p.46）

合焦マーク

- **AF.S**（シングルモード）では、⬣が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。
- フォーカスモードを **AF.C**（コンティニュアスモード）に設定しているとき（p.121）と🏃（動体）モード時には、合焦後もピントが固定されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。
- **AF.S**（シングルモード）に設定されているとき（p.121）は、ピントが合わないかぎりシャッターをきれません。被写体に近づき過ぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手なもの（p.46）の場合は、マニュアルでピントを調整してください。（p.126）
- **AF.S**（シングルモード）では、内蔵ストロボが上がっているときは、被写体が暗い場合には、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵ストロボがマルチ発光され、オートフォーカスでのピントが合いやすくなります。
- **AF.S**（シングルモード）、**AF.C**（コンティニュアスモード）にかかわらず、カメラが被写体を動体と判断すると自動的に動体予測を行います。

OK ボタンを使ってピントを合わせる

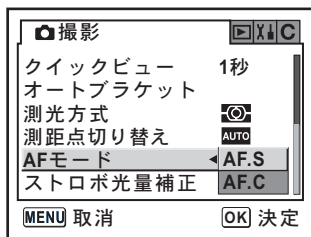
シャッターボタンを半押ししたときのピント合わせを無効にして、**OK** ボタンを押したときにピント合わせをするように設定できます。通常はマニュアルフォーカスで使用して、一時的にオートフォーカスを使いたいときに有効です。
「**C** カスタム」メニューの「撮影時のOKボタン」で「3 AF作動」を選択してください。（p.100）

この機能はクイックシフトフォーカス対応レンズ以外では使用しないでください。

- 「4 AFキャンセル」を選択すると、**OK** ボタンを押している間は、ファインダー内に **MF** が表示され、シャッターボタンを押してもオートフォーカスしません。通常はオートフォーカスで使用し、一時的にマニュアルフォーカスで使いたいときに有効です。
- クイックシフトフォーカス対応のレンズを使用している場合、**OK** ボタンを押している間はそのままピントリングでピントを合わせてシャッターをきることができます。（**OK** ボタンを離せば、すぐに通常のAF撮影に戻れます）

AFモードを設定する

オートフォーカスの方法を以下の２つから選択できます。初期設定は、**AF.S**（シングルモード）です。

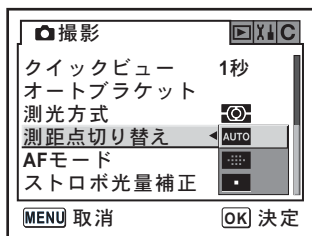
AF.S	シングルモード	シャッターボタンを半押しにしてピントが合うと、その位置にピントを固定します。
AF.C	コンティニュアスモード	シャッターボタンを半押しにしている間、被写体に合わせて常にピントを調整します。

「撮影」メニュー（p.98）の「AFモード」で設定します。

- ピクチャーモード（p.47）では、設定を変更できません。
- **AF.C**（コンティニュアスモード）が設定できるのは、モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**B**のいずれかに合わせた場合です。ピクチャーモードの（動体）では、**AF.C**に固定されます。

ピント合わせ位置（測距点）を選択する

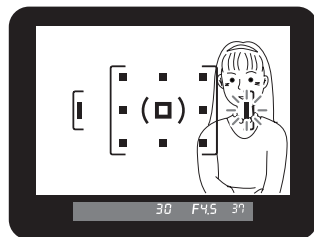
ファインダー内のどの位置にピントを合わせるかを設定できます。初期設定は、AUTO（オート）です。
選択された測距点は、ファインダー内に赤色光で表示されます。

AUTO	オート	被写体が中央になくても、自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。
⁞⁞⁞	セレクト	AFフレーム内の11の測距エリアの中の任意のエリアにピントを合わせます。
▪	中央	ファインダー内の中央にピントを合わせます。

「📷撮影」メニュー（p.98）の「測距点切り替え」で設定します。

「Cカスタム」メニューの「スーパーインポーズ」で「2 オフ」を選択すると、ファインダー内に測距点を表示しません。（p.100）

ファインダー内の任意の位置にピントを合わせる

1 **「📷 撮影」メニューの「測距点切り替え」で ▦（セレクト）を選択する**

2 **ファインダーをのぞきながら、被写体の位置を確認する**

3 **十字キー（▲▼◀▶）を押して、ピントを合わせたい位置に測距点を設定する**

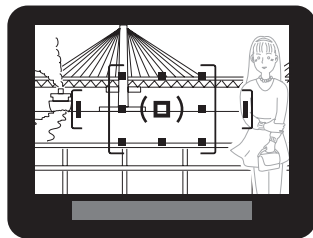
ファインダー内の測距点表示が赤く点灯（スーパーインポーズ）し、どの位置に設定したかを確認できます。

- 「**C** カスタム」メニューの「撮影時のOKボタン」が「2 測距点中央」に設定されている場合、▦（セレクト）で中央以外の測距点が選ばれているときに**OK** ボタンを押すと、測距点が中央に設定されます。
- DA・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず測距点は中央に固定されます。

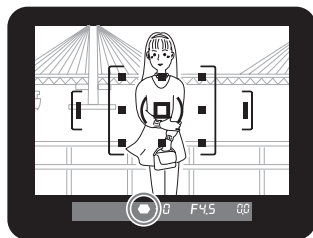
ピントを固定する（フォーカスロック）

オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものが測距点の範囲外にあるときは、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合は、いったん測距点の範囲内で被写体にピントを合わせて固定し（フォーカスロック）、画像の構図を変えて撮影してください。

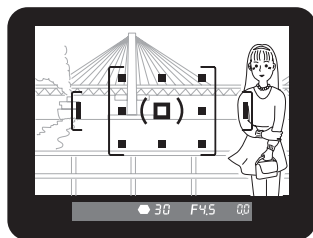
1 撮りたい画像の構図をファインダーで確認する

ピントを合わせたいものがどの測距点の内側にも入っていないときにフォーカスロック機能を使います。

（例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

2 ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しする

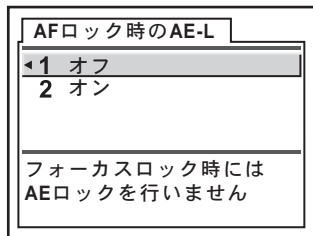
ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。（点滅しているときは、ピントは合っていません。）

3 フォーカスロックする

シャッターボタンを半押しにしたままにすると、そのままフォーカスロックされます。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻る

- 合焦マーク ⬣ が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 電子音が鳴らないように設定できます。（p.164）
- フォーカスモードが **AF.C**（コンティニュアスモード）のときと、撮影モードが 🏃（動体）に設定されているときは、フォーカスロックできません。**AF.C**（コンティニュアスモード）と🏃（動体）モードでは、シャッターをきるまでカメラがピントを合わせ続けます。（コンティニュアスオートフォーカス）

フォーカスロック時に露出値も固定する

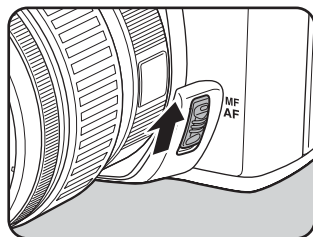
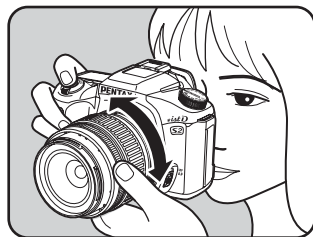
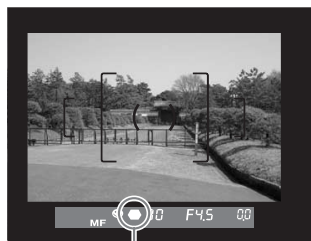
「**C** カスタム」メニューの「AFロック時のAE-L」（p.100）を使ってフォーカスロック時に露出値を固定できます。初期設定では、フォーカスロック時には露出値は固定されません。

1	オフ	フォーカスロック時に露出値を固定しません。
2	オン	フォーカスロック時に露出値を固定します。

マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整するには、ファインダー内の合焦マークを利用する方法と、ファインダー内のマット面を利用する方法があります。

合焦マークを利用する

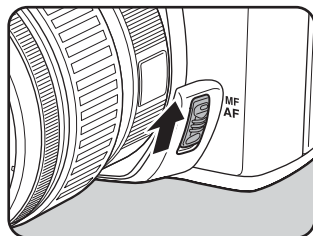
ファインダーの合焦マーク⬣を利用して、手動でピントを調整します。

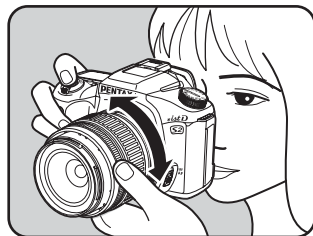
1 **フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせる**

2 **ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しにし、レンズの距離リングを回す**

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

合焦マーク

- 被写体がオートフォーカスの苦手なもの（p.46）に該当し、合焦マークが点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.164）

マット面を利用する

ファインダーのマット面を利用して、手動でピントを調整します。

1 フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせる

2 ファインダーをのぞきながらファインダー内の像が最もはっきり見えるように、レンズの距離リングを回す

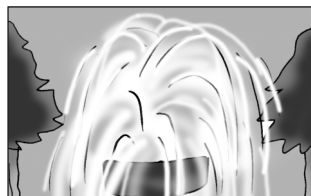
露出を設定する

絞りとシャッター速度の効果について

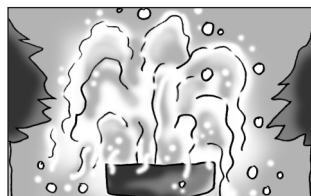
撮りたいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。ただし、被写体の適正露出を決めるときのシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことで、画像の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度を変えると、光がCCDにあたる時間が長くなったり、短くなったりして、CCDにあたる光の量を調整できます。

● **シャッター速度を遅くする**

シャッターが開いている時間が長くなるため、被写体が動いていれば、ブレとして画像に記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮ることで、動感のある画像になります。

● **シャッター速度を速くする**

動きのあるものでも動きを止めて撮影することができます。
また、シャッターをきるときにカメラが動いてしまうカメラぶれを起きにくくする効果があります。

絞りの効果

絞りを変えることでレンズを通る光の量を多くしたり、少なくしたりしてCCDにあたる光の量を調整できます。

● 絞りを開く（絞り値を小さくする）

ピントを合わせたものに比べて、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景のぼけを大きくし、花だけが浮き上がる効果があります。

● 絞りを絞る（絞り値を大きくする）

ピントが合って見える範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で花を撮影すると、ピントを合わせた花の前後にある風景までピントが合っているように見えます。

被写界深度

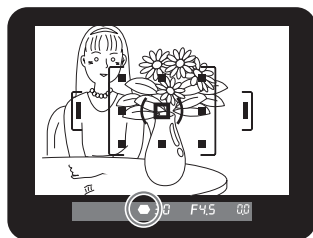
被写体のある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合って見える範囲があります。このピントが合って見える範囲を被写界深度といいます。

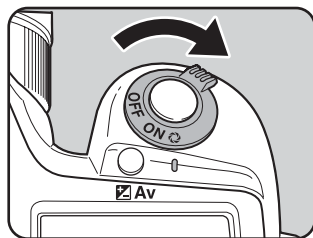
- レンズによる違いはありますが、*istDS2に35ミリカメラ用のレンズを使用した場合は、35ミリカメラに使用したときと比べて約1絞り程度、被写界深度が浅く（ピントが合って見える範囲が狭く）なります。
- 広角レンズほど、また被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。（ズームレンズなど、機構上被写界深度の目盛が付いていないレンズもあります。）

被写界深度	浅い	←→	深い
ピントが合って見える範囲	狭い	←→	広い
絞り	絞りを開く（絞り値を小さく）	←→	絞りを絞る（絞り値を大きく）
レンズの焦点距離	長くする（望遠）	←→	短くする（広角）
被写体までの距離	近い	←→	遠い

被写界深度の確認方法

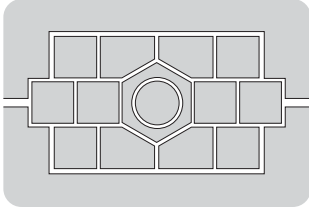
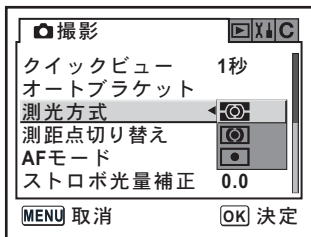
撮影したいもののある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合って見える範囲があります。このピントが合って見える範囲を被写界深度といいます。被写界深度確認機能を利用すると、撮影するときにピントが合って見える範囲（被写界深度）をファインダー内で確認することができます。

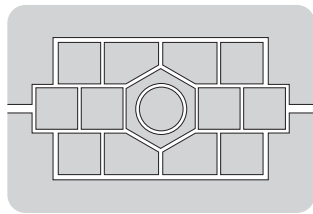
1 撮りたいものにピントを合わせる

2 ファインダーをのぞきながら、電源レバーを に合わせる

レバーを押している間、ファインダー内で被写界深度を確認できます。

- 電源レバーをプレビュー位置（ ）に合わせている間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれなくなります。
- 被写界深度はすべての露出モードで確認できます。

測光方式を選択する

ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。測光方式には、[分割測光アイコン]（分割測光）、[中央重点測光アイコン]（中央重点測光）、[スポット測光アイコン]（スポット測光）が用意されています。初期設定は、[分割測光アイコン]（分割測光）です。

[分割測光アイコン]	分割測光	画面内を16分割して、それぞれの部分を測光し、もっとも適切と思われる露出を決めます。
[中央重点測光アイコン]	中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
[スポット測光アイコン]	スポット測光	画面中央の一部分だけを測光し、露出を決めます。

「[カメラアイコン]撮影」メニューの「測光方式」で設定します。（p.98）

分割測光を利用する

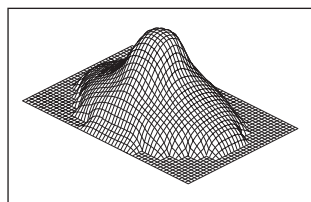
分割測光では、図のように画面内を16に分割して明るさが測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、補正されます。

DA・D FA・FA J・FA・F・A以外のレンズでは、分割測光に設定しても中央重点測光になります。（「Cカスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.101）で許可を設定した場合のみ使用可能）

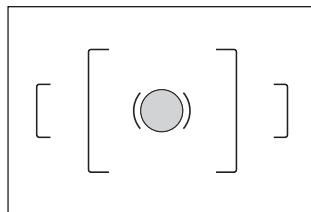
分割測光時に測距点と露出を関連付ける

「**C** カスタム」メニューの「測距点と露出の関連付」(p.100) で、分割測光時に露出値と測距点(ピント合わせ位置)を関連付けることができます。初期設定は、「1 オフ」です。

1	オフ	露出値は、測距点の位置と関係なく設定されます。
2	オン	露出値は、測距点の位置に応じて調整されます。

中央重点測光を利用する

ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときにカメラまかせではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。中央重点測光では、図のように高さが高い部分(中央部分)ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正は行なわれません。

スポット測光を利用する

スポット測光では、図のようにファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。撮影したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能(p.143)と組み合わせて利用すると便利です。

測光時間を設定する

「**C** カスタム」メニューの「測光作動時間」(p.100) で、測光タイマーの作動時間を設定できます。初期設定は、「1 10秒」です。

1	10秒	測光タイマーの作動時間を10秒にします。
2	3秒	測光タイマーの作動時間を3秒にします。
3	30秒	測光タイマーの作動時間を30秒にします。

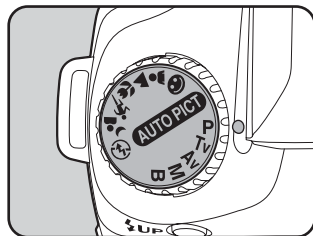
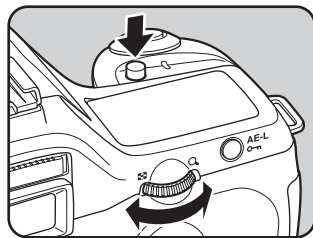
露出モードを切り替える

このカメラには、ピクチャーモードの他に以下の5つの露出モードが用意されています。
露出モードは、「モードダイヤル」（p.104）を使って切り替えます。

露出モード	内容	露出補正	シャッター速度変更	絞り値変更
P（プログラム）	シャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	○	×	×
Tv（シャッター優先）	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。動きの速い被写体を止まっているように、あるいは躍動感を出して撮影できます。	○	○	×
Av（絞り優先）	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。被写体の背景をぼかしたり、くっきりさせたりできます。	○	×	○
M（マニュアル）	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、思い通りの絵作りをしたいときに使います。	×	○	○
B（バルブ）	花火や夜景などを長時間シャッターを開いたままで撮影したいときに使います。	×	×	○

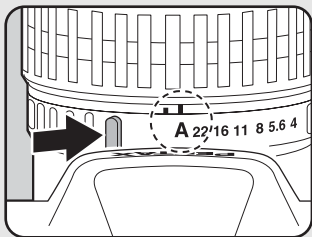
P（プログラム）モードを利用する

シャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。露出を調整する場合は、以下のように操作します。

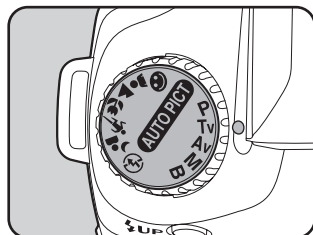
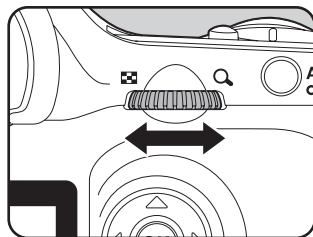
1 モードダイヤルを回して P の位置に合わせる

2 ⊠Av ボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、露出を調整する

ファインダーと表示パネルに露出補正値が表示されます。

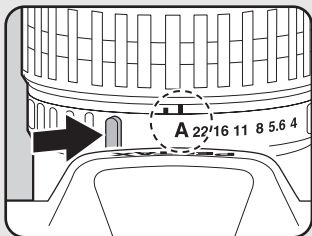
露出補正値

露出を調整中は、シャッター速度と絞り値も表示されます。

- 露出補正値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定できます。露出補正の設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）
- 設定した条件では適正露出が得られない場合に適正露出を得られるよう、感度を自動調整できます。Fnメニューの「ISO感度」で「AUTO」に設定します。（p.115）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

Tv（シャッター優先）モードを利用する

シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。シャッター速度を速くして動きの速い被写体を止まっているように撮影したり、シャッター速度を遅くして躍動感を出したりできます。
なお、絞り値は使用するシャッター速度に合わせて適正露出になるよう自動的に設定されます。
☞絞りとシャッター速度の効果について（p.128）

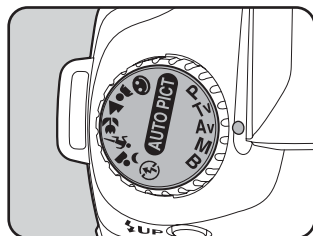
1 モードダイヤルを回して Tv の位置に合わせる

2 セレクトダイヤルを回して、シャッター速度を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。

- 露出補正値を変更するには、⊠Av ボタンを押しながらセレクトダイヤルを回します。（p.142）
- シャッター速度は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）
- 設定した条件では適正露出を得られない場合に、適正露出を得られるように感度を自動調整できます。Fnメニューの「ISO感度」で「AUTO」に設定します。（p.115）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

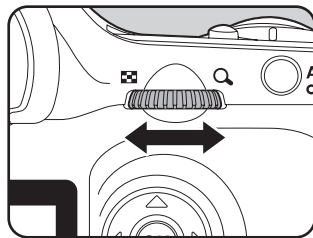
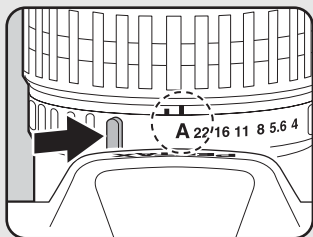
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、シャッター速度を変えても適正露出は得られません。
明るすぎるときは、NDフィルターをお使いください。
暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Av（絞り優先）モードを利用する

絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントを合わせた被写体の前後まで鮮明に撮影することができます。また、絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた被写体の前後をぼかすことができます。
なお、シャッター速度は使用する絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。
☞絞りとシャッター速度の効果について （p.128）

1 モードダイヤルを回して Av の位置に合わせる

2 セレクトダイヤルを回して、絞り値を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。

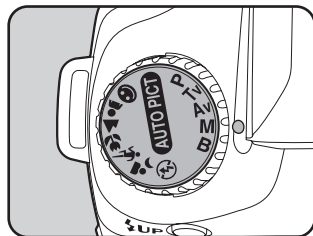
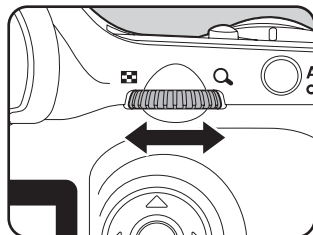
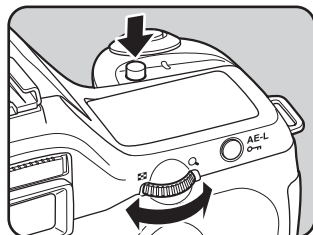
30　F4.5　37

- 露出補正値を変更するには、⊠Av ボタンを押しながらセレクトダイヤルを回します。（p.142）
- 絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C**カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）
- 設定した条件では適正露出を得られない場合に適正露出を得られるよう、感度を自動調整できます。Fnメニューの「ISO感度」で「AUTO」に設定します。（p.115）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを**A**位置に合わせます。

露出警告

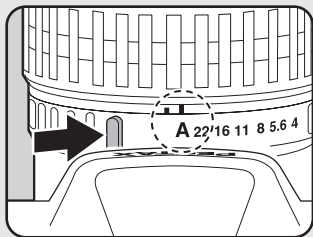
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞り値を小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞り値を開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば撮影できます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、絞り値を変えても適正露出は得られません。
明るすぎるときは、NDフィルターをお使いください。
暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

M（マニュアル）モードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意の値に設定し、それを組み合わせて思いどおりの絵作りをするのに適しています。常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影したいときや、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

☞絞りとシャッター速度の効果について （p.128）

1　モードダイヤルを回して M の位置に合わせる

2　セレクトダイヤルを回して、シャッター速度を調整する

3　Av ボタンを押しながらセレクトダイヤルを回して、絞り値を調整する

ファインダーと表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。ファインダー内の表示では、シャッター速度と絞り値のうち、調整中の方の下線が点灯します。シャッター速度あるいは絞り値の調整中、ファインダー内右下に適正露出との差が数値（EV値）で表示されます。「0.0」表示になったところが適正露出です。

- **M**（マニュアル）モード時、感度がAUTOになっている場合は、200相当で作動します。
- 適正露出との差が±3.0より大きいと、点滅表示になります。
- シャッター速度と絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを **A** 位置に合わせます。

露出警告

シャッター速度と絞り値が点滅する場合は、測光範囲外です。明るすぎるときはNDフィルターをお使いください。暗すぎるときはストロボなどをご利用ください。

AE-Lボタンについて

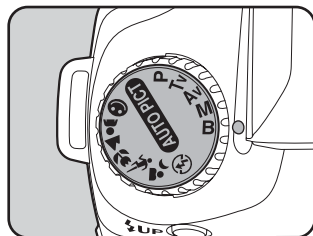
M（マニュアル）モードで**AE-L**ボタンを押すと、その時点での適正露出値になるよう絞り値とシャッター速度が自動的に調整されます。調整方法は、「**C**カスタム」メニューの「MでのAE-Lボタン」で、以下の3つから選択できます。

1	プログラムライン	絞り値とシャッター速度を自動的に調整します。
2	Tvシフト	絞り値を固定したまま、シャッター速度を自動的に調整します。
3	Avシフト	シャッター速度を固定したまま、絞り値を自動的に調整します。

レンズの絞りが**A**位置以外の場合、レンズの絞りに応じて適正露出となるようにシャッタースピードが調整されます。
☞「絞りリングの使用」設定時の注意 （p.182）

B（バルブ）モードを利用する

花火や夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。
シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

1 モードダイヤルを回して B の位置に合わせる

- 絞り値を調整するには、セレクトダイヤルを回します。
- 絞り値は、1/2 EVまたは1/3 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C**カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。(p.143)
- **B**（バルブ）モードで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、ケーブルスイッチCS-205（別売品）を使用してください。ケーブルスイッチはケーブルスイッチ端子（p.15）に接続してください。
- リモコン撮影（p.59）を利用すると、リモコンのシャッターを押している間、バルブ撮影をすることができます。
- シャッター速度を遅くしたときに発生するノイズ（画面のざらつきやムラ）を減らす処理をすることができます。「**C**カスタム」メニューの「ノイズリダクション」で設定します。（p.100）
- **B**（バルブ）モード時、感度がAUTOになっている場合は、200相当で作動します。

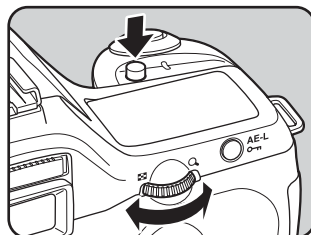
露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。露出補正は、－2～＋2（EV）の範囲で、1/2 EVまたは1/3 EVごとに設定することができます。
設定ステップは、「**C**カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）

1 ± Av ボタンを押しながらセレクトダイヤルで補正値を設定する

2 ファインダーで補正値を確認する

90　F4.0 ± 1.5

補正値

補正中は±が表示されます。
ストロボ光量補正設定がされていると、ストロボポップアップ時に±が点滅します。

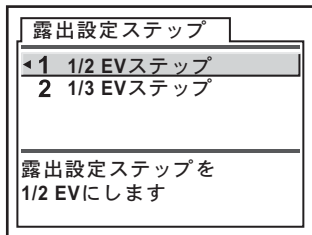
露出モードを**M**（マニュアル）モードまたは**B**（バルブ）モードに設定しているときは、露出補正はできません。

電源をオフにしたり、他の露出モードにしても露出補正は解除されません。

5

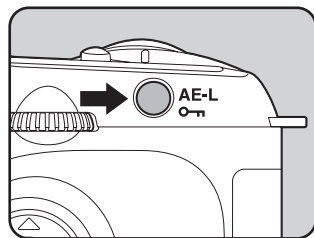
機能リファレンス

露出設定ステップを変更する

「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」を使って露出設定のステップを1/2 EVか1/3 EVに設定できます。

撮影前の露出を記憶させる（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどにお使いください。

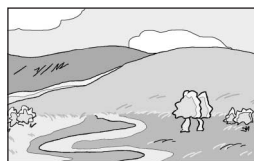
1 AE-L ボタンを押す

その時点の露出（明るさ）をカメラが記憶します。
もう一度押すと解除できます。

- AEロック中は、ファインダー内に✱が表示されます。（p.20）
- **AE-L** ボタンから指を離しても、測光タイマーの2倍の時間は露出が記憶されています。**AE-L** ボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。
- **AE-L** ボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないようにすることもできます。（p.164）
- **M**（マニュアル）モードと **B**（バルブ）モードでは、AEロックは利用できません。
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックをした時点での明るさで画像は撮影されます。
- 露出モードを **M**（マニュアル）モードに設定しているときは、**AE-L** ボタンを押すと、その時点での適正露出値になるよう絞り値とシャッター速度、またはそのいずれかが自動的に調整されます。（p.141）
- フォーカスロック時に露出を固定できます。「**C** カスタム」メニューの「AFロック時のAE-L」で設定します。（p.125）

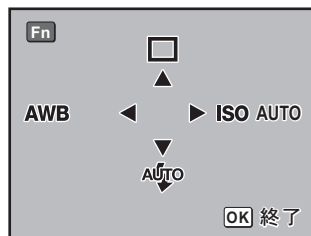
露出を自動で変えて撮る（オートブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が違う画像を連続して撮影できます。初期設定では、1枚目は補正なしの画像、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）の画像、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の画像を撮影します。

標準露出

アンダー露出

オーバー露出

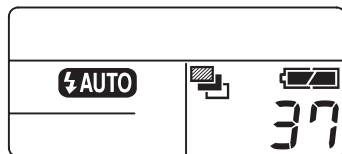
1 撮影モードでFnボタンを押す

Fnメニュー画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

ドライブモード選択画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押して、（オートブラケット）を選択する

4 OK ボタンを2回押す

撮影できる状態になり、表示パネルに▣が表示されます。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク●が点灯します。

6 シャッターボタンを全押しする

連続して1枚目は補正なし、2枚目はマイナス側、3枚目はプラス側にそれぞれ補正して、3枚の画像が撮影されます。

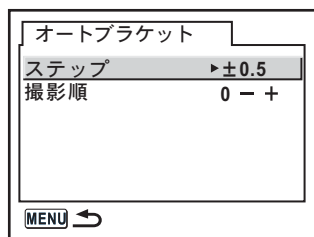
- フォーカスモードが **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光タイマー（p.132）の2倍（初期設定約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影することができます。この場合、各コマごとにピント合わせが行なわれます。測光タイマーの2倍（初期設定約20秒）を過ぎると1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 内蔵ストロボあるいは、外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）とオートブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続して撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。
- **B**（バルブ）モードに設定しているときは、オートブラケット撮影はできません。

オートブラケットの設定をする

オートブラケットのステップと撮影順を変更できます。

ステップ（ステップ幅）	1/2 EV	±0.5、±1.0、±1.5、±2.0
	1/3 EV	±0.3、±0.7、±1.0、±1.3、±1.7、±2.0
撮影順		0→－→＋、－→0→＋、＋→0→－

※ ステップの幅は、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）

「撮影」メニューの「オートブラケット」で設定します。（p.98）

オーバー方向またはアンダー方向のみの画像を撮るには

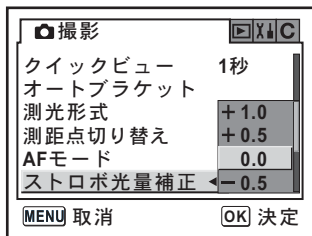
露出補正機能（p.142）と組み合わせることで、オーバー方向、またはアンダー方向のみのオートブラケット撮影を行うことができます。どちらの場合も、露出補正値を中心としたオートブラケット撮影が行なわれます。

ストロボの光量を補正する

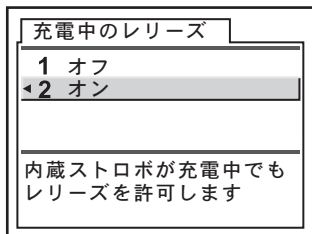
ストロボの光量を–2.0～＋1.0の範囲で変えることができます。設定ステップが、1/2 EVの場合と1/3 EVの場合とで、光量補正値は以下のようになります。

ステップ幅	ストロボ補正値
1/2 EV	–2.0、–1.5、–1.0、–0.5、0.0、+0.5、+1.0
1/3 EV	–2.0、–1.7、–1.3、–1.0、–0.7、–0.3、0.0、+0.3、+0.7、+1.0

※ ステップの幅は、「**C** カスタム」メニューの「露出設定ステップ」で設定します。（p.143）

「撮影」メニュー（p.98）の「ストロボ光量補正」で設定します。

- ストロボ光量補正中は、ストロボのポップアップ時にファインダー表示ガイドのアイコンが点滅します。（p.20）
- ＋側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、感度を高く設定している場合などは、－側に補正をしても効果がないことがあります。

ストロボ充電中に撮影できるようにする

内蔵ストロボが充電中でも撮影できるようにすることができます。
「**C** カスタム」メニューの「充電中のレリーズ」（p.101）で「2 オン」を選択します。初期設定では、ストロボ充電中は撮影できません。

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tv（シャッター優先）モードでストロボを使う

- 動きのあるものを撮影するときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影をすることができます。
- 1/180 秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影をすることができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。
- DA・D FA・FA J・FA・F・Aレンズ以外のレンズを使用した場合は、シャッター速度は1/180秒固定になります。

Av（絞り優先）モードでストロボを使う

- ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えて撮影したいときや、より遠くのものを写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影をすることができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は 1/180 秒から低速側はカメラぶれをしにくいシャッター速度（p.42）まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。
- DA・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合は、シャッター速度は1/180秒固定になります。

低速シンクロを利用する

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに撮影できます。

- 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、撮影される側が動いても、写真はぶれてしまいますので、ご注意ください。
- 低速シンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

● Tv（シャッター優先）モードを使う場合

1 モードダイヤルをTvに合わせる
Tv（シャッター優先）モードになります。
2 セレクトダイヤルで好みのシャッター速度を設定する
シャッター速度を設定したときに絞り値が点滅していると、背景が適正露出になりません。絞り値が点滅しないようにシャッター速度を調整してください。
3 ϟUPボタンを押す
ストロボが上がります。
4 撮影する

● M（マニュアル）モードを使う場合

1 モードダイヤルをMに合わせる
M（マニュアル）モードになります。
2 適正露出になるように、シャッター速度（1/180秒以下）と絞り値を設定する
3 ϟUPボタンを押す
ストロボが上がります。
M（マニュアル）モードでは、撮影前のどの時点でストロボを上げても構いません。
4 撮影する

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影の距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて、光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

内蔵ストロボのガイドナンバー

感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 200	15.6
ISO 400	22
ISO 800	31
ISO 1600	44
ISO 3200	62

使用絞りから撮影距離を算出する方法

使用絞りが決まった場合、ストロボをどの距離まで使用できるかは、次の式で計算できます。
遠距離側の目安　距離L1＝ ガイドナンバー÷使用絞り
近距離側の目安　距離L2＝ 遠距離側目安÷5*
* 上記の「5」という数値は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

計算例
感度が「ISO 200」の場合、絞り値F4で使用すると、
L1＝15.6÷4＝約3.9（m）
L2＝ 3.9÷5＝約0.8（m）
すなわち、約0.8mから3.9mの範囲でストロボが使えます。
ただし、このカメラの内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。

撮影距離から使用絞りを算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

使用絞り値 F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）感度が「ISO 200」の場合、撮影距離5.2mで計算すると、

F＝15.6÷5.2＝3

上記のように計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「2.8」に設定します。

DA・D FA・FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表

*istDS2でDA・D FA・FA J・FA・Fレンズをフードなしで使用する場合、内蔵ストロボとの適合条件は次に示すとおりです。
○：使用可
△：条件付きで使用可
×：ケラレが発生するので使用不可
いずれもフードなしでの評価です。

レンズ名	適　合
Fフィッシュアイ 17-28mm F3.5-4.5	△ 焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA16-45mmF4ED AL	△ 焦点距離が28mm未満のとき、および、焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生することがあります。
FA J18-35mm F4-5.6AL	△ 焦点距離18mmで撮影距離が1m以内では、ケラレが発生することがあります。
DA18-55mm F3.5-5.6AL	○
FA20-35mm F4AL	○
FA24-90mm F3.5-4.5AL (IF)	○
FA28-70mm F4AL	○
FA★28-70mm F2.8AL	△ 焦点距離が28～35mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FA J28-80mm F3.5-5.6	○
FA28-80mm F3.5-5.6	○
FA28-90mm F3.5-5.6	○
FA28-105mm F4-5.6	○
FA28-105mm F4-5.6 (IF)	○
FA28-105mm F3.2-4.5AL (IF)	○
FA28-200mm F3.8-5.6AL (IF)	○
FA35-80mm F4-5.6	○
DA50-200mm F4-5.6ED	○
FA70-200mm F4-5.6	○
FA J75-300mm F4.5-5.8AL	○
FA★80-200mm F2.8ED (IF)	○

レンズ名	適　合
FA80-320mm F4.5-5.6	○
FA80-200mm F4.7-5.6	○
FA100-300mm F4.7-5.8	○
FA★250-600mm F5.6ED (IF)	×
DA14mm F2.8ED (IF)	×
FA20mm F2.8	○
FA★24mm F2AL (IF)	○
FA28mm F2.8AL	○
FA31mm F1.8AL Limited	○
FA35mm F2AL	○
DA40mmF2.8 Limited	○
FA43mm F1.9 Limited	○
FA50mm F1.4	○
FA50mm F1.7	○
FA77mm F1.8 Limited	○
FA★85mm F1.4 (IF)	○
FA135mm F2.8 (IF)	○
FA★200mm F2.8ED (IF)	○
FA★300mm F2.8ED (IF)	×
FA★300mm F4.5ED (IF)	○
FA★400mm F5.6ED (IF)	○
FA★600mm F4ED (IF)	×
D FAマクロ50mm F2.8	○
D FAマクロ100mm F2.8	○
FAマクロ50mm F2.8	○
FAマクロ100mm F2.8	○
FAマクロ100mm F3.5	○
FA★マクロ200mm F4ED (IF)	○
FAソフト28mm F2.8	△ 内蔵ストロボは常にフル発光になります。
FAソフト85mm F2.8	△ 内蔵ストロボは常にフル発光になります。

外付けストロボ（別売品）を使って撮影する

外付けストロボAF360FGZ（別売品）を使用すると、P-TTLオートストロボ撮影、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影などの多彩なストロボ撮影を行うことができます。下表を参考にしてご使用ください。
（○：使用可能　△：条件付使用可能　×：使用不可能）

※外付けストロボのご利用には、より精度の高いP-TTLオートストロボ撮影ができるAF360FGZをお勧めします。

ストロボ / カメラの機能	内蔵ストロボ	AF360FGZ	AF500FTZ
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○
ストロボ自動発光ができる	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○
P（プログラム）モード、**Tv**（シャッター優先）モードで絞りが自動セットされる	○	○	○
P-TTLオートストロボ撮影ができる（連動感度：200～3200）	○*1	○*1	×
TTLオートストロボ撮影ができる（連動感度：200～400）	×	△*2 *3	△*3
低速シンクロ撮影ができる	○	○	○
ストロボ光量補正ができる	○	○	○
AF補助光が使用できる	○	○	○
後幕シンクロ撮影ができる*4	△*5	○	○
光量比制御モードで撮影ができる	△*6	○	○
スレーブ機能が働く	×	○	○
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×
ワイヤレスで撮影ができる*7	×	○	○

*1 DA・FA J レンズおよび、D FA・FA・A レンズを絞りA位置で使用した場合のみ可能。
*2 絞りA位置以外で使用した場合。
*3 最小絞り付近では露出アンダー傾向に、開放F値が明るいレンズの開放絞り付近では露出オーバー傾向になる場合あり。
*4 シャッター速度は、1/90秒以下に限定。
*5 AF360FGZと組み合わせて後幕シンクロが可能。
*6 AF360FGZと組み合わせたとき、内蔵ストロボ1/3、外付けストロボ2/3の光量配分で可能。
*7 AF360FGZが2台以上必要。

AF360FGZのLCDパネル表示について

AF360FGZの場合、使用レンズの焦点距離による35mm判と*ist DS2との画角差を自動で換算します。(DA・D FA・FA J・FA・Fレンズ使用時)換算表示は*ist DS2の測光タイマーがオンの間のみ行われ、FORMATサイズ表示は消灯となります。(測光タイマーがオフになると、35mm判表示に戻ります)

<table>
<tr><th colspan="2">使用レンズの焦点距離</th><th>85mm</th><th>77mm</th><th>50mm</th><th>35mm</th><th>28mm</th><th>24mm</th><th>20mm</th><th>18mm</th></tr>
<tr><td rowspan="2">AF360FGZ
LCDパネル</td><td>測光タイマー
オフ</td><td colspan="2">85mm</td><td>70mm</td><td>50mm</td><td colspan="2">35mm</td><td>28mm</td><td>24mm※</td></tr>
<tr><td>測光タイマー
オン</td><td colspan="2">58mm</td><td>48mm</td><td>34mm</td><td colspan="2">24mm</td><td>19mm</td><td>16mm※</td></tr>
</table>

※ワイドアダプター使用

P-TTLオートで使う

AF360FGZと組み合わせた場合、発光モードを「P-TTLオート」に設定すると、撮影直前にストロボをプリ発光させ、16分割で測光するため、より正確な制御が可能です。AF360FGZを2台以上使用すれば、ワイヤレスでもP-TTLオートが可能です。

1 カメラのホットシューに付いているカバーを取り外し、AF360FGZを取り付ける
2 AF360FGZの電源を入れる
3 AF360FGZの発光モードをP-TTLオートに設定する
4 AF360FGZの充電完了を確認し、撮影する

- P-TTLオートはAF360FGZとの組み合わせでのみ有効です。
- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ も点灯します。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- ストロボモードが AUTO および ϟ A の場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、ストロボボタンを押さないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する場合は、p.158の方法で接続してください。

ハイスピードシンクロモードで使う

AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。ハイスピードシンクロは、ストロボをカメラに取り付けても、ワイヤレスでも使用できます。

AF360FGZをカメラに取り付けて撮影する場合

1 カメラのホットシューに付いているカバーを取り外し、AF360FGZ を取り付ける
2 カメラのモードダイヤルを回して、露出モードを**Tv**または**M**モードに設定する
3 AF360FGZの電源を入れる
4 AF360FGZのシンクロモードをHS⚡（ハイスピードシンクロ）に設定する
5 AF360FGZの充電完了を確認し、撮影する

- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の⚡も点灯します。
- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- 露出モードが**B**（バルブ）の場合、ハイスピードシンクロはできません。

ワイヤレスモードで使う

2台のAF360FGZを使用することで、カメラとストロボをコードで接続しないでストロボ撮影することができます。ハイスピードシンクロの機能は、ワイヤレスでも使用できます。

2台のAF360FGZは、必ず同じチャンネルに合わせてください。詳しくは、AF360FGZの説明書をご覧ください。

● **ワイヤレスモードで使用する**

1 AF360FGZを発光させたい位置に固定する
2 AF360FGZの電源スイッチを「WIRELESS」に合わせる
3 AF360FGZのワイヤレスモードをS（スレーブ）に設定する
4 カメラのモードダイヤルを回して、露出モードを**P**、**Tv**、**Av**または**M**モードに設定する
5 カメラ側のAF360FGZの電源スイッチを「WIRELESS」に合わせる
6 カメラ側のAF360FGZのワイヤレスモードを**M**（マスター）または**C**（コントロール）に設定する

- カメラの内蔵ストロボではワイヤレスモードは使用できません。
- AF360FGZのワイヤレススレーブモードはSLAVE1に設定してください。

ワイヤレスストロボ制御について（P-TTL撮影）

AF360FGZをワイヤレスで使用するときには、ストロボが発光されるまでに2台のAF360FGZ間で以下のような情報伝達が行なわれています。

シャッターボタンを全押しする

1 カメラ側のストロボが小光量発光（カメラ側の発光モードを伝達）
2 外付けストロボが小光量発光（被写体の状態を確認）
3 カメラ側のストロボが小光量発光（発光量を外付けストロボに伝達）
※ HS⚡（ハイスピードシンクロ）が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後カメラ側のストロボがもう一度小発光します。
4 外付けストロボが本発光

AF360FGZのワイヤレススレーブモードはSLAVE1に設定してください。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能がお使いいただけます。ストロボの種類によってご使用いただけない場合や使用条件がありますので、p.154の一覧表をご覧ください。

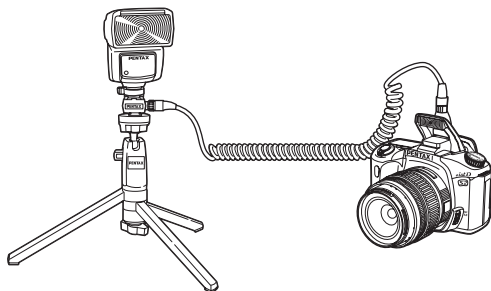
- 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。（p.52）
- 内蔵ストロボの赤目軽減機能と AF360FGZ のスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいます。スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。

後幕シンクロについて

内蔵ストロボとAF360FGZを組み合わせて同時に使用した場合、AF360FGZが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターをきってください。

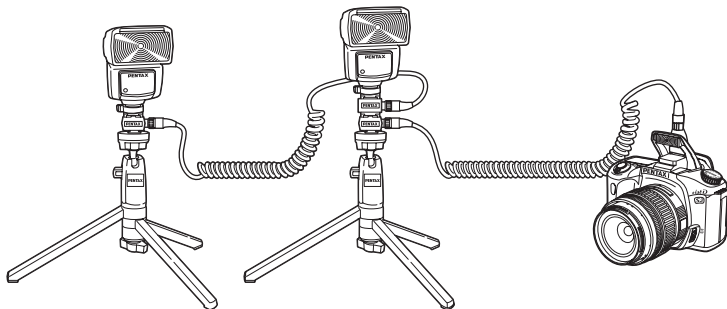
内蔵ストロボと外付けストロボの同時使用方法

下の図のようにカメラのホットシュー部分にホットシューアダプター F_G（別売品）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプター F（別売品）を付け、延長コードF5P（別売品）で接続します。オフカメラシューアダプター Fの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。
なお、内蔵ストロボと組み合わせて使用できるのは、P-TTLオート対応ストロボのみです。

内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合

ストロボの多灯撮影

外付けストロボAF360FGZを複数台組み合わせるか、AF360FGZ複数台と内蔵ストロボを組み合わせて、使用できます。つなぎ方は下の図のように、外付けストロボとホットシューアダプターF（別売品）にオフカメラシューアダプターF（別売品）を付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターFと、延長コードF5P（別売品）で接続します。

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF360FGZの使用をお勧めします。

2台以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合

AF360FGZを複数台、またはAF360FGZと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボAF360FGZを複数台組み合わせるか、AF360FGZと内蔵ストロボを組み合わせることで、2つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）をすることができます。

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤作動の原因となりますので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

1 外付けストロボをカメラから離して接続する。（p.158）
2 AF360FGZのシンクロモードを光量比制御モードに設定する。
3 カメラのモードダイヤルを回して、露出モードを**P**、**Tv**、**Av**または**M**モードに設定する。
4 外付けストロボと内蔵ストロボのストロボの充電完了を確認してから撮影する。

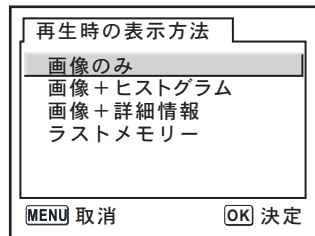
- 光量の比率は、外付けストロボ同士の場合、光量比制御に設定しているストロボが2に対して、それ以外のストロボが1、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、外付けストロボが2に対して内蔵ストロボが1になります。
- AF360FGZを2台、またはAF360FGZと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。
- 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1/90秒になります。

再生時の条件を設定する

再生時の表示方法を切り替える

再生時の最初にどのような情報を表示するかを設定します。
INFOボタンを押すと、表示情報が切り替わります。

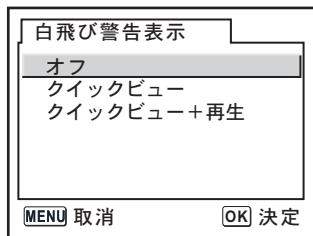
画像のみ	撮影画像のみを表示します。
画像＋ヒストグラム	画像とヒストグラムを表示します。
画像＋詳細情報	画像を左上に小さく表示し、残りの部分に撮影情報を表示します。
ラストメモリー	前回の表示方法で表示します。

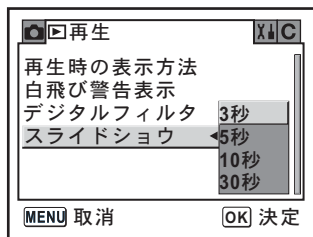
「▶再生」メニューの「再生時の表示方法」で設定します。（p.98）

それぞれの表示情報の詳細は、p.18をご覧ください。

白飛び警告を表示する

「白飛び警告表示」で「クイックビュー」または「クイックビュー＋再生」を選ぶと、クイックビュー画面と再生画面で、撮影した画像の白飛び部分が点滅表示されます。
初期設定は、「オフ」です。

オフ	白飛び警告をしない。
クイックビュー	クイックビュー時のみに白飛び警告表示をします。
クイックビュー＋再生	クイックビュー時、および再生時に白飛び警告表示をします。

「▶再生」メニューの「白飛び警告表示」で設定します。（p.98）

スライドショウの表示間隔を設定する

スライドショウでは、SDメモリーカードに保存された画像を連続して再生します。（p.68）
画像の表示間隔を「3秒」「5秒」「10秒」「30秒」の4種類から選択できます。初期設定は、「3秒」です。
「▶再生」メニューの「スライドショウ」で設定します。（p.98）

設定後に**OK**ボタンを押すと、スライドショウが始まります。

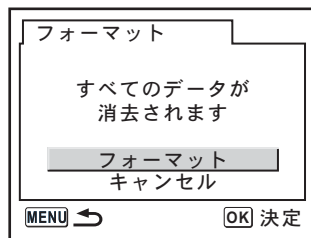
SDメモリーカードをフォーマットする

新しいSDメモリーカードを使用する前には、必ずカメラでフォーマットを行ってください。
フォーマットすると、SDメモリーカードに保存されているすべてのデータが消去されます。

- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードカバーを開けないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行なうと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

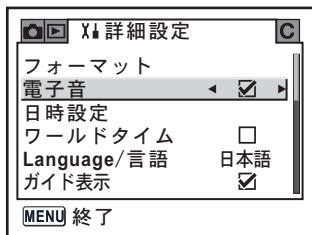
1 「詳細設定」メニューの「フォーマット」(p.99)を選ぶ

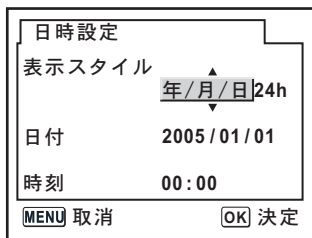
2 十字キー(▶)を押して、フォーマット画面を表示させる

3 十字キー(▲)で「フォーマット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影できる状態になります。

電子音をオン／オフする

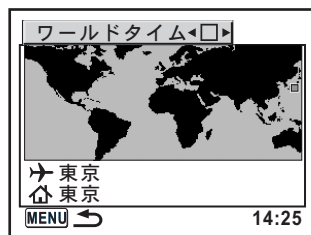
カメラ操作時の電子音のオン／オフを設定できます。初期設定は、「オン」です。
「X詳細設定」メニューの「電子音」で設定します。（p.99）

日時とその表示スタイルを変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、日付と時刻の表示形式を設定します。日付の表示形式は、「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選べます。時刻の表示形式は、「12h（12時間制）」「24h（24時間制）」から選べます。
☞日時を設定する （p.35）

ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」（p.33）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用する際、液晶モニターに、目的地の都市の日時を表示できます。

1 「詳細設定」メニューの「ワールドタイム」（p.99）を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ワールドタイム設定画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑	✈（目的地）で設定した都市の時刻を適用
□	⌂（現在地）で設定した都市の時刻を適用

4 十字キー（▼）を押す

選択枠が✈に移動します。✈の都市が点滅表示されます。

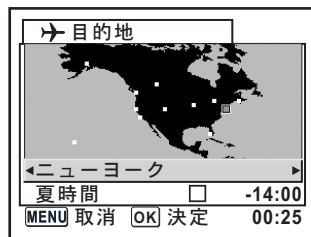
5 十字キー（▶）を押す

目的地設定の拡大画面が表示されます。
十字キー（◀▶）を押すと、拡大表示する地域が切り替わります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が都市に移動します。

7 十字キー（◀▶）で、目的地都市名を選ぶ

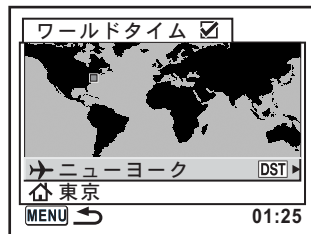
選択した都市の現在時刻、位置、時差が表示されます。

8 十字キー（▼）で「夏時間」を選択する

9 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

行き先が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

10 OKボタンを押す

ワールドタイムの設定が保存されます。

設定を続ける場合は、OKボタンを押してワールドタイム設定画面に戻ります。

11 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

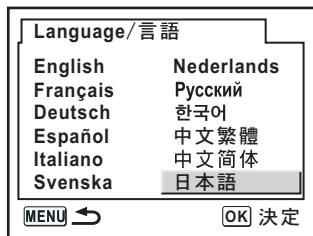
- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.167）をご覧ください。
- 手順4で⌂を選ぶと現在地の都市や夏時間を設定できます。
- ワールドタイムが☑（オン）になっていると、ガイド表示画面に✈が表示されます。（p.16）

都市名一覧

地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	マドリッド
	ロンドン
	パリ
	アムステルダム
	ミラノ
	ローマ
	ベルリン
	ストックホルム
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ
	エルサレム

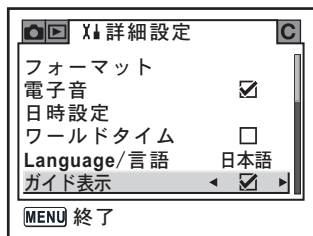
地域	都市名
アフリカ・西アジア	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム
オセアニア	パース
	アデレード
	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

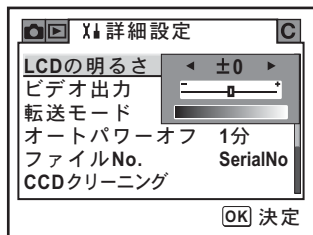
表示言語を設定する

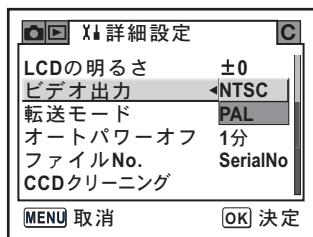
メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
「X詳細設定」メニューの「Language/言語」で設定します。（p.99）
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／イタリア語／スウェーデン語／オランダ語／ロシア語／韓国語／中国語（繁体字／簡体字）／日本語の11言語に対応しています。
☞言語を設定する （p.33）

ガイド表示をオン／オフする

メインスイッチをオンにしたときや、露出モードを変更したときに、液晶モニターにガイドを表示するかどうかを設定します。（p.16）

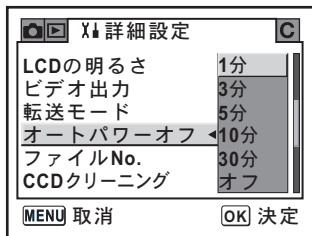
☑	ガイド表示あり
□	ガイド表示なし

「X詳細設定」メニューの「ガイド表示」で設定します。（p.99）

液晶モニターの明るさを設定する

液晶モニターの明るさを設定できます。屋外などで液晶モニターの表示が見えにくいときなどに設定してください。
「詳細設定」メニューの「LCDの明るさ」で設定します。（p.99）

ビデオ出力方式を選択する

テレビなどのAV機器をモニタにして再生するときの出力形式を、NTSC方式とPAL方式から選択します。
「詳細設定」メニューの「ビデオ出力」で設定します。（p.99）
☞AV機器と接続する （p.70）

ビデオ出力方式は地域によって異なります。日本国内では、NTSC方式です。

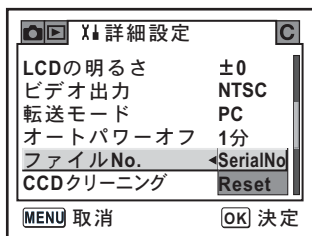
オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源がオフになるように設定できます。電源がオフになるまでの時間は、「1分」「3分」「5分」「10分」「30分」「オフ」から選択できます。初期設定は、「1分」です。
「X詳細設定」メニューの「オートパワーオフ」で設定します。（p.99）

スライドショウで再生しているとき、USB接続しているとき、リモコン撮影時およびメニュー、Fnメニュー表示中はオートパワーオフは働きません。

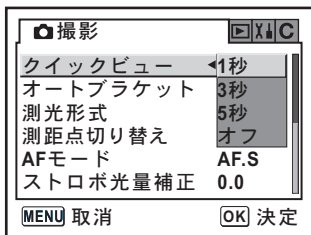
ファイルNo.の付け方を選択する

新しいSDメモリーカードを入れたときの画像のファイルNo.について設定します。初期設定は、「SerialNo」です。

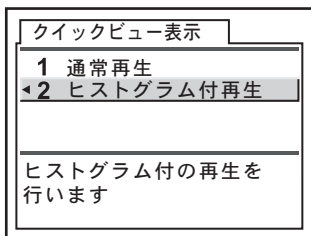
SerialNo	最後に撮影した画像のファイルNo.が記憶され、新しいSDメモリーカードを入れても続きのファイルNo.になります。
Reset	新しいSDメモリーカードを入れるたびに画像のファイル番号が一番小さな番号に戻ります。画像が記録されたSDメモリーカードを入れたときは、続きの番号で保存されます。

「X詳細設定」メニューの「ファイルNo.」で設定します。（p.99）

クイックビューを設定する

表示時間を設定する

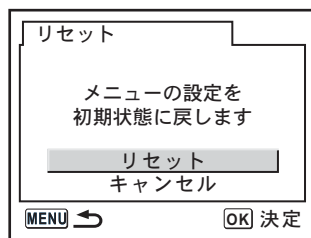
クイックビューの表示時間を「1秒」「3秒」「5秒」「オフ」から選べます。初期設定は、「1秒」です。
設定は「撮影」メニュー（p.98）の「クイックビュー」で設定します。

クイックビュー時にヒストグラムを表示する

クイックビュー時にヒストグラムを表示するように設定できます。
「**C** カスタム」メニュー（p.100）の「クイックビュー表示」で「2 ヒストグラム付再生」を選択します。初期設定では、ヒストグラムは表示されません。

設定をリセットする

撮影／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー、「再生」メニュー、「詳細設定」メニューの設定内容を初期状態に戻します。
ただし、日時設定、言語、ビデオ出力、ワールドタイムは、リセットされません。

1 **「詳細設定」メニューの「リセット」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押して、リセット画面を表示させる**

3 **十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ**

4 **OK ボタンを押す**

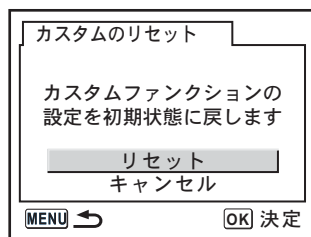
撮影または再生できる状態になります。

カスタムファンクションメニューのリセット

「Cカスタム」メニューの設定内容をすべて初期状態に戻します。
「撮影」メニュー、「再生」メニュー、「詳細設定」メニューの内容はリセットされません。

1 「Cカスタム」メニューの「リセット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押して、リセット画面を表示させる

3 十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

撮影または再生できる状態になります。

6 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
表示内容の意味は、以下のとおりです。

ラストメモリー設定
する　：カメラの電源をオフにしても現在の設定（ラストメモリー）が保存される
しない：カメラの電源をオフにすると初期設定に戻る

リセット設定
する　：リセット（p.172）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

「撮影」メニュー

項目	初期設定	ラストメモリー設定	リセット設定	参照
画像仕上	（鮮やか）	する	する	p.108
記録サイズ	6M（3008×2000）	する	する	p.109
画質	★★★（S.ファイン）	する	する	p.110
彩度	（0）	する	する	p.111
シャープネス	（0）	する	する	p.111
コントラスト	（0）	する	する	p.111
クイックビュー	1秒	する	する	p.171
オートブラケット	±0.5／0－＋	する	する	p.146
測光方式	（分割測光）	する	する	p.131
測距点切り替え	AUTO（オート）	する	する	p.122
AFモード	**AF.S**（シングルモード）	する	する	p.121
ストロボ光量補正	0.0	する	する	p.147

「再生」メニュー

項目	初期設定	ラストメモリー設定	リセット設定	参照
再生時の表示方法	画像のみ	する	する	p.161
白飛び警告表示	オフ	する	する	p.161
デジタルフィルタ	白黒	する※	する	p.71
スライドショウ	3秒	する	する	p.68

※スリムフィルタのスリム度とソフトフィルタのソフト度のみ設定が保存されます。

「詳細設定」メニュー

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>初期設定</th><th>ラストメモリー設定</th><th>リセット設定</th><th>参照</th></tr>
<tr><td colspan="2">フォーマット</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>p.163</td></tr>
<tr><td colspan="2">電子音</td><td>☑（オン）</td><td>する</td><td>する</td><td>p.164</td></tr>
<tr><td colspan="2">日時設定</td><td>初期設定による</td><td>する</td><td>しない</td><td>p.164</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ワールドタイム</td><td>ワールドタイム設定</td><td>□（オフ）</td><td>する</td><td>する</td><td rowspan="5">p.165</td></tr>
<tr><td>現在地（都市）</td><td>初期設定による</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td>現在地（夏時間）</td><td>初期設定による</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td>目的地（都市）</td><td>現在地と同じ</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td>目的地（夏時間）</td><td>現在地と同じ</td><td>する</td><td>しない</td></tr>
<tr><td colspan="2">Language/言語</td><td>初期設定による</td><td>する</td><td>しない</td><td>p.168</td></tr>
<tr><td colspan="2">ガイド表示</td><td>☑（オン）</td><td>する</td><td>する</td><td>p.168</td></tr>
<tr><td colspan="2">LCDの明るさ</td><td>0</td><td>する</td><td>する</td><td>p.169</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビデオ出力</td><td>初期設定による</td><td>する</td><td>しない</td><td>p.169</td></tr>
<tr><td colspan="2">転送モード</td><td>PC</td><td>する</td><td>する</td><td>p.84</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートパワーオフ</td><td>1分</td><td>する</td><td>する</td><td>p.170</td></tr>
<tr><td colspan="2">ファイルNo.</td><td>SerialNo</td><td>する</td><td>する</td><td>p.170</td></tr>
<tr><td colspan="2">CCDクリーニング</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>p.183</td></tr>
<tr><td colspan="2">リセット</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>p.172</td></tr>
</table>

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	ラストメモリー設定	リセット設定	参照
設定	□（オフ）	する	する	p.100
ノイズリダクション	オン	する	する	p.141
露出設定ステップ	1/2 EVステップ	する	する	p.143
感度AUTO時の調整範囲	ISO 200-800	する	する	p.115
ISO感度警告表示	オフ	する	する	p.116
測距点と露出の関連付	オフ	する	する	p.132
測光作動時間	10秒	する	する	p.132
AFロック時のAE-L	オフ	する	する	p.125
撮影可能枚数表示	撮影可能枚数	する	する	p.100
撮影時のOKボタン	オフ	する	する	p.120、p.122
MでのAE-Lボタン	プログラムライン	する	する	p.141
スーパーインポーズ	オン	する	する	p.122
リモコン時のAF	オフ	する	する	p.100
Sレンズ使用時のFI	利用不可	する	する	p.101
絞りリングの使用	禁止	する	する	p.182
充電中のレリーズ	オフ	する	する	p.148
クイックビュー表示	通常再生	する	する	p.171
拡大再生の開始倍率	1.2倍	する	する	p.101
マニュアルWBの測定	画面全体	する	する	p.113
色空間	sRGB	する	する	p.117
カスタムのリセット※	—	—	—	p.173

※「**C**カスタム」メニューの設定リセットを行います。

Fnメニュー

項目	初期設定	ラストメモリー設定	リセット設定	参照
ドライブモード	□（ヒトコマ撮影）	しない*1	する	p.53、p.55、p.59、p.144
ストロボモード	AUTO（オート）	する	する	p.49
ホワイトバランス	**AWB**（オート）	する	する	p.112
ISO感度	AUTO	する	する	p.115
DPOF設定	—	する	しない	p.79
デジタルフィルタ	白黒	する*2	する	p.71
スライドショウ	3秒	する	する	p.68

*1 連続撮影のみ設定が保存されます。
*2 スリムフィルタのスリム度とソフトフィルタのソフト度のみ設定が保存されます。

各種レンズを組み合わせたときの機能

各種レンズの使用について
このカメラで使用できるレンズは、DAおよびFA Jレンズまたは絞りリングに**A**位置のあるD FA・FA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズあるいは、D FA・FA・F・Aレンズで絞りを**A**位置から外した場合は、「絞りリングの使用」設定時の注意（p.182）をご覧ください。

レンズ［マウント名］／機能	DA・D FA・FA J・FAレンズ［KAF、KAF2］*3	Fレンズ［KAF］*3	Aレンズ［KA］
オートフォーカス（レンズ単体使用）	○	○	－
（AFアダプター 1.7× 使用）*1	－	－	○
マニュアルフォーカス（フォーカスインジケーター表示の利用）*2	○	○	○
（マット面の利用）	○	○	○
11点測距	○	○	×
パワーズーム	×	－	－
絞り優先自動露出	○	○	○
シャッター優先自動露出	○	○	○
マニュアル露出	○	○	○
P-TTLオートストロボ *4	○	○	○
分割測光（16分割）	○	○	○

○：絞りが**A**位置であれば、その他は制限なく使用可能
×：使用不可能

*1 レンズの開放F値がF2.8、およびそれより明るいレンズのみ。**A**位置でのみ使用可。
*2 レンズの開放F値がF5.6、およびそれより明るいレンズのみ使用可。
*3 F・FAソフト85mmF2.8、およびFAソフト28mmF2.8では「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.100）で「2 許可」を設定した上で手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。
*4 内蔵ストロボおよびAF360FGZ使用時。

レンズ名称とマウント名称について
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）とDA・D FA・FA J ・FレンズのマウントはすべてKAFマウントです。FAズームレンズのうち、パワーズームが可能なレンズはKAF2マウント、パワーズームのできないレンズはKAFマウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。なお、このカメラにはパワーズーム機能はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて
絞り**A**（オート）ポジションのあるレンズを絞り**A**（オート）以外で使用したり、**A**（オート）ポジションのないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.101）で「2 許可」を設定しないかぎり、カメラは作動しません。「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」で「2 許可」を設定した場合は機能制限がありますので、「絞りリングの使用」設定時の注意 （p.182）をご覧ください。
DA・FA Jレンズまたは絞り**A**（オート）のポジションのあるレンズを絞り**A**（オート）で使用すると、カメラの露出モードをすべて利用できます。

使用レンズと内蔵ストロボについて
Aレンズ以前のレンズおよびソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
オートストロボとしては使用できませんので、ご注意ください。

「絞りリングの使用」設定時の注意

「絞りリングの使用」設定時の注意

「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」（p.101）で「2 許可」を選択すると、D FA・FA・F・Aレンズの絞りを**A**ポジション以外にしたり、**A**ポジションのないレンズを取り付けても、シャッターがきれるようになります。ただし、下表のような制約を受けますので、ご使用の際はご注意ください。

メモ　絞りを**A**以外にセットした場合、モードダイヤルが**P**、**Tv**になっていても、**Av**（絞り優先）モードで作動します。

使用レンズ	露出モード	制約内容
D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままで絞られません。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**（絞り優先）モード	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	
FA・Fソフト85mm　FAソフト28mm（レンズ単体）	**Av**（絞り優先）モード	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。なお、被写界深度確認操作（プレビュー）を行うと測光スイッチが入り、露出の確認ができます。
すべてのレンズ	**M**（マニュアル）モード	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。ファインダー内には、絞り表示が[F--]と表示されます。なお、被写界深度確認操作（プレビュー）を行うと測光スイッチが入り、露出の確認ができます。

CCDのクリーニングについて

CCDに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CCDのクリーニングが必要になります。CCDは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を請け賜っております。

注意

- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- 露出モードの**B**（バルブ）を使ってのCCDクリーニングは行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CCDに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- クリーニングをするときは、ACアダプターの使用をお勧めします。
- 電池容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません」と液晶モニターに表示されます。
- AC アダプターを使用しない場合は、容量が十分に残っている電池を使用してください。クリーニングの途中で電池容量が少なくなると液晶モニターにメッセージが表示され、警告音が鳴りますので、すみやかにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCCDセンサー部を破損する恐れがあります。

- ACアダプター（別売品）の使用をお勧めします。
- CCDクリーニング中はセルフタイマーランプが点滅し、表示パネルに「Cln」と表示されます。

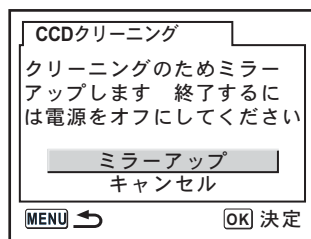
1 カメラの電源をオフにして、レンズを取り外す

2 カメラの電源をオンにする

3 「詳細設定」メニューの「CCDクリーニング」を選ぶ

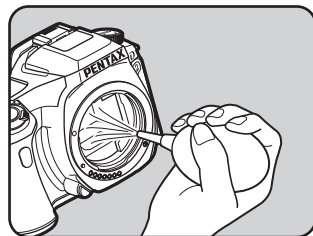
4 十字キー（▶）を押す

CCDクリーニング画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「ミラーアップ」を選ぶ

6 OK ボタンを押す

ミラーがアップした状態に固定されます。

7 CCDをクリーニングする

CCD に付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CCDがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCCDを布で拭かないでください。

8 カメラの電源をオフにする

9 ミラーが元に戻ったことを確認後、レンズを取り付ける

別売アクセサリー

このカメラには、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお問い合わせください。

ACアダプターキット K-AC10J

コンセントからカメラへ電源を供給します。

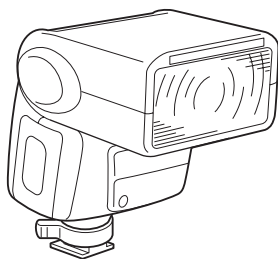
ケーブルスイッチ CS-205

レリーズコードです。コードの長さは0.5mです。

リモートコントロールF

カメラ前面5m以内からのリモコン撮影に使用します。

ストロボ関連

オートストロボAF360FGZ
ガイドナンバーが最大36（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

オフカメラシュークリップCL－10
AF360FGZなどをカメラから離して使用するときのセッティング用クリップ。

ホットシューアダプター FG

延長コードF5P

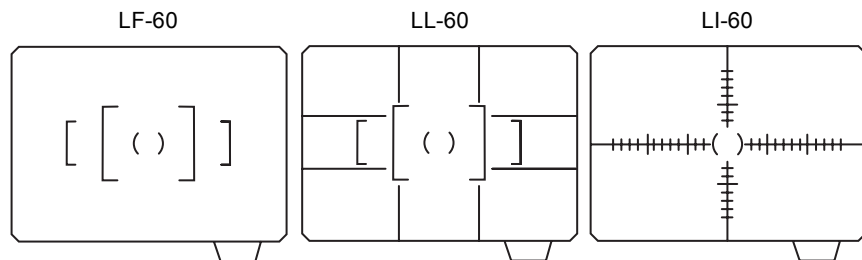
オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コード。

ファインダー関連

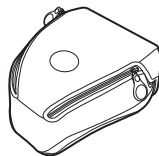
マグニファイヤー FB
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

レフコンバーター A
ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍に切り替えることができます。

視度調整レンズアダプター M
視度を調整するためのアクセサリーです。ファインダーの接眼部に取り付けて使用します。
視度調整レンズアダプター Mは、$-5 \sim +3m^{-1}$（毎メートル）までの8種類ございますので、ご自分の視力に合った視度調整レンズアダプターをお使いください。

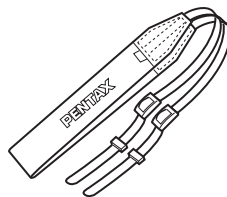
交換フォーカシングスクリーン
LF-60 ：AFフレームマット（標準品）
LL-60 ：AF分割マット
LI-60 ：AFスケールマット

カメラケース

カメラケースO-CC34

その他

以下のアクセサリーは、カメラの同梱品と同じものです。

MEファインダーキャップ

アイカップFL

カメラストラップO-ST10

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量が ありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.29、p.73） 画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります。（p.109、p.110）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。（p.29）
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。（p.163）
カードが ロックされています	ロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。（p.30）
カードが ロックされています 回転情報を保存できません	
この画像は プロテクトされています 回転情報は保存できません	回転させようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。（p.77）
このカードは利用できません	カメラで使用できないSDメモリーカードが入っています。カメラで使用可能なSDメモリーカードを入れてください。
電池容量がなくなりました	電池残量がありません。新しい電池と交換してください。（p.25）
電池容量がたりないためクリーニングをおこなえません	CCDクリーニング時に電池容量が足りない場合に表示されます。電池を交換するか、ACアダプター（別売品）を使用してください。（p.28）

エラーメッセージ	内容
フォルダが 作成できません	最大のフォルダNo.（999）およびファイルNo.（9999）が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.163）
画像を保存できませんでした	SDメモリーカードの異常で撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく保存 できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定のファイルが書き込めません。不要な画像を消去して、再度DPOF設定をしてください。（p.73）
RAW画像は設定できません	RAW画像に対してDPOF設定はできません。
RAW画像には 対応していません	RAW画像にデジタルフィルタは使用できません。
フィルタ処理できる 画像がありません	「▶再生」メニューからデジタルフィルタを起動した場合に、保存されている画像がすべてRAWあるいは、他のカメラで撮影された画像である場合に表示します。
この画像をフィルタ 処理できません	他のカメラで撮影した画像に対して、Fn メニューからデジタルフィルタを実行した場合に表示します。
DPOFファイルが ありません	DPOF設定されたファイルがありません。DPOF設定をしてから、DPOF指定印刷をしてください。（p.79）
プリンタエラーです	プリンターにエラーが発生したため、印刷できません。プリンターのエラーを解消してから、印刷してください。
用紙がありません	プリンターに用紙がありません。プリンターに用紙をセットしてから、印刷してください。
インクがありません	プリンターのインクが切れています。プリンターのインクを交換してから、印刷してください。
用紙が詰まりました	印刷中に用紙が詰まりました。詰まった用紙を取り除いてから、印刷してください。
データエラーです	印刷中にデータエラーが発生しました。

困ったときは

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れ方が間違っている	バッテリーの挿入方向を確認してください。 電池室の⊕⊖表示にしたがってバッテリーを入れなおしてください。(p.25)
	バッテリーの残量がない	容量のあるバッテリーに交換するか、ACアダプターを使用してください。(p.28)
シャッターが切れない	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか(p.134)、「**C**カスタム」メニューの「絞りリングの使用」で「2 許可」を選択してください(p.182)。
	内蔵ストロボが充電中	充電が終わるまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。(p.29、p.73)
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの(青空や白壁など)、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定(シャッターボタン半押し)したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。(p.126)
	AFエリアに被写体が入っていない	ファインダー中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、 AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定(シャッターボタン半押し)したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	フォーカスモードレバーが **MF** になっている	フォーカスモードレバーを **AF** にしてください。（p.118）
	フォーカスモードが **AF.C**（コンティニュアスモード）になっている	フォーカスモードを **AF.S**（シングルモード）にしてください。（p.121）
	撮影モードが（動体）モードになっている	撮影モードを（動体）モード以外にしてください。（p.47）
AEロックが働かない	**M**（マニュアル）モード、**B**（バルブ）モードでは、AEロックできない	**M**（マニュアル）モード、**B**（バルブ）モード以外にしてください。
内蔵ストロボが発光しない	ストロボモードが「自動発光」または「自動発光＋赤目軽減」になっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません	ストロボモードを「手動発光」または「手動発光＋赤目軽減」にしてください。（p.49）
	モードダイヤルが（ストロボオフ）になっている	モードダイヤルを（ストロボオフ）以外に合わせてください。（p.47）
パワーズームが動かない	このカメラはパワーズームに対応していません	マニュアルズームをご使用ください。（p.48）
パソコンとのUSB接続がうまくいかない※	転送モードが「PictBridge」になっている	転送モードを「PC」に切り替えてください。
	USBデータ転送でエラーが発生している	転送モードを「PC-F」に切り替えてください。
プリンターとのUSB接続がうまくいかない	転送モードが「PC」あるいは「PC-F」になっている	転送モードを「PictBridge」に切り替えてください。（p.84）

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、電池を入れ直してから電源をオンにするとミラーが下がります。これらを行ないカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

※ パソコンとの接続については、別冊の「PENTAX PHOTO Browser 2.1・PENTAX PHOTO Laboratory 2.1使用説明書」のp.13をご覧ください。

主な仕様

型　式	P-TTLストロボ内蔵、マルチモードTTL自動露出オートフォーカス一眼レフデジタルカメラ
有効画素数	610万画素
撮像素子	総画素数631万画素、原色フィルター／インターラインインターレーススキャンCCD
記録画素数	6M（RAW：3008×2008／JPEG：3008×2000ピクセル）、4M（2400×1600ピクセル）、1.5M（1536×1024ピクセル）
感度	オート、マニュアル（200／400／800／1600／3200：標準出力感度）
記録方式	RAW、JPEG（Exif2.21）、DCF準拠、DPOF対応、Print Image Matching III対応
画質	**RAW**、★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
記録媒体	SDメモリーカード

撮影枚数

サイズ	画質	容量			
		1GB	512MB	256MB	128MB
6M 3008×2008	**RAW**	約90枚	約46枚	約22枚	約11枚
6M 3008×2000	★★★	約330枚	約167枚	約78枚	約34枚
	★★	約607枚	約311枚	約149枚	約70枚
	★	約966枚	約498枚	約242枚	約117枚
4M 2400×1600	★★★	約459枚	約234枚	約111枚	約51枚
	★★	約807枚	約415枚	約201枚	約96枚
	★	約1397枚	約674枚	約330枚	約161枚
1.5M 1536×1024	★★★	約880枚	約453枚	約220枚	約106枚
	★★	約1397枚	約722枚	約354枚	約173枚
	★	約2151枚	約1115枚	約549枚	約271枚

圧縮比：★★★（S.ファイン）＝1/3、★★（ファイン）＝1/6、★（エコノミー）＝1/12

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（D：昼光色、N：昼白色、W：白色）、白熱灯、ストロボ、マニュアル
液晶モニター	2.5型約21万画素低温ポリシリコンTFTカラーLCD（バックライト付）
再生機能	1コマ、9画面、拡大（最大12倍まで、スクロール可）、回転表示、スライドショウ、ヒストグラム、白飛び表示
デジタルフィルタ	白黒、セピア、ソフト、スリム（撮影後処理のみ）

露出モード	**P** プログラム、**Tv** シャッター優先、**Av** 絞り優先、**M** マニュアル、**B** バルブ ピクチャーモード　AUTO PICT オートピクチャー、標準、人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、ストロボオフ
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター＝1/4000秒～30秒（無段階）、マニュアルシャッター＝1/4000秒～30秒（1/2 EVステップまたは1/3 EVステップの選択可）、バルブ、電磁レリーズ、電源オフでシャッターロック
マウント	ペンタックスバヨネットKAFマウント（AFカプラー、レンズ情報接点付Kマウント）
使用レンズ	KAF2（パワーズーム不可）、KAFマウントレンズ、KAマウントレンズ
オートフォーカス機構	TTL位相差検出式（SAFOX Ⅷ）、オートフォーカス作動輝度範囲EV 0～19（ISO 200相当）（F1.4レンズ付き）、フォーカスロック可能、フォーカスモード＝**AF.S**（シングル）／**AF.C**（コンティニュアス）／**MF**、測距点切り替え可能
ファインダー	ペンタプリズムファインダー、ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、視野率95％、倍率0.95倍（1.4／50mm・∞）、視度＝–2.5m-1～+1.5m-1（毎メートル）
ファインダー内表示	フォーカス表示●合焦＝点灯／非合焦＝点滅、⚡点灯＝内蔵ストロボ充電完了、点滅＝ストロボお勧め、シャッター速度、絞り値、セレクトダイヤル有効表示、測距点、✱＝AEロック、撮影可能枚数、☒＝露出補正、☐＝マニュアルホワイトバランス表示、ピクチャーモード表示、**MF**＝マニュアルフォーカス表示、**ISO**＝ISO警告
LCDパネル表示	⚡点灯＝内蔵ストロボ充電完了、点滅＝ストロボお勧め、⚡AUTO＝自動発光、⚡AUTO ◉＝赤目軽減自動発光、□＝1コマ撮影、▣＝連続撮影、⏲＝セルフタイマー、▯＝リモコン撮影、⊏⊐＝電池消耗警告、▣＝オートブラケット（露出設定ステップは、1/2 EVまたは1/3 EVから選択可）、◙＝中央重点測光、⊡＝スポット測光、▦＝測距点セレクト、⊡＝測距点中央、シャッター速度、絞り値、ホワイトバランス、撮影可能枚数、☒＝露出補正値、USB接続時に**PC**（マスストレージ）／**Pb**（PictBridge）を表示
被写界深度確認機能	電子式（全露出モードで使用可能）
セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒／2秒（ミラーアップ機能あり）、電子音の有無設定可能、作動後解除可能
ミラー	クイックリターンミラー、ミラーアップ機能（2秒セルフ時可能）
オートブラケット	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能（露出設定ステップは、1/2 EVまたは1/3 EVから選択可）

露出計・測光範囲	TTL開放分割測光（16分割）、測光範囲＝EV 1～21.5（50mm F1.4 ISO 200）、中央重点・スポット測光可能
露出補正	±2.0 EV（露出設定ステップは、1/2 EVまたは1/3 EVから選択可）
AEロック	ボタン式（タイマー式初期値：20秒間）、シャッターボタン半押しで継続
内蔵ストロボ	直列制御P-TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー15.6（ISO 200/m）、28mmレンズの画角（35mm換算）をカバー、同調速度1/180秒以下、日中シンクロ・低速シンクロ可能、ISO連動範囲＝P-TTL：200～3200
外付けストロボ同調	ホットシュー（X接点専用ストロボ接点付き）専用ストロボ連動ISO連動範囲＝P-TTL: 200～3200、自動発光可能、赤目軽減機能可能、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ
カスタムファンクション	19項目設定可能
時計機能	ワールドタイム設定、世界70都市に対応（28タイムゾーン）
電源	CR-V3を2本、または単3形リチウム電池、単3形ニッケル水素充電池、単3形アルカリ電池のいずれか4本
電池消耗警告	バッテリーマーク ▭ 点灯（点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯）
入出力ポート	USB／VIDEO端子（USB2.0（ハイスピード対応））、DC入力端子、ケーブルスイッチ端子
ビデオ出力方式	NTSC／PAL
PictBridge	対応プリンター　PictBridge対応のプリンター 印刷モード　1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
大きさ・質量（重さ）	125mm（幅）× 92.5mm（高）× 67mm（厚）（突起部を除く）505g（ボディーのみ 電池別）
付属品	ホットシューカバー FK、アイカップFL、ME ファインダーキャップ、ボディーマウントカバー、USBケーブルI-USB17、ビデオケーブルI-VC28、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW43、ストラップO-ST10、単3形アルカリ電池（4本）、使用説明書（本書）、PENTAX PHOTO Browser 2.1・PENTAX PHOTO Laboratory 2.1使用説明書、保証書
対応言語	日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、オランダ語、ロシア語、韓国語、中国語（繁体字／簡体字）

リモートコントロールF（別売）仕様

リモコン	赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタンを押して即時あるいは約3秒後に撮影、作動距離＝カメラ前面約5m以内
電源	リチウム電池（CR1620）1個
大きさ	22mm（幅）× 53mm（長）× 6.5mm（厚）
質量	7g（電池含む）

用語解説

AdobeRGB

米アドビシステム社が商業印刷原稿作成用に推奨している色空間。sRGBよりも広い色再現域をもち、印刷での色再現域をほぼカバーできるため、パソコン上での画像編集段階において、印刷でしか再現できない色域情報を失うことがありません。なお、対応しないソフトで開くと色が薄く見えてしまいます。

CCD（Charge Coupled Devices）

レンズを通して入ってきた光を電気信号に変換する撮像素子。

DCF（Design rule for Camera File system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、デジタルカメラ用のファイルシステムに関する規格。

DPOF（Digital Print Order Format）

画像を記録したカードに、プリントするコマや枚数などの情報を書き込むためのルール。DPOF対応のプリント取り扱い店に持っていくと、簡単にプリントすることができます。

EV（Exposure Value）

露出値。絞り値とシャッター速度の組み合わせで決まります。

Exif（Exchangeable image file format for digital still camera）

電子情報技術産業協会（JEITA）によって標準化された、デジタルカメラ用のファイルフォーマットに関する規格。

JPEG

画像の圧縮方式で、画質を★★★（S. ファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）に設定すると、画像はJPEG形式で記録されます。JPEG形式で記録した画像は、パソコンで閲覧したり、電子メールに添付するのに適しています。

NDフィルター

写真自体には影響を与えずに、明るさだけを調整するフィルターで、いろいろな濃度のものがあります。

NTSC／PAL
ビデオ出力方式のことで、主に日本、北米、韓国ではNTSCが用いられ、主にヨーロッパ諸国や中国ではPALが用いられています。

RAWデータ
CCDからの生出力を記録した画像データ。RAWデータはカメラ内部で画像処理される前の生データなので、RAW以外では撮影前にしておかなければならない設定（ホワイトバランス・コントラスト・彩度・シャープネスなど）を、撮影された後に1コマ1コマ個別に設定できます。またRAWデータはJPEGおよびTIFFの8bitデータに対し、16倍の情報量を持った12bitデータなので、大変豊かな階調表現が可能です。パソコンに転送し、付属のソフトウェアを使用することで、JPEGやTIFFなど設定の異なる画像データを作成することができます。

sRGB（standard RGB）
IEC（International Electrotechnical Commission、国際電気標準会議）が定める色空間の国際規格。一般的なパソコン用モニタの標準値から定義された色空間で、Exifの標準色空間としても使用されています。

色温度
被写体を照らしている光源の色を数値で表したもの。絶対温度で表され、単位はケルビン（K）を使用します。色温度が高くなるにつれて光の色は青味を帯び、色温度が低くなるにつれ光の色は赤味を帯びていきます。

色空間
色スペクトルのうちで使用する範囲を定義したもの。デジタルカメラでは、Exifの定義により「sRGB」が標準として使われています。このカメラでは、sRGBより多くの色を表現できる「AdobeRGB」も色空間として使用できます。

オートブラケット
露出を自動で変えて撮る機能。シャッターボタンを押したときに、補正なしの画像、マイナス補正した画像、プラス補正した画像を連続して撮影できます。

画質
画像の圧縮率。圧縮率が低くなるにつれて画像はきめ細かく、圧縮率が高くなるにつれて画像は粗くなります。

カメラぶれ（手ぶれ）
シャッターが開いている間にカメラが動いてしまったために、被写体全体が流れたように写ってしまう現象。シャッター速度が遅いときに発生しがちです。
感度を高めたり、ストロボを使ったりしてシャッター速度を速くする、また、三脚などを使ってカメラを固定することで防止できます。また、カメラぶれは、シャッターを押す動作で発生しがちなので、セルフタイマーやリモコン、ケーブルスイッチを使うのも有効です。

感度
光の明るさを感じる度合い。感度が高いほど、暗いところでも速いシャッター速度で撮影できるため、カメラぶれしにくくなります。しかし、感度が上がるほど、画像のノイズが多くなります。

記録サイズ
画像の大きさを点（ピクセル）の数で表したもの。画像を構成する点（ピクセル）の数が多くなるほど、画像の大きさは大きくなります。

ケラレ
撮影した写真の周辺部がフードやフィルターなどでさえぎられて黒くなったり、レンズでストロボ光の一部がさえぎられて影になる現象。

絞り
光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてCCDにあたる光の量を調整する機構のこと。

シャッター速度
シャッターを開き、光をCCDに当てている時間。シャッター速度を速くしたり、遅くしたりすることで、CCDにあたる光の量を調整します。

白飛び
画像の明るい部分の階調が失われ、真っ白になってしまうこと。

測距点
ファインダー内でピントを合わせる位置。

測光方式
露出を決めるために、被写体の明るさを計測する方式。このカメラでは、「分割測光」「中央重点測光」「スポット測光」から選べます。

ノイズリダクション
シャッター速度を遅くしたときに発生するノイズ（画面のざらつきやムラ）を減らす処理。

被写界深度
ピントが合って見える範囲。絞り値、レンズの焦点距離、被写体までの距離によって変わります。例えば、絞り値を大きくすると深くなり、小さくすると浅くなります。

ヒストグラム
画像の最も暗い部分から最も明るい部分までの階調の分布をグラフ化したもの。横軸が明るさ、縦軸が画素数を表しています。画像の露光状態を知りたいときに便利です。

ホワイトバランス
撮影時の光源に合わせて色温度を調整し、被写体を見た目どおりの色合いに補正する機能。

露出補正
シャッター速度と絞りを変えて、画像の明るさを調整すること。

索引

記号

数字

A

B

C

D

F

I

M

N

O

P

R

S

T

U

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックス
ピックアップリペアサービス

全国（一部の離島を除く）どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供する便利なサービスです。

電話受付
TEL 0120-737-919（フリーダイヤル）
TEL 03-3975-4314（携帯・PHS用）
（受付時間：土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く9：00～17：00）

インターネット受付
URL：https://www.pentax.co.jp/japan/support/

FAX受付
FAX 03-3975-4318
インターネット受付のURLアドレスからFAX申込書をダウンロードしてお使いください。

[宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ]
ペンタックスサービス（株）東日本修理センター
TEL 03-3975-4341（代）
〒175-0082 東京都板橋区高島平6-6-2 ペンタックス（株）流通センター内
営業時間午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター
TEL 06-6271-7996（代）
〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス　**http://www.pentax.co.jp/**

[弊社製品に関するお問い合わせ]
お客様相談センター　**ナビダイヤル　0570-001313**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHSの方は、右記の電話番号をご利用ください。　**☎03-3960-3200（代）**

〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9

営業時間　午前9：00～午後6：00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

[ショールーム・写真展・修理受付]
ペンタックスフォーラム　**☎03-3348-2941（代）**

〒163-0401　東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル1階（私書箱240号）

営業時間　午前10：30～午後6：30
（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属しています CD-ROM と弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PENTAX PHOTO Browser 2.1 ／ PENTAX PHOTO Laboratory 2.1 使用説明書」（Windows をお使いの方：p.10、Mac OS をお使いの方：p.12）をご参照ください。

ペンタックス株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57580　01-200508
Printed in Philippines